

平成 6 年度

三重県埋蔵文化財センター年報 6

1995・3

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

埋蔵文化財は、私たちの祖先がその時代を生き証であり、また、当時の生活の有様を今に伝える貴重な財産であります。しかし、近年の著しい開発事業の増加に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され、そして消滅してゆきました。しかし一方で、発掘調査により発見された新たな事実は、歴史に対する認識、常識を立証するものであったり、また覆すものであったりして、私たちのロマンをなおいっそうかき立ててくれます。本年度も、県内各地で開催された現地説明会や展示会等を通じて多くの方々に歴史に対する興味を、また、埋蔵文化財保護に対するご理解を深めていただくことができたものと思っております。

この冊子は、三重県内で本年度に実施された各種の発掘調査と当埋蔵文化財センターの事業内容を簡単にまとめたものですが、今後の埋蔵文化財保護と活用の一助として、ご活用いただければ幸いに存じます。

埋蔵文化財を守り、伝えていくことは、次代への大きな課題であります。当埋蔵文化財センターでは、あらゆる機会を通して埋蔵文化財の保護・活用に務めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 川村 政 敬

例 言

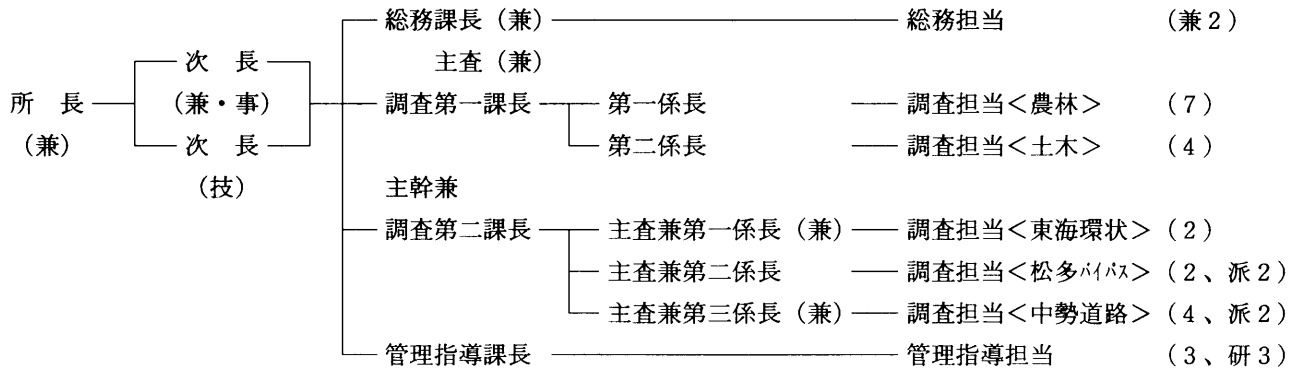
1. この冊子は、平成6年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。
2. II. 平成6年度緊急発掘調査については、平成6年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査成果および、県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。なお、各遺跡の緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。
3. 本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、管理指導課が中心となって行った。

目 次

I 組織及び業務体系	1
II 平成6年度緊急発掘調査	4
1. 緊急発掘調査一覧	4
2. 発掘調査の概要	12
III 埋蔵文化財保護体制の充実	62
1. 各種会議	62
2. 埋蔵文化財発掘技術者研修	63
3. 文化財保護に関する指導・協力	65
IV 資料の整理・保管・公開	70
1. 資料の整理・保管	70
2. 科学的保存処理	70
3. 資料の公開	70
4. 保管遺物等の貸出・写真等の掲載及び閲覧許可	73
5. 保管遺物の長期貸出	77
6. 出土文化財の寄贈	77
7. 斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧	78
V 行政資料	79
1. 行政手続きの施行及びこれに伴う文化財保護法の一部改正等について（文化庁通達）	79
2. 都道府県教育委員会への権限の委任について（文化庁通知）	82
3. 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 の一部改正について（文化庁通知）	83
4. 「近代文化遺産の保存と活用について（報告）〔記念物分科会関係〕」 の送付について（文化庁通知）	85
5. 埋蔵文化財発掘調査報告書の抄録作成について（文化庁依頼）	88
6. 県、市町村別の発掘調査件数および面積の実績	93
7. 平成6年度 新発見遺跡一覧	94
《付 編》	
1. 三重県文化財調査員名簿	96

I. 組織及び業務体系

〔組織〕



職員数 43名 (兼務6名、専任30名、派遣4名、研修3名)

〔分掌事務〕

総務課

1. 公印の管理に関する事
2. 職員の身分及び服務に関する事
3. 予算及び経理に関する事
4. 給与及び旅費等の支給に関する事
5. 契約及び入札事務に関する事
6. 施設、設備の保守管理に関する事
7. 文書の収発に関する事
8. 職員の健康、福利厚生に関する事
9. 防災管理に関する事
10. その他他課に属さない事

調査第一課

1. 埋蔵文化財保護にかかる文化振興課ならびに関係部局との連絡調整に関する事
2. 県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事

調査第二課

1. 国道475号東海環状自動車道に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
2. 国道23号中勢道路に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
3. 国道42号松阪多気バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関する事
4. 建設省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関する事

管理指導課

1. 遺物収納倉庫の管理に関する事
2. 整理済み出土品の収蔵及び保管に関する事
3. 遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関する事
4. 関係図書等の整理及び保管に関する事
5. 遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関する事
6. 出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関する事
7. 出土品の科学的保存処理に関する事
8. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財発掘調査速報展に関する事
9. 遺跡及び遺物等資料の貸出、掲載許可等に関する事
10. センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関する事
11. 埋蔵文化財行政調査等に関する事
12. 市町村の埋蔵文化財調査・文化財展等の指導及び協力に関する事
13. 埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関する事
14. 埋蔵文化財センター内外の各種会議に関する事

〔職員〕

所 長 川村 政敬 (齋宮歴史博物館館長兼務)
 次 長 (事務) 若林 祥男 (齋宮歴史博物館次長兼務)
 ” (技術) 山澤 義貴

総務課

課長 小柳 清 (齋宮歴史博物館兼務)
 主査 中川 カツミ (”)
 主事 伊藤 直樹 (”)
 ” 橋川 功 (”)

調査第1課

課長 山田 猛
 第1係
 係長 前川 嘉宏
 主事 小林 秀
 ” 筒井 正明
 ” 竹田 憲治
 ” 越賀 弘幸
 ” 船越 重伸
 ” 宇河 雅之
 技師 野口 美幸
 第2係
 係長 泉 雄二
 主事 高崎 仁
 ” 服部 芳人
 ” 浜口 元
 技師 竹内 英昭

調査第2課

課長 伊藤 克幸 (主幹兼務)
 第1係
 係長 河北 秀美 (主査・第3係長兼務)
 主事 清水 正明
 ” 小菅 文裕
 第2係
 係長 田村 陽一 (主査兼務)
 主事 下平 康弘
 ” 東 良樹
 ” 西村 修久 (多気町から派遣)
 ” 小浜 学 (松阪市から派遣)
 第3係
 係長 河北 秀美 (主査・第1係長兼務)
 主事 本堂 弘之
 ” 山本 義浩
 ” 中川 明
 技師 穂積 裕昌
 主事 宮田 勝功 (津市から派遣)
 ” 中村 光司 (”)

管理指導課

課長 新田 洋
 主事 森川 常厚
 ” 森川 幸雄
 ” 岸田 早苗
 研修員 松本 美先
 ” 田中 伸之
 ” 増田 博

〔施設〕

三重県埋蔵文化財センター

所在地 多気郡明和町竹川 503番地

TEL 05965-2-1732・3800 FAX 05965-2-3724

面積 敷地面積 18,000 m²

建築面積 4,537 m²

延床面積 5,077 m²

構造 鉄筋コンクリート造 1階（1部2階）建

（建物は斎宮歴史博物館と共用）

遺物収納倉庫

桜橋収納倉庫 津市桜橋2丁目126 TEL 0592-27-2465

藤方収納倉庫 津市藤方2283-1 TEL 0592-24-4560

上野収納倉庫 上野市丸之内117 TEL 0595-24-0079

現場整理所

国道 475号東海環状自動車道整理所

員弁郡北勢町阿下喜字覚正垣内532-3

TEL 0594-72-2106 FAX 0594-72-7906

国道42号松阪・多気バイパス整理所

松阪市射和町16-1

TEL 0598-29-4643 FAX 0598-29-4553

国道23号中勢道路整理所

津市納所町字西沢田481

TEL 0592-29-2770 FAX 0592-29-2771

II. 平成6年度緊急発掘調査

1. 緊急発掘調査調査一覧

本年度、当埋蔵文化財センターが実施した発掘調査は134遺跡、75,210㎡（試掘調査を含む）、斎宮歴史博物館が3,770㎡、市町村教育委員会が実施した発掘調査は113遺跡、約68,567㎡である。これらのほとんど開発事業に伴う事前の緊急発掘調査であるが、遺跡の解明あるいは、保存整備のための調査も、斎宮跡等で実施している。

県埋蔵文化財センター担当の緊急発掘調査

事業名		件数	調査面積 (㎡)
直 営	農業基盤整備事業関係	66	29,642
	国・県道路関係	45	8,845
	その他	2	4,379
受 託	国道475号東海環状自動車道建設関係	4	5,376
	一般国道25号関I C拡幅工事関係	1	900
	一般国道23号中勢道路建設関係	4	14,976
	一般国道42号松阪・多気バイパス建設関係	9	10,276
	その他	1	816
計		132	75,210

※同一遺跡を調査した場合でも、調査期間・原因が異なる場合には別件とした。

県（埋蔵文化財センター）担当分発掘調査

（※は国・県費補助事業）

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	費 用 負 担
1	玉垣内遺跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	県営ほ場整備	県農林水産部
2	石佛東遺跡	員弁郡大安町南金井字石佛東	県営農村総合環境整備	（県教育委員会※ 県農林水産部
3	東村城跡	員弁郡北勢町東村	東海環状道路建設	建設省
4	権現坂遺跡	員弁郡北勢町治田外面	東海環状道路建設	建設省
5	石薬師東古墳群	鈴鹿市石薬師町字寺東	消防学校建設	県総務部
6-1	石薬師東遺跡	鈴鹿市石薬師町字寺東	消防学校建設	県総務部
7	沖ノ坂遺跡	鈴鹿市国分町字沖ノ坂	道路改良	県土木部
8	国分東遺跡	鈴鹿市国分町字孫作ほか	道路改良	県土木部
9	天水遺跡	鈴鹿市小田町字天水	県営ほ場整備	県農林水産部
10	下代遺跡	鈴鹿市中富田町字下代	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部
11-1	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町字仲土居	開拓地整備	県農林水産部
12-1	大藪遺跡	亀山市亀田町大藪	交差点改良	県土木部
13	萩原裏ノ山遺跡	鈴鹿郡関町萩原字裏ノ山ほか	関I C拡幅	建設省
14-1	六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	中勢道路建設	建設省
15	六大B遺跡	津市大里窪田町字出口	中勢道路建設	建設省
16	蔵田遺跡	津市納所町字蔵田ほか	中勢道路建設	建設省
17	細野遺跡	安芸郡美里村北長野字細野	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部
18	大洞遺跡	安芸郡美里村北長野字大洞	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部
19	風呂ノ谷遺跡	安芸郡美里村北長野字風呂ノ谷	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部
20	釜生田遺跡	一志郡嬉野町釜生田字坊川原	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部

21	鴻ノ木遺跡	松阪市射和町字鴻ノ木ほか	松多バイパス建設	建設省
22	堀町遺跡	松阪市朝田町字堀町	松多バイパス建設	建設省
23	朱中遺跡	松阪市射和町字朱中	松多バイパス建設	建設省
24-1	菅生遺跡	松阪市菅生町字北浦	県営ほ場整備	県農林水産部
25	飛中遺跡	松阪市菅生町字飛中ほか	県営ほ場整備	県農林水産部
26	北野遺跡	多気郡明和町蓑村字西へべら	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
27	大日山古墳群	多気郡多気町荒蒔字大日山	松多バイパス建設	建設省
28	上ノ垣外遺跡	多気郡多気町荒蒔字上ノ垣外	松多バイパス建設	建設省
29	新徳寺遺跡	多気郡多気町相可字新徳寺	松多バイパス建設	建設省
30	松葉遺跡	多気郡勢和村波多瀬字松葉	畜産環境整備	県教育委員会※ 県農林水産部
31-1	二ツ屋遺跡	度会郡御園村高向	道路改良	県土木部
32	沖ノ下遺跡	度会郡度会町田口字沖ノ下	県営ほ場整備	県農林水産部
33	中村遺跡	度会郡度会町田口字中村	県営ほ場整備	県農林水産部
34	弥助窯跡	阿山郡阿山町丸柱平子	道路改良	県土木部
35	遊山城跡	阿山郡伊賀町愛田字遊山	広域農道建設	県農林水産部
36	西出遺跡	上野市山神字西出	県営ほ場整備	県農林水産部
37	井戸地遺跡	上野市土橋字井戸地	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
38	高座遺跡（喰代）	上野市喰代高座	道路改良	県土木部
39	森脇遺跡	上野市市部	農免道建設	県農林水産部
40	西横尾遺跡	上野市安場字西横尾	道路改良	県土木部
41	高寺遺跡	名賀郡青山町伊勢寺字高寺	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
42	六地藏B遺跡	名賀郡青山町伊勢寺字六地藏	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部

県（斎宮歴史博物館）担当分発掘調査

No.	43	斎宮跡	重要遺跡確認調査	斎宮歴史博物館	H6. 4. 7~H7. 3. 6	2,410㎡
調査 次数	調査面積 (㎡)	調 査 期 間	地 番 ・ 地 籍		備 考	
105	780	H6. 4. 7~10. 7	明和町斎宮鍛冶山2758-1他		計画発掘調査	
107	530	H6. 7. 18~11. 15	明和町竹川中垣内414他		〃	
108	1,100	H6. 11. 15~H7. 3. 6	明和町斎宮柳原2779-2他		〃	

No.	43	斎宮跡	史跡現状変更	明和町	H6. 6. 14~H7. 3. 31	1,360㎡
調査 次数	調査 面積 (㎡)	調 査 期 間	地 番 ・ 地 籍	調 査 原 因	調 査 機 関	
106-1	180	H6. 6. 14~ 7. 13	明和町斎宮鈴池	個人農業用倉庫の新築	斎宮歴史博物館	
106-2	26	H6. 7. 8~ 7. 14	明和町斎宮楽殿	個人住宅の新築	〃	
106-3	200	H6. 8. 22~10. 13	明和町斎宮鍛冶山地内	史跡内環境整備事業	〃	
106-4	180	H6. 10. 14~10. 25	明和町斎宮刈干	個人住宅の新築	〃	
106-5	650	H6. 11. 14~H7. 3. 31	明和町斎宮鍛冶山	農機格納小屋の建築	〃	
106-6	130	H7. 1. 23~ 3. 9	明和町斎宮塚山	個人住宅の新築	〃	

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	費 用 負 担
44	西ヶ谷遺跡	四日市市西坂部町字西ヶ谷他	耕地整理	事業者
45	市場城跡	四日市市市場町字大屋敷	分譲住宅建設	事業者
46	道具林古墳	四日市市小牧町字道具林	区画整理	事業者
47	竹野一丁目遺跡	鈴鹿市竹野一丁目	分譲マンション建築	事業者
48	寺山遺跡	鈴鹿市高岡町寺山	共同倉庫建設	鈴鹿市
49-1	伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町字西高木	博物館建設	鈴鹿市
49-2	伊勢国分寺跡	鈴鹿市国分町字西高木	博物館建設	鈴鹿市
50	津賀平遺跡	鈴鹿市津賀町字池ノ坪	農業関連施設	事業者
51	国分遺跡	鈴鹿市国分町字北条	学術	※
11-2	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町字矢下	学術	※
52	神戸中学校遺跡	鈴鹿市十宮四丁目	学校体育倉庫建設	鈴鹿市
53	赤郷遺跡	鈴鹿市秋永町字赤郷	市道拡幅改良工事	鈴鹿市
54	高田遺跡	鈴鹿市神戸地子町	共同住宅建設	事業者
12-2	大藪遺跡	亀山市羽若町	市営住宅建替	亀山市
55	忍山遺跡	亀山市野村町忍山	市道建設	亀山市
56	向山遺跡	津市高茶屋小森町字向山	宅地造成	事業者
57	長遺跡	津市河辺町字石立ほか	宅地造成	事業者
58	太田遺跡	安芸郡安濃町太田字宮城ほか	鉄塔建設	事業者
59	天野山遺跡	安芸郡安濃町今徳字天野山	個人住宅建設	個人（現物供与）
60	久居城跡	久居市東鷹跡町	宅地開発	事業者
61	尺ヶ寺遺跡	久居市榑原町字尺ヶ寺	県営ほ場整備	（県教育委員会※ 県農林水産部 事業者
62-1	片野遺跡	一志郡一志町片野字北浦	共同住宅建設	事業者
62-2	片野遺跡	一志郡一志町片野字北浦	町道改良	一志町
63	片部遺跡	一志郡嬉野町中川字片部	土地区画整理	土地区画整理組合
64	六反田遺跡	一志郡嬉野町中川字六反田	土地区画整理	土地区画整理組合
65	小川城跡	一志郡嬉野町中川字六反田	土地区画整理	土地区画整理組合
66	黒角遺跡（塚本B）	松阪市山室町黒角	団体営圃場整備	松阪市
67	浅間古墳群	松阪市立野町口南戸	市道建設	松阪市
68	西山城跡	多気郡多気町西山字奥尻	道路特殊改良	県土木部
69	森荘遺跡	多気郡多気町森荘字林中	保育所建設	多気町
70	銚子口遺跡	度会郡玉城町佐田字銚子口	宅地造成	県労働者住宅生協
71-1	田丸城跡	度会郡玉城町田丸	史跡案内板設置	玉城町
71-2	田丸城跡	度会郡玉城町田丸	簡易水道施設撤去	玉城町
72	楯ヶ崎遠見番所跡	熊野市甫母町大谷		熊野市
73	城之越遺跡	上野市比土字城之越	学術	上野市 ※
74	伊賀国府跡	上野市坂之下	保存整備	上野市 ※
75	国史跡旧崇廣堂	上野市丸之内	重要遺跡範囲確認	上野市 ※
76-1	小芝遺跡	上野市服部町字小芝	緊急保存修理	事業者
77	横山古墳群	名張市赤目町檀字横山	レストラン建設	事業者
78	七ヶ城遺跡	名賀郡青山町字沢代	宅地造成	事業者
79	七ヶ城古墳群	名賀郡青山町字沢代	町道・近鉄車庫建設	事業者
80	梅ヶ森遺跡	名賀郡青山町字梅ヶ森	町道・近鉄車庫建設	事業者

県（埋蔵文化財センター）担当分試掘調査

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	費 用 負 担
81	玉垣城跡	員弁郡藤原町山口字玉垣内	道路改良	県土木部
82	覚正垣内遺跡	員弁郡北勢町阿下喜覚正垣内	東海環状道路建設	建設省
83	宮山遺跡	員弁郡大安町片樋ほか	東海環状道路建設	建設省
84	大久保城跡	員弁郡大安町片樋ほか	東海環状道路建設	建設省
85	比丘尼塚隣接地	員弁郡大安町南金井字山畑	農村環境	県農林水産部
86	尾野山城跡	桑名市西方宮前	道路改良	県土木部
87	菰野城跡	三重郡菰野町菰野字蕃内	道路改良	県土木部
88	向山遺跡	四日市市山田町向山	公安1種	県土木部
89	南かに島遺跡	四日市市赤水町南かに島	道路改良	県土木部
90	高角宮之前遺跡	四日市市高角町	道路改良	県土木部
91	東門田遺跡	四日市市曾井字東門田	道路改良	県土木部
92	西浦遺跡（門口）	鈴鹿市西富田町字西浦	県営ほ場整備	県農林水産部
11-3	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町ほか	開拓地整備	県農林水産部
93	畑田遺跡	鈴鹿市東庄内町北条字畑田	県営畜産環境整備	県農林水産部
94	橋子田遺跡	鈴鹿市上田町上田新田	県営畜産環境整備	県農林水産部
95	西尾B遺跡	亀山市辺法寺町字西尾畑	広域農道建設	県農林水産部
96	西尾A遺跡	亀山市辺法寺町字西尾畑	広域農道建設	県農林水産部
97	峯城跡	亀山市川崎町柴崎字八幡	広域農道建設	県農林水産部
98	納所遺跡	津市納所町	県営湛水防除	県農林水産部
99		津市一身田上津部田字ウノ坪	中勢家畜保健衛生所	県農林水産部
14-2	六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	中勢道路建設	建設省
100	庚申塚跡	安芸郡安濃町野口	道路改良	県土木部
101	下村五間田遺跡	久居市榊原町字五間田	河川災害復旧助成	県土木部
102	上出遺跡	久居市庄田町上出	河川災害復旧助成	県土木部
103	下川原遺跡	久居市一色町字下川原	河川災害復旧助成	県土木部
104	野田遺跡	久居市稲葉町野田	河川災害復旧助成	県土木部
105	湯出谷遺跡	久居市稲葉町湯出谷	河川災害復旧助成	県土木部
106-1	薬師寺北裏遺跡	一志郡嬉野町一志	道路改良	県土木部
106-2	薬師寺北裏遺跡	一志郡嬉野町一志	地方特定道路整備	県土木部
107	北瀬古遺跡	一志郡嬉野町天花寺	道路改良	県土木部
108	弥五郎垣内遺跡	一志郡嬉野町釜生田	道路改良	県土木部
109	天白遺跡	一志郡嬉野町釜生田	道路改良	県土木部
110	仮称松阪久居線遺跡	一志郡嬉野町算所～黒野	道路改良	県土木部
111	堀田遺跡	一志郡嬉野町宮古字堀田	地方特定道路整備	県土木部
112	寺垣内遺跡	一志郡美杉村太郎生	道路改良	県土木部
113	せぎ遺跡	松阪市西野町字せぎ	県営ほ場整備	県農林水産部
24-2	菅生遺跡	松阪市菅生町	県営ほ場整備	県農林水産部
114	瀬丁遺跡	松阪市櫛田町	県営ほ場整備	県農林水産部
115	北ノ垣内遺跡	松阪市櫛田町	県営ほ場整備	県農林水産部
116	綾垣内遺跡	松阪市櫛田町	県営ほ場整備	県農林水産部
117	伊勢寺遺跡	松阪市伊勢寺町子金	小規模河川改修	県土木部
118	石津遺跡	松阪市上川町字中野前ほか	松多バイパス建設	建設省
119	東牛込遺跡	松阪市上川町字飛長・艸干	松多バイパス建設	建設省
120	山ノ花遺跡	松阪市古井町字山ノ花	松多バイパス建設	建設省
121	前田遺跡	松阪市高木町字前田	県営ほ場整備	県農林水産部

122	別所前遺跡	松阪市高木町字別所前	県営ほ場整備	県農林水産部
123	大山遺跡	松阪市高木町字大山	県営ほ場整備	県農林水産部
124	内垣内遺跡	松阪市高木町字内垣内	県営ほ場整備	県農林水産部
125	出ノ里遺跡	松阪市出口中町字出ノ里	県営ほ場整備	県農林水産部
126	山口遺跡(池田)	松阪市出口中町字池田ほか	県営ほ場整備	県農林水産部
127	算越遺跡	松阪市高木町字算越	県営ほ場整備	県農林水産部
128	柳辻遺跡(大蓮寺)	松阪市櫛田町字柳辻ほか	県営ほ場整備	県農林水産部
129	上川ノ上遺跡	飯南郡飯南町有間野	緊急整備	県土木部
130	北出遺跡	飯南郡飯南町粥見	道路改良	県土木部
131	曾根崎古墳群	多気郡明和町上野	県営ほ場整備	県農林水産部
132	曾根崎遺跡	多気郡明和町上野	県営ほ場整備	県農林水産部
133	鐘突遺跡	多気郡明和町上野	県営ほ場整備	県農林水産部
134	角垣内遺跡	多気郡明和町蓑村	県営ほ場整備	県農林水産部
135	池ノ下遺跡	多気郡多気町四疋田	県営ほ場整備	県農林水産部
136	カタ田遺跡	多気郡多気町四疋田	県営ほ場整備	県農林水産部
137	佐奈口遺跡	多気郡多気町相鹿瀬	道路改良	県土木部
138	西道上遺跡	多気郡多気町相鹿瀬	道路改良	県土木部
139	年内遺跡	多気郡多気町相鹿瀬	道路改良	県土木部
140	宮ノ谷遺跡	多気郡多気町牧字宮ノ谷	県営畜産環境整備	県農林水産部
141	井尻遺跡	多気郡勢和村波多瀬字井尻	県営畜産環境整備	県農林水産部
142	中新田遺跡	多気郡大台町栃原	道路改良	県土木部
143	日進遺跡	多気郡大台町栃原	道路改良	県土木部
144	小滝遺跡	多気郡宮川村小滝	公安1種	県土木部
31-1	ニツ屋遺跡	度会郡御園村ニツ屋・沖川原	道路改良	県土木部
145	高向遺跡	度会郡御園村高向字上万條	農道整備	県農林水産部
146	里中遺跡	度会郡御園村長屋字里中	農道整備	県農林水産部
147	北大野遺跡	度会郡度会町田口	県営ほ場整備	県農林水産部
148	田口B遺跡	度会郡度会町田口	県営ほ場整備	県農林水産部
149	中山遺跡	度会郡度会町田口字中山	県営ほ場整備	県農林水産部
150	廣切遺跡	度会郡度会町長原	公安1種	県土木部
151	舟越遺跡	鳥羽市答志町舟越	県営舟越漁港修築	県農林水産部
152	東海道遺跡	志摩郡阿児町国府	道路改良	県土木部
153	次郎六郎東遺跡	志摩郡大王町舟越字次郎六郎	リゾート施設建設	郵政省
154	上地B遺跡	熊野市有馬町上地	県営畜産環境整備	県農林水産部
155	春日神社跡	阿山郡伊賀町山畑字春日	広域農道建設	県農林水産部
156	秋葉神社	阿山郡伊賀町山畑字柳原	広域農道建設	県農林水産部
157	良福寺跡	阿山郡伊賀町下柘植字寺後	県営ほ場整備	県農林水産部
158	小上野・中島古墳群	阿山郡大山田村真泥	県営ため池整備	県農林水産部
159	東追付遺跡	阿山郡鳥ヶ原村中村	道路改良	県土木部
160	長福寺跡	上野市土橋	県営ほ場整備	県農林水産部
161	東出遺跡	上野市山神	県営ほ場整備	県農林水産部
162	奥知氏館跡	上野市山神	県営ほ場整備	県農林水産部
163	山神寄建神社古墳	上野市山神	県営ほ場整備	県農林水産部
164	東出南遺跡	上野市山神	県営ほ場整備	県農林水産部
165	市部A遺跡	上野市市部字澤田	広域農免農道	県農林水産部
166	市部B遺跡	上野市市部字澤田	広域農免農道	県農林水産部
167-1	才良遺跡	上野市才良	河川改修	県土木部
168	三石代遺跡	上野市下神戸三石代	河川改修	県土木部
169	伊勢路A遺跡	名賀郡青山町伊勢路字高寺	県営ほ場整備	県農林水産部
170	腰山遺跡	名賀郡青山町腰山	道路改良	県土木部

各市町村担当分試掘調査

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	費 用 負 担
171	西方台地A遺跡	桑名市上野字タノ割	宅地開発	事業者
172	下之宮遺跡	四日市市下之宮町字耳常田	個人住宅	四日市市
173	八反縄遺跡	四日市市大矢知町字大沢	店舗建設	事業者
174	小方縄遺跡	四日市市大治田三丁目	土地利用計画	地主
175	羽津広遺跡	四日市市大矢知町字斎宮ほか	店舗建設	事業者
176	北之脇遺跡	四日市市大矢知町字斎宮ほか	店舗建設	事業者
177	北中寺遺跡	四日市市石塚町	土地開発計画	地主
178	赤堀城跡	四日市市城西町	共同住宅建設	事業者
179	宮ノ下遺跡	四日市市小古曾二丁目	市道改良	四日市市道路課
180	西辻遺跡	四日市市西大鐘町字古屋敷	公民館建設	事業者
181	高塚古墳群	鈴鹿市高塚町	学校（プール）建設	鈴鹿市
182	国分西遺跡	鈴鹿市国分町字東高木	個人住宅	鈴鹿市
51-2	国分遺跡	鈴鹿市国分町字北条	個人住宅	鈴鹿市
183	三芝遺跡	鈴鹿市郡山町	個人住宅	鈴鹿市
184-1	須賀遺跡	鈴鹿市須賀一丁目	宅地造成	事業者
185	上箕田遺跡	鈴鹿市上箕田一丁目	事務所建設	事業者
6-2	石薬師東遺跡	鈴鹿市石薬師町字寺東	作業所建設	事業者
186	姫塚古墳	鈴鹿市東庄内	鉄塔建設	鈴鹿市
187	高田遺跡	鈴鹿市神戸地小町字高田	共同住宅建設	事業者
188	砂山遺跡	鈴鹿市岸岡町	共同住宅建設	事業者
189	天王遺跡	鈴鹿市岸岡町字天王	共同住宅建設	鈴鹿市
190	平田城跡	鈴鹿市平田本町一丁目	共同住宅建設	鈴鹿市
184-2	須賀遺跡	鈴鹿市須賀一丁目	書庫建設	鈴鹿市
191	北ノ添遺跡	鈴鹿市北玉垣町北ノ添	倉庫建設	鈴鹿市
192	間瀬口遺跡	鈴鹿市木田町字間瀬口	老人保健施設	事業者
193	赤郷遺跡	鈴鹿市秋永町字赤郷	市道改良	鈴鹿市
194	垂水城跡	津市垂水字井戸谷	土砂採取	事業者
195	大古曾遺跡	津市一身田大古曾	道路建設	事業者
196	菖蒲北古墳	津市大里山室町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
197	菖蒲西古墳	津市大里山室町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
198	菖蒲東古墳群	津市大里山室町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
199	菖蒲古墳群	津市大里山室町字菖蒲ほか	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
200	恐シ古墳	津市大里山室町字恐シ	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
201	乾谷北古墳	津市大里山室町字乾谷	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
202	乾谷古墳群	津市大里山室町字乾谷	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
203	乾谷南古墳	津市大里小野田町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
204	小野田西古墳群	津市大里小野田町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
205	菖蒲南古墳	津市大里小野田町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
206	小野田古墳群	津市大里小野田町字菖蒲	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
207	八知古墳	津市大里小野田町字八知	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
208	白石古墳群	津市大里山室町字白石	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
209	平栄1号墳	津市野田字千束	ゴルフ場造成	事業者
210	平栄遺跡	津市野田字千束	ゴルフ場造成	事業者
211	西焼尾古墳群	津市長岡町字東高尾ほか	宅地造成	事業者
212	山王遺跡	安芸郡河芸町南黒田字山王	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社

213	内垣内遺跡	安芸郡河芸町南黒田字内垣内	中勢北部サイエンス	津市土地開発公社
214	ゆふけ遺跡	安芸郡安濃町浄土寺字米買	集落道建設	安濃町
215	新畑遺跡	久居市木造町字新畑	農道整備	県農林水産部
216	多気遺跡群	一志郡美杉村下多気	駐車場造成	事業者
217		松阪市法田町川原田	砂利採取	事業者
218		松阪市法田町大垣内	砂利採取	事業者
219		松阪市法田町松山	砂利採取	事業者
220		松阪市法田町野垣内	砂利採取	事業者
221	仮称：法田遺跡	松阪市法田町灰菜口	砂利採取	事業者
222		松阪市山添町居	砂利採取	事業者
223	八ノ坪遺跡	松阪市中万町八ノ坪	砂利採取	事業者
224	中山田古墳群	松阪市山添町中山田	工業用地	事業者
225	やつで古墳群	松阪市山添町やつで	工業用地	事業者
226	長谷古墳群	松阪市山添町長谷	工業用地	事業者
227	金剛坂遺跡	多気郡明和町金剛坂字板垣内	宅地造成	明和町
228	東垣内古墳群	多気郡明和町坂本字東垣内	宅地造成	明和町
229	坂倉遺跡	多気郡多気町東池上字坂倉	宅地造成	多気町
230	片倉氏館跡	多気郡多気町四神田字西浦	学術	多気町
231	天啓公園周辺遺跡	多気郡多気町四疋田	天啓公園造成	多気町
232	上通遺跡	伊勢市上地町字上通	宅地造成	事業者
233	砂谷遺跡	度会郡玉城町字砂谷	物流センター造成	事業者
234	西明寺遺跡	上野市西明寺	住宅団地造成	事業者
167-2	才良遺跡	上野市才良字松之本ほか	ほ場整備	事業者
235	岡角氏館跡	上野市服部町字深野	ゴルフ練習場建設	事業者
236	風呂ノ上遺跡	上野市下友生字風呂ノ上	道路改良	上野市
237	比土遺跡	上野市比土字東賀柳	住宅団地造成	事業者
238	福地遺跡	上野市中友生字福地	道路改良	上野市
76-2	小芝遺跡	上野市服部町字小芝	レストラン建設	事業者
239	下郡遺跡	上野市下郡字下代	道路改良	上野市
240	森永エンゼルの森	上野市市部・上友生・沖ほか	宅地造成ほか	事業者
241	久米山古墳群	上野市守田町字林	宅地造成	事業者
242	別府砦	名賀郡青山町別府	川上ダム集団移転地	事業者

- 201 津市
- 202 四日市市
- 203 伊勢市
- 204 松阪市
- 205 桑名市
- 206 上野市
- 207 鈴鹿市
- 208 名張市
- 209 尾鷲市
- 210 龜山市
- 211 鳥羽市
- 212 熊野市
- 213 久居市
- 301 多度町
- 302 長島町
- 303 木曾岬町
- 321 北勢町
- 322 員弁町
- 323 大安町
- 324 東員町
- 325 藤原町
- 341 菰野町
- 342 桶町
- 343 朝日町
- 344 川越町
- 361 関町
- 381 河芸町
- 382 芸濃町
- 383 美里村
- 384 安濃町
- 402 香良州町
- 403 一志町
- 404 白山町
- 405 嬉野町
- 406 美杉村
- 407 三雲町
- 421 飯南町
- 422 飯高町
- 441 多気町
- 442 明和町
- 443 大台町
- 444 勢和村
- 445 宮川村
- 461 玉城町

- 462 二見町
- 463 小俣町
- 464 南勢町
- 465 南島町
- 466 大宮町
- 467 紀勢町
- 468 御薮村
- 469 大内山村
- 470 度会町
- 481 伊賀町
- 482 島ヶ原村
- 483 阿山町
- 484 大山田村
- 501 青山町
- 521 浜島町
- 522 大王町
- 523 志摩町
- 524 阿児町
- 525 磯部町
- 541 紀伊長島町
- 542 海山町
- 561 御浜町
- 562 紀宝町
- 563 紀和町
- 564 鶯殿村

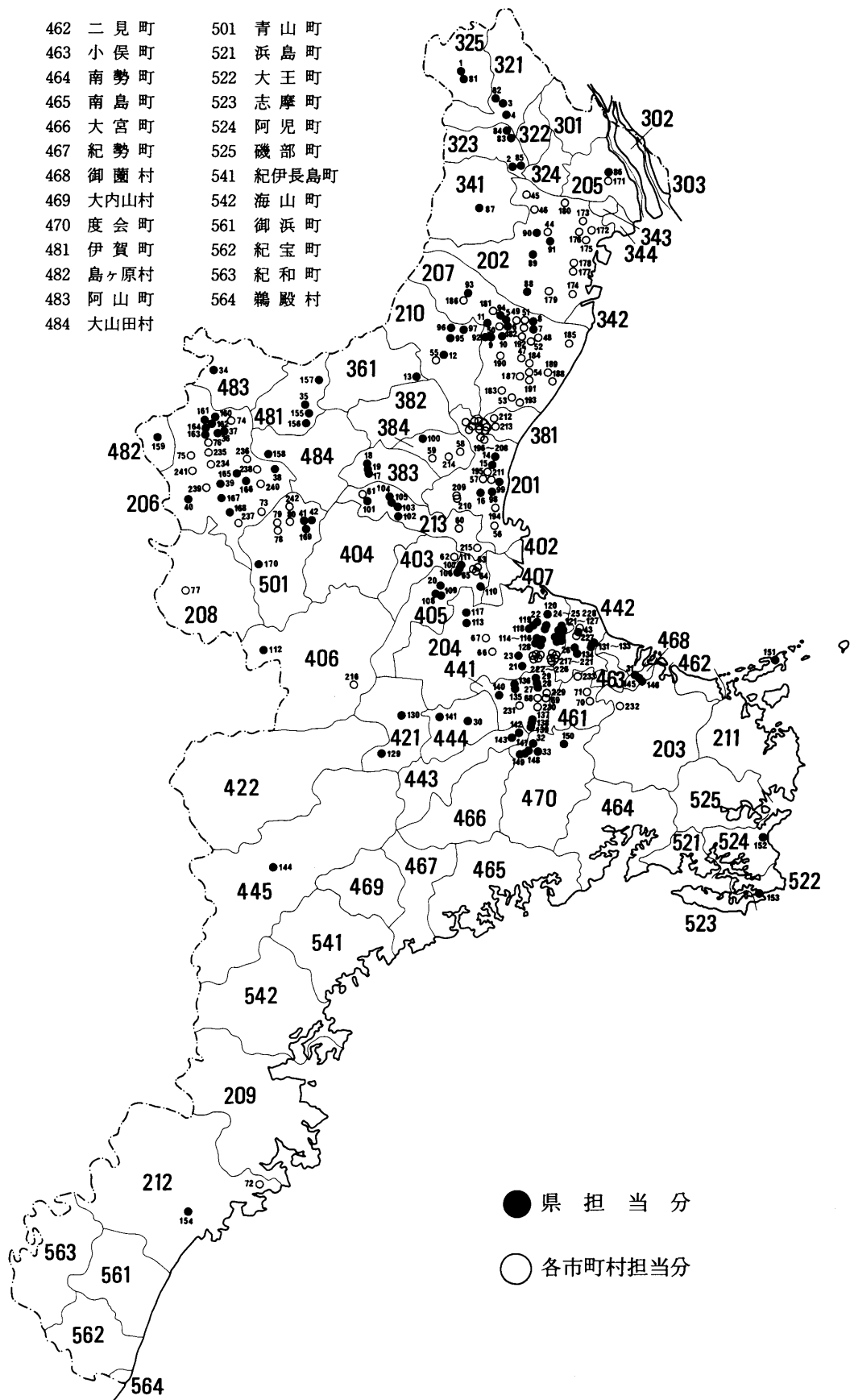


図1 平成6年度三重県内発掘調査遺跡位置図

2. 発掘調査の概要

注)

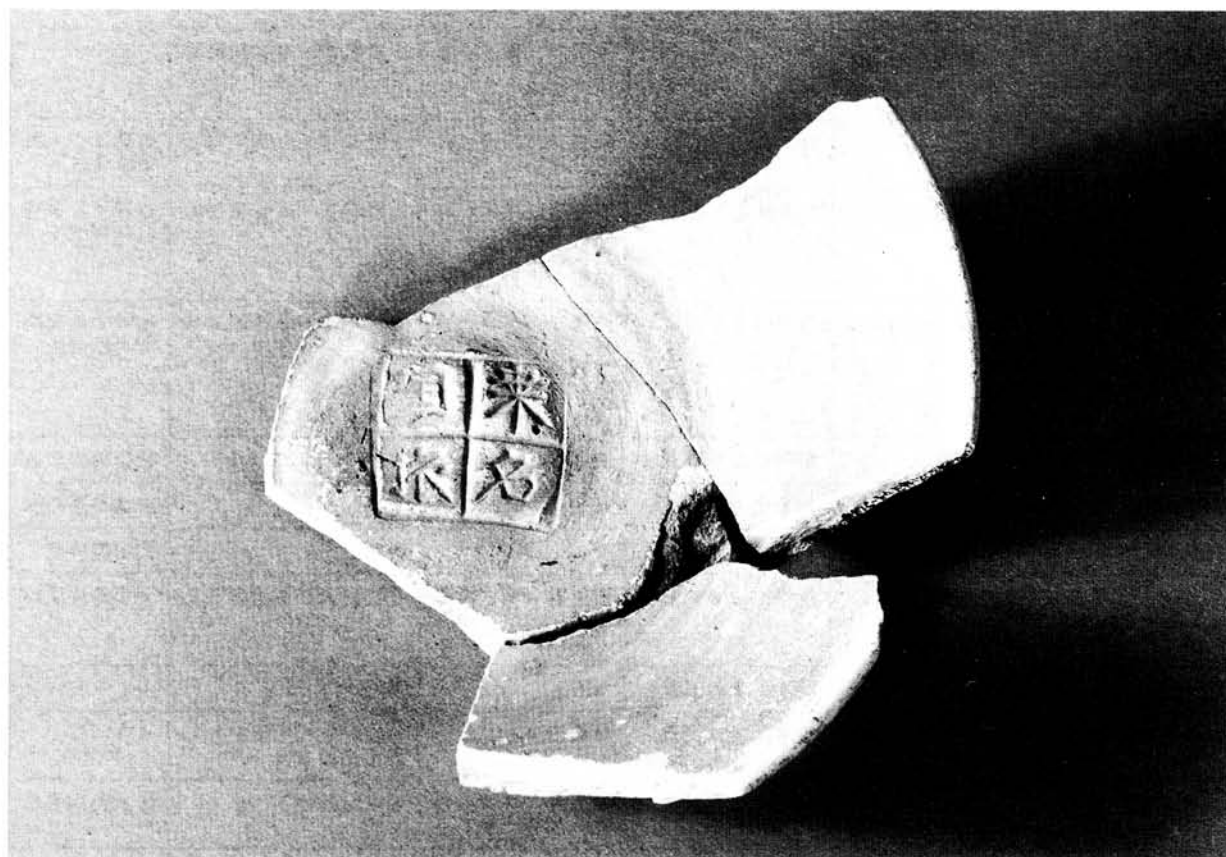
※1 遺跡名の()は旧称。

※2 保護法関係文書番号は、文化財保護法第98条の2第1項または、第57条第1項に関する文書番号。

県(三重県埋蔵文化財センター)担当分 本調査・立会調査

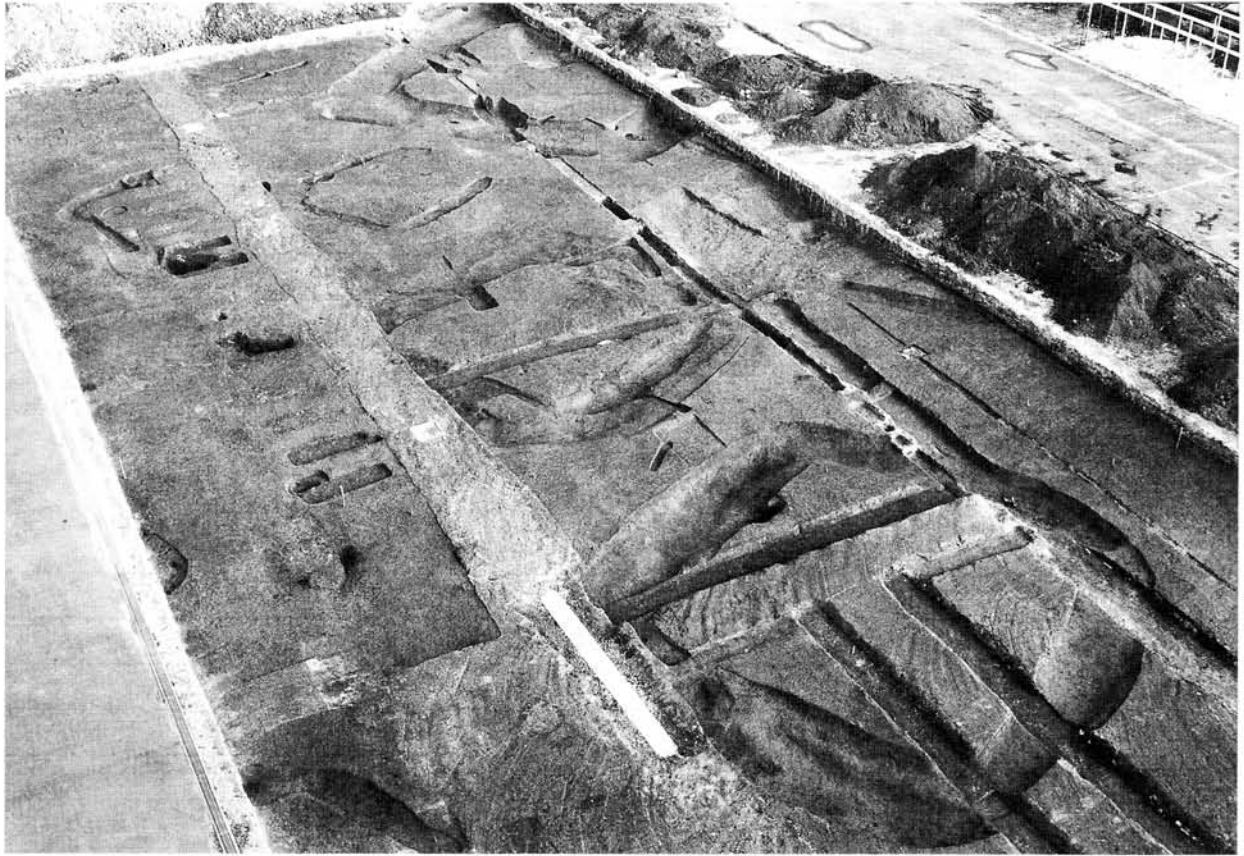
No.	1	遺跡名	玉垣内遺跡(立会)		台帳番号	未登録
所在地	員弁郡 藤原町 山口 字 玉垣内					
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	宇河 雅之 田中 伸之	
調査期間	H6. 8. 23~8. 25		調査面積	240㎡	保護法関係文書番号	6年7月19日付け 教埋 第351号
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物	
玉垣内遺跡は、本郷集落の北西に位置し、遺跡の立地する水田は玉垣(山口)城の存在する尾根北筋の北東側に隣接する。 今回の調査は、圃場整備事業に伴う排水路設置によるもので玉垣城の立地する尾根裾部の幅4m、全長60m(他は盛土対応)が対象となったが、遺構・遺物ともにはほとんど検出できなかった。これは遺跡の立地する水田が、早くから開墾を受けていたことに起因すると考えられる。また、調査区は尾根から延びる緩斜面をテラス状にカットした部分に相当するらしい。				なし	なし	
関連文献						
No.	2	遺跡名	石佛東遺跡		台帳番号	未登録
所在地	員弁郡 大安町 南金井 字 石佛東					
調査原因	県営農村総合環境整備			事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	前川 嘉宏 船越 重伸	
調査期間	H. 6.10.24. ~ 11. 4		調査面積	750㎡	保護法関係文書番号	6年9月7日付け 教埋 第390号
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物	
養父川と牛ヶ谷川に挟まれた台地上に位置し、標高は約73mである。 試掘調査で壁面に焼土を有する中世墓があるとされた。調査の結果、炭と壁面の一部に焼土は認められたが、骨片や遺物は出土せず、中世墓とは断定しがたい。溝は、遺構面に対してほぼ垂直に掘りこまれており、近世頃と思われる陶磁器片と現代の瓦片、陶器片が出土した。				土坑 2基 溝 1条	磁器片 青磁片 陶器片(瀬戸)	
関連文献						
No.	3	遺跡名	東村城跡		台帳番号	321-45
所在地	員弁郡 北勢町 東村					
調査原因	一般国道 475号東海環状自動車道建設			事業主体	建設省中部地方建設局	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	小菅 文裕	
調査期間	H6・8・9~11・1		調査面積	2,000㎡	保護法関係文書番号	6年6月17日付け 教埋 第263号
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物	
調査地は標高約103mの北に延びる丘陵部で、上部の削平地が畑として利用されている。 北勢町東村の地に、古城跡があったことは『伊勢輯雑記』や『伊勢名勝志』などにみられ、当地がそれに比定されていた。 今回の調査は、用地買収の関係で、斜面中心の調査となったため、城跡と特定しうる遺構・遺物とも検出・出土しなかった。調査では弥生土器(中期~後期)が出土しており、弥生時代の集落跡等の遺跡である可能性も有する。今後、上部平坦面の調査により、遺跡名をふまえたさらなる検討を要する。				ピット	弥生土器(壺・甕) (中期~後期) 石斧	
関連文献 『伊勢輯雑記』『伊勢名勝志』『治田村誌』『東海環状調査ニュース2』(『東環概報1』)						

No.	4	遺跡名	権現坂遺跡		台帳番号	321-43	
所在地	員弁郡 北勢町 治田外面						
調査原因	一般国道 475号東海環状自動車道建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	清水 正明 小菅 文裕		
調査期間	H 6・11・21～2・10		調査面積	2,000㎡	保護法関係文書番号	6年6月17日付け 教埋 第264号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>権現坂遺跡遺跡は、員弁川右岸の中位段丘上にあり、水田（一部宅地）として利用されている。ほ場整備がすでに行われていたが、試掘により、柱穴と考えられるピットなどの遺構のほか、かなりの遺物が包含していたため本調査を行った。</p> <p>遺構の残存は、あまり良好とはいえないが、縄文時代の土坑・甕棺のほか、平安時代を中心とする土坑が検出できた。また住居跡では、竪穴住居2基・掘立柱建物1棟のほか、調査区北壁際に掘立柱建物と考えられるピットを検出した。</p> <p>遺物は、遺構に伴わないものが大半であるが、縄文土器・須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・山茶碗などが出土する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代 土坑 ○奈良平安時代 土坑 竪穴住居 掘立柱建物 ○中世 溝 		<p>縄文土器 (甕棺?) 須恵器 (『桑名国依』) 土師器 緑釉陶器-多い (輪花段皿ほぼ完形) 灰釉陶器 山茶碗 清郷型甕(鍋?) (かなり多い) 円面硯(?) 石錘</p>	
関連文献	『東海環状調査ニュース3』(『東環概報1』)						



権現坂遺跡出土刻印須恵器

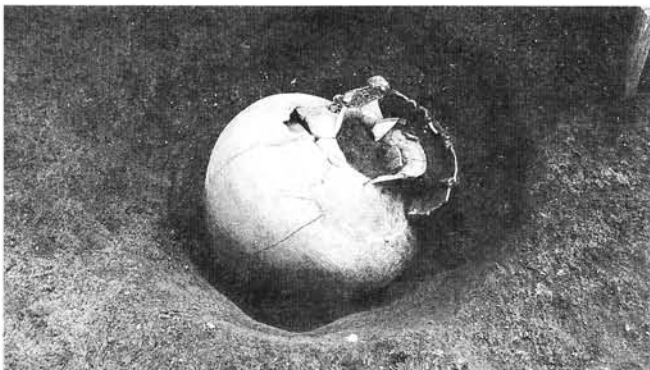
No.	5	遺跡名	石薬師東古墳群			台帳番号	207-754t~778
所在地	鈴鹿市 石薬師町 字 寺東						
調査原因	三重県消防学校施設・設備整備事業			事業主体	県総務部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	宇河 雅之 船越 重伸		
調査期間	H 6. 11. 7 ~ H 7. 1. 30		調査面積	2,319 m ²	保護法関係文書番号	6年11月4日付け 教埋 第486号	
遺 跡 の 概 要							
<p>鈴鹿川左岸の高位段丘上に分布する古墳群で、周知の25基に加え、今回新たに12基の方墳が検出された。平成5年度調査の26号墳、本年度春期調査の27号墳を含め合計39基から形成される。試掘調査により、周辺にはまだ多くの古墳があったと考えられ、今後の調査での基数増加は確実である。戦時下において陸軍の施設が設置された事により全ての古墳は削平を受け、主体部も存在しなかった。</p> <p>検出された古墳は、全てが方墳で、周溝の辺を揃えるなど、ある程度企画性をもって築造が成された可能性がある。規模も周溝を含めた一辺が、10m以下のもの、15m前後のもの、20mを超えるものの3種類に大別が可能である。遺物は周溝の底からまとも出土するケースが認められ、「据えた」ような出土状況から何らかの祭祀を行った可能性もあり注目される。時期は概ね5世紀末から6世紀初めごろと考えられる。</p>							
古墳名	墳形	規模 (m)	主体部	出土遺物	時期	備考	
28号墳	方墳	20.0×20.0	削平により消滅	土師器 (甕、小型短頸壺) 円筒埴輪	5世紀末～6世紀初め		
29号墳	方墳	7.5×7.5	削平により消滅	須恵器 (杯身、杯蓋、甕)	5世紀末～6世紀初め	周溝は2ヵ所で途切れ	
30号墳	方墳	13.5×15.0	削平により消滅	須恵器 (杯身、杯蓋、小型広口壺、高杯、甕、小型短頸壺)	5世紀末～6世紀初め	相対する周溝で遺物出土	
31号墳	方墳	14.5×16.0	削平により消滅	須恵器 (杯身、杯蓋、有蓋高杯、甕、短頸壺、壺、甕) 小型土師器 (広口壺、甕)	5世紀末～6世紀初め	相対する周溝で遺物出土	
32号墳	方墳	未掘	削平により消滅	未掘	不明	遺構検出のみ	
33号墳	方墳	7.0 × -	削平により消滅	なし	不明	周溝2辺のみ	
34号墳	方墳	不明	削平により消滅	なし	不明	大半調査区	
35号墳	方墳	不明	削平により消滅	須恵器 (甕、有蓋高杯) 人物埴輪	5世紀末～6世紀初め	大半調査区外	
36号墳	方墳	不明	削平により消滅	なし	不明		
37号墳	方墳	17.5 × -	削平により消滅	須恵器 (甕)	5世紀末～6世紀初め 排水路調査区		
38号墳	方墳	不明	削平により消滅	須恵器 (杯身、杯蓋、高杯、甕)	6世紀初め	排水路調査区	
39号墳	方墳	未掘	削平により消滅	未掘	不明	遺構検出のみ	



石薬師東古墳群調査区全景（西から）



石薬師東38号墳西側周溝（北から）



石薬師東古墳群土器棺墓（北から）

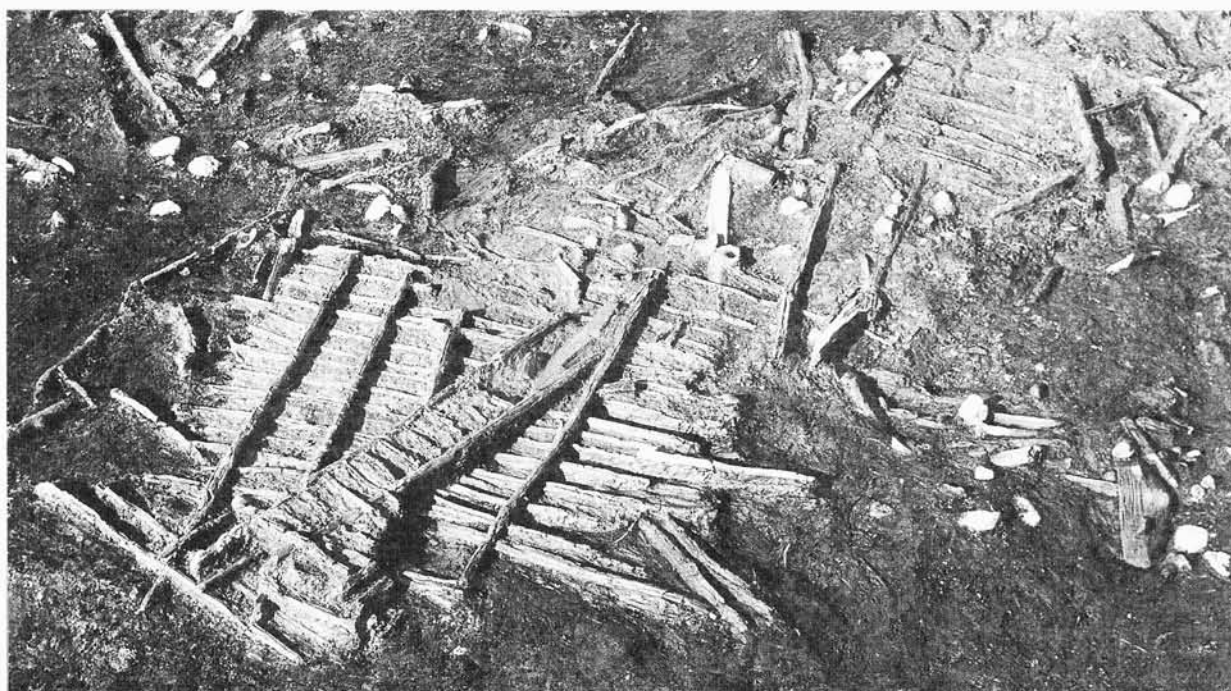


石薬師東31号墳東側周溝（南から）

No.	6	遺跡名	石薬師東遺跡（第2次）		台帳番号	207-727	
所在地	鈴鹿市 石薬師町 字 寺東						
調査原因	消防学校施設・設備整備事業			事業主体	県総務部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	船越 重伸 服部 芳人		
調査期間	H 6 . 4 . 18～6 . 24		調査面積	2,060 m ²	保護法関係文書番号	6年3月11日付け 教埋 第116号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>鈴鹿川中流左岸の標高約41mの台地上に位置する。 今回は、道路の付け替え部分の2,000m²を調査。古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居を7棟を検出するとともに方墳の周溝の北東コーナー部分が検出され、埴輪片や須恵器片が多数出土した。 台地縁辺部で、三方向を古墳群に、残る一方向を崖に囲まれた地域に集落が存在することは興味深い。 27号墳は、鈴鹿川流域では珍しい方墳である。大部分が調査区外の畑地にあるため規模は不明。</p>				<p>○古墳時代 方墳 1基 (石薬師東27号墳) ○古墳～奈良時代 竪穴住居 3棟 ○奈良時代 竪穴住居 2棟 ○時期不明 溝 土坑 竪穴住居 2棟</p>		<p>円筒埴輪 形象埴輪 土師器 須恵器</p>	
関連文献							
No.	7	遺跡名	沖ノ坂遺跡		台帳番号	207-15	
所在地	鈴鹿市 国分町 字 沖ノ坂						
調査原因	四日市鈴鹿環状線国補道路改良			事業主体	県土木部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	服部 芳人 越賀弘幸		
調査期間	H 6 . 7 . 4～7 . 8		調査面積	230 m ²	保護法関係文書番号	6年6月8日付け 教埋 第244号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>鈴鹿川の左岸、標高40～45mの台地上に位置する。今回の調査では、耕作溝を確認したのみである。</p>				耕作溝		土師器片 陶器片	
関連文献							
No.	8	遺跡名	国分東遺跡		台帳番号	207-539	
所在地	鈴鹿市 国分町 字 孫作・井田・東浦ほか						
調査原因	四日市鈴鹿環状線国補道路改良			事業主体	県土木部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	服部芳人・越賀弘幸・田中伸之・増田博		
調査期間	H 6 . 7 . 11～11 . 29		調査面積	4,390 m ²	保護法関係文書番号	6年6月1日付け 教埋 第246号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>鈴鹿川の左岸、標高40～45mの台地上に位置する。当初事業地内では4,870m²の調査予定であったが、未買収地があり、今年度は4,390m²について調査を行った。しかも事業地に直交するように現道がはしり、調査区を南からA～E地区の5つに分けて行った。特にB・C・D地区に奈良時代から鎌倉時代の掘立柱建物が集中する。そのなかで奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物は棟方向をそろえ計画的に建てられている。 一番北側のE地区には、ほぼ南北にSD78（幅2m、深さ50～60cm）が走り、それ以北では、中世墓2基を検出した。</p>				<p>○A地区 竪穴住居（奈良） ○B地区 掘立柱建物6棟 （奈良～平安5棟・鎌倉1棟） ○C地区 掘立柱建物8棟 （奈良～平安5棟・鎌倉3棟） 土坑教基 ○D地区 掘立柱建物3棟 溝1条（奈良） ○E地区 掘立柱建物7棟 （奈良～平安4棟・鎌倉3棟） 中世墓2基</p>		<p>土師器 須恵器 軒丸瓦 平瓦・丸瓦 山茶碗 緑釉陶器 青磁 青白磁</p>	
関連文献							

No.	9	遺跡名	天水遺跡（立会）		台帳番号	207-835	
所在地	鈴鹿市 小田町 字 天水						
調査原因	県営ほ場整備事業（井田川地区）			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	竹田 憲治		
調査期間	H 6. 9. 20～ 9. 21		調査面積	400 m ²	保護法関係文書番号	6年8月19日付け 教埋 第354号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川と椋川との合流点付近の河岸段丘上に立地する。遺跡の南に隣接する水田が事業の対象となったため、削平を受ける部分について発掘調査を行った。調査の結果、遺構は検出されなかったが、流れ込みと思われる遺物が出土した。				なし		土師器（長胴甕・杯） 須恵器、山茶碗 天目茶碗、青磁瓦	
関連文献							
No.	10	遺跡名	下代遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	鈴鹿市 中富田町 字 下代						
調査原因	県営ほ場整備事業（芥川沿岸地区）			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	田中 伸之 竹田 憲治		
調査期間	H 6. 10. 18～ 10. 26		調査面積	200 m ²	保護法関係文書番号	6年8月23日付け 教埋 第352号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川左岸の河岸段丘上に立地する。ほ場整備により破壊される排水路部分の調査で、旧河道による堆積物と思われる遺物が出土した。				ピット		○弥生時代 壺・甕・高杯 ○古墳時代 土師器（高杯） 須恵器 （杯身・長頸壺） 鉄鏝 ○鎌倉時代 山茶碗	
関連文献							
No.	11-1	遺跡名	長者屋敷遺跡		台帳番号	207-809	
所在地	鈴鹿市 広瀬町 字 仲土居 ・ 亀山市 能褒野町 字 仲土居						
調査原因	開拓地整備事業			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	宇河 雅之 小林 秀		
調査期間	H 6. 6. 1～ 8. 17		調査面積	2,700 m ²	保護法関係文書番号	6年4月28日付け 教埋 第211号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
長者屋敷遺跡は、鈴鹿川により形成された広大な高位段丘面に立地する。調査は道路の舗装・拡幅工事に先立つもので、対象となる道路（幅5m）は総延長540mである。遺構としては、各所で企画性を持つ溝が検出されている。これらの溝は、概ね南北の方位（N4° W）をとるものと東西方向に延びるものからなり、個々の相互関係から一辺120mの方格子の存在が推定できる。溝は幅約0.9m～1.2、深さ0.6mのもの、幅約3m、深さ約0.3～0.5mの2種類から成り、この2種類の溝が土塁を挟んで存在したと考えられる。付近には多くの瓦の分布が認められるが、遺構からの遺物の出土はほとんど認められず、時期の決定は困難を究める。また、方格子は、地形的制約から東西6区画以上、南北5区画に広がりを持つ可能性がある。この場合、東から3区画目と4区画目の間が、伊勢国庁の正殿の中軸線と合致し、その関係が注目される。				溝・土坑		平瓦片	
関係文献							

No.	12-1	遺跡名	大藪遺跡		台帳番号	210-195	
所在地	亀山市 亀田町 大藪						
調査原因	亀山（T）石水溪線（交差点改良）			事業主体	県土木部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	浜口 元 松本 美先		
調査期間	H6. 7. 4～ 7. 12		調査面積	240 m ²	保護法関係文書番号	6年6月1日付け 教理 第249号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
当遺跡は亀山市北部に位置する台地上にある。調査区内においては、現状の畑地に関連すると思われる溝が数条と、小ピットが少々確認された。				なし		土師器細片のみ	
関連文献							
No.	13	遺跡名	萩原裏ノ山遺跡		台帳番号	361-41	
所在地	鈴鹿郡 関町 萩原 字 裏ノ山 ・古厩 字 宝路ほか						
調査原因	一般国道25号関IC拡幅工事			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	清水 正明		
調査期間	H6・7・15～9・14		調査面積	900 m ²	保護法関係文書番号	6年6月13日付け 教理 第272号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
関ICの北側、南北にはしる道の東西の丘陵が調査地である。道路拡幅のため工事が着工されたところ、瓦が地元の人に拾われ、緊急に発掘調査が行われた。 瓦窯の前庭部（2基）と3ヵ所の瓦溜が検出されたほか、裏ノ山地区では20数基の中世墓が検出された。 軒瓦は、重廓文軒平瓦・重圈文軒丸瓦が出土した。				瓦窯の前庭部 2基 瓦溜 3ヵ所 中世墓 20数基		重廓文軒平瓦 重圈文軒丸瓦 ほか瓦多数 蔵骨器 山茶碗 五輪塔	
関連文献	森川幸雄「鈴鹿郡関町出土古瓦」『Mie History 4』三重歴史研究会 1992						



六大A遺跡家屋壁材（南から）

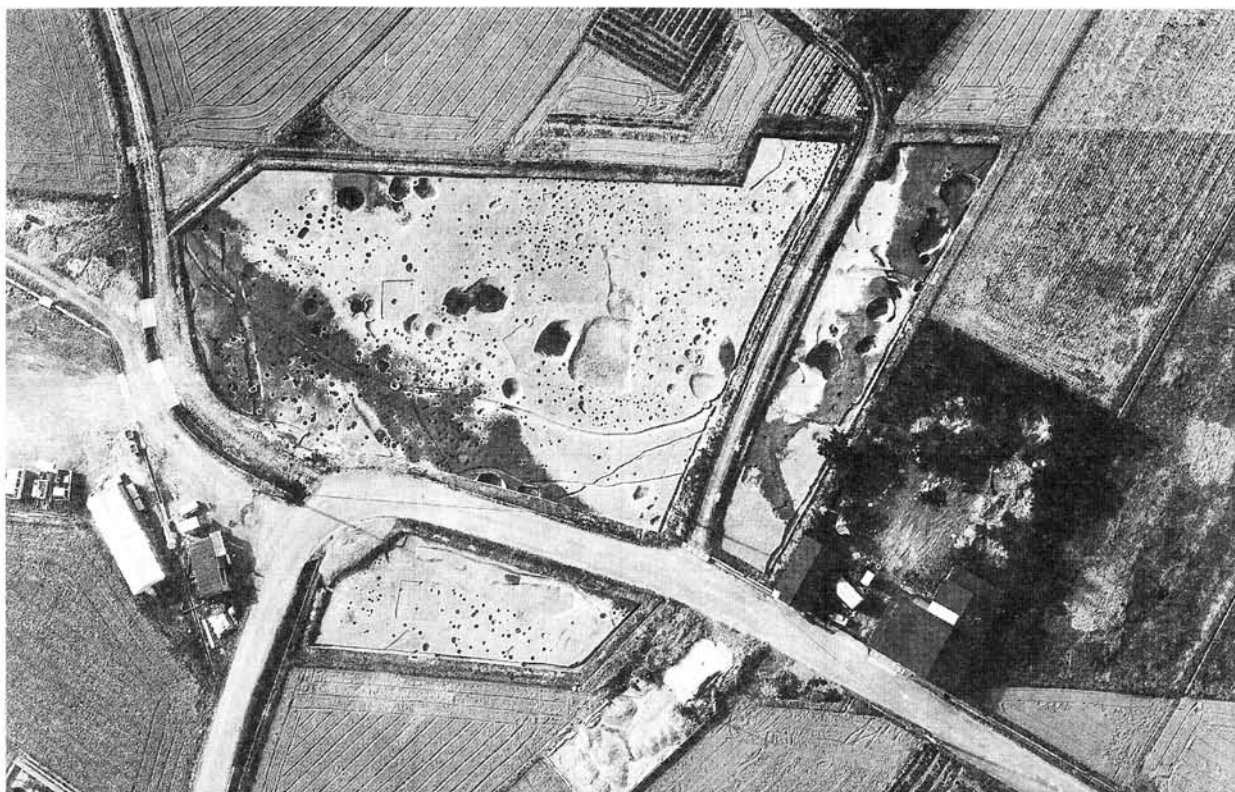
No.	14	遺跡名	六大A遺跡 (A・B・C地区)		台帳番号	201-693	
所在地	津市 大里窪田町 字 花村						
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	中川 明 穂積 裕昌 中村 光司		
調査期間	H6. 4. 13 ～H7. 3. 3		調査面積	8,780 m ²	保護法関係文書番号	6年3月10日付け 教埋 第117号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>志登茂川右岸の段丘上から段丘斜面にかけて位置する。県道津・関線から北へ向かってA・B・C地区を設定し、調査した。</p> <p>(A地区) 標高9.6mほどに位置する。遺構としては、調査区東側に掘立柱建物を検出し、柱穴から山茶碗、土師器甕・羽釜が出土した。また、短刀、鎌、山茶碗を検出した中世墓1基と、調査区南側に井戸3基を確認した。</p> <p>(B地区) 標高7～8mに位置する。調査区の半分以上を最大幅30mを越える大溝が占める。大溝は弥生時代後期には存在し、ある程度埋没の進んだ古墳時代中期に至って左岸に石組みの井泉(底から刀形と勾玉出土)、右岸に礫敷を施した。この時期には、土師器とともに大量の韓式系土器や初期須恵器も存在するほか、刀形の集中出土や多数の滑石製模造品が出土するなど祭祀の痕跡も明瞭である(祭祀が存在したらしいことは出土土器の様相から古墳時代前期についてもいえる)。大溝からは、全国的にも極めて珍しい家屋壁材や横櫓など多種多様の大量の優秀な木製品も出土した。</p> <p>(C地区) 標高4.7mほどに位置する。すでには場整備によって削平された部分が多く、人為的な遺構はわずかである。調査区中央部で北東側への落ち込みを確認した。落ち込み部の埋土から多量の弥生土器、古式土師器が出土した。</p>				<p>掘立柱建物(13世紀以降) 井戸、中世墓土坑、溝</p> <p>大溝(弥生後期～古墳時代、窪み自体は中世まで存続)、井泉(大溝内)、掘立柱建物2棟(古墳時代後期)、柱列・井戸3基・配石・土坑(中世)</p> <p>落ち込み 溝2条(5～6世紀)</p>		<p>土器(土師器、山茶碗・山皿、常滑甕ほか)、木器(下駄等)</p> <p>土器(弥生後期・土師器・韓式系・初期須恵器・花押入山茶碗等)、滑石製模造品(子持勾玉・勾玉・紡錘車・剣形等)、木器(祭祀具・建築材・家具・紡織具等)、銅鏃・鉄矛</p> <p>土器(縄文晩期・弥生後期・古式土師器・韓式系土器・初期須恵器)</p>	
関連文献	三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』1995						
No.	15	遺跡名	六大B遺跡 (A地区)		台帳番号	201-694	
所在地	津市 大里窪田町 字 出口						
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	本堂 弘之 山本 義浩		
調査期間	H6. 6. 21～8. 8		調査面積	500 m ²	保護法関係文書番号	6年4月6日付け 教埋 第118号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>六大B遺跡は、志登茂川と毛無川に挟まれた河岸段丘とその南斜面に立地する。A地区は、遺跡の北端部にあたり、段丘上を東西に通る伊勢別街道に接する。同街道の宿場「窪田宿」の一角にあたり、江戸時代を中心とした遺構・遺物が確認された。</p>				<p>○鎌倉時代 井戸 1基</p> <p>○江戸時代 土坑 溝</p>		<p>○鎌倉時代 山茶碗</p> <p>○江戸時代 土師器 肥前産 磁器 瀬戸・美濃産 陶器、磁器 信楽・伊賀産 陶器</p>	
関連文献	三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』1995						

No.	16	遺跡名	蔵田遺跡（第1次）		台帳番号	201-575	
所在地	津市 納所町 字 蔵田ほか						
調査原因	一般国道23号中勢道路建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	山本 義浩 宮田 勝功		
調査期間	H6. 8. 22 ~ H7. 1. 25		調査面積	5,600 m ²	保護法関係文書番号	6年4月6日付け 教埋 第119号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>本遺跡は安濃川によって形成された沖積平野の中央部の微高地に位置する。標高7m前後で現況は水田である。便宜上、用水路を境に北区と南区に分け調査を行った。</p> <p>(北区) 調査区の東トレンチには黒色粘土層（未分解植物層と考えられる）が約5cmの厚さで波状に堆積しており、当初水田遺構の可能性が考えられた。調査区南隅から水田遺構と思われる畦畔を検出した。また黒褐色上面で牛の足跡を検出し、さらに下層の調査のために掘削した南北トレンチの青灰色砂質土から縄文土器片を検出し、堅果類も出土している。</p> <p>(南区) 遺構検出面はは場整備により削平され浅く、また遺構は調査区の西から南にかけて分布する。主な遺構には大溝、溝、土坑などがあり、遺構の時期は弥生時代中期から現代までに至るが中心になる時期は弥生時代後期から古墳時代前期である。特に大溝は調査区西中央部から南中央部にかけて検出され、その他の溝もほぼ同じ方向を示している。調査区中央部から南東部にかけては土坑4基が見られ中央部に位置する2基の土坑は径約3mを測る大きな土坑である。土坑からは弥生時代後期から古墳時代中期の遺物が出土している。下層の暗青灰粘質土からは噴砂の砂脈が数条検出され、さらに青灰シルト層からは縄文土器（縄文時代後・晩期）も出土している。</p>				<p>牛の足跡 41個 ○弥生時代中期 土坑 1基</p> <p>○弥生時代後期から古墳時代中期 大溝 1条 溝 3条 土坑 2基</p> <p>○中・近世 溝 1条</p>		<p>縄文土器（深鉢） 弥生土器（壺、甕） 土師器（壺、S字甕、高杯など） 須恵器（杯蓋、甕など） 木器（木錘） 石器（石鎌・紡錘車） 銭貨（開元通寶） その他 中・近世陶磁器</p>	
関連文献	三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』1995						
No.	17	遺跡名	細野遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	安芸郡 美里村 北長野						
調査原因	県営は場整備事業			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	浜口 元 松本 美先		
調査期間	H. 6. 5. 12~6. 30		調査面積	850 m ²	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第198号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>北長野の集落の北東、長野川にそそぐ支流細野川右岸にある。付近には長野城址、細野城址がある。</p> <p>遺跡範囲の内、削平を受ける部分について調査を行った。</p> <p>現地は比高差1m弱の棚田であるが、原地形は南西に向かう斜面である。</p> <p>12世紀中頃~16世紀の柱穴や中世墓と思われる遺構が検出されており、中世の集落跡の周辺部と墓域にあたると思われる。</p>				<p>柱穴群（調査区西部に集中） 中世墓 両脇に火を受けた石を配し、中央部には炭化物が残る旧河道</p>		<p>中世墓 山茶碗 その他 土師器 皿、鍋、羽釜 陶器 天目茶碗 山茶碗</p>	
関連文献							

No.	18	遺跡名	大洞遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	安芸郡 美里村 北長野 大洞						
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	浜口 元 松本 美先		
調査期間	H6. 5. 12～ 6. 30		調査面積	560 m ²	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第199号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
当遺跡は北長野の集落の北東、長野川にそそぐ細野川右岸にあり、付近には長野城跡、細野城跡がある。調査の結果、遺跡からは柱穴・土坑等数基検出された。遺物は少なかった。				なし		染付 土師器（鍋・皿） 天目茶碗、山茶碗 緑釉陶器	
関連文献							
No.	19	遺跡名	風呂ノ谷遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	安芸郡 美里村 北長野 風呂ノ谷						
調査原因	県営ほ場整備事業			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	浜口 元 松本 美先		
調査期間	H6. 5. 12～ 6. 30		調査面積	580 m ²	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第200号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
当遺跡は北長野の集落の北東、長野川にそそぐ細野川右岸にあり、付近には長野城跡、細野城跡がある。調査の結果、遺跡からは柱穴・土坑等数基が検出された。遺物は少なかった。				なし		天目茶碗、山茶碗	
関連文献							
No.	20	遺跡名	釜生田遺跡（坊川原地区）		台帳番号	405-21	
所在地	一志郡 嬉野町 釜生田 字 坊川原						
調査原因	県営ほ場整備事業（中郷地区）			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	高崎 仁 田中 伸之		
調査期間	H6. 5. 9～8. 12		調査面積	2,500 m ²	保護法関係文書番号	6年4月11日付け 教埋 第204号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
釜生田遺跡の北西部分の坊川原地区の調査。遺構は溝7条とすり鉢状の土坑20基がみつかった。遺物は主に包含層と自然流路から出土した。				溝 土坑		縄文 石鏃 須恵器片 山茶碗 土師器（鍋・皿等）	
関連文献							

No.	21	遺跡名	鴻ノ木遺跡（第6次調査）		台帳番号	未登録	
所在地	松阪市 射和町 字 鴻ノ木 ・中万町 字 水引場						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	下平 康弘		
調査期間	H. 6. 8. 23～7. 1. 25		調査面積	1,300㎡	保護法関係文書番号	6年6月30日付け 教埋 第282号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>橿田川左岸の河岸段丘上に立地。平成4年度の第3次調査区の北に隣接、平成3年度の第2次調査区、平成5年度の第5次調査区の南に隣接。今次の調査で予定路線内の調査は完了。</p> <p>今回、はじめて古墳時代の遺構を検出した。溝および竪穴住居がある。この溝は、幅約1m、深さ1.4mのV字溝で、検出面よりやや下で欠山期の高杯やS字口縁甕などが10個体ほど投棄された状態で出土した。この溝を切って古墳時代中期～後期と思われる1棟、やや離れて1棟の計2棟の竪穴住居を検出した。2棟とも1辺が5～5.5mの方形で、東壁にカマドを持つ。</p> <p>縄文早期押型土器の包含層に対比できる層は、第5次調査区より続いて存在するのが確認されたが、層中に当該時期の遺物は包含せず、また遺構も検出されなかったことから、縄文時代早期の遺跡は今調査区までは広がらないことが判明した。</p>				<p>○古墳時代前期溝 1条 ○古墳時代中期～後期竪穴住居 2棟</p>		<p>土師器（壺・甕・高杯・碗・台付き甕） 須恵器（杯） 剣形石製品</p>	
関連文献	『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報II～IV』県埋文センター 1992						
No.	22	遺跡名	堀町遺跡（第1次調査）		台帳番号	204-646	
所在地	松阪市 朝田町 字 堀町						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	小浜 学		
調査期間	H. 6. 8. 26～H. 7. 2. 14		調査面積	3,000㎡	保護法関係文書番号	6年6月30日付け 教埋 第283号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>橿田川下流沖積平野の自然堤防上に所在する遺跡である。</p> <p>弥生時代後期～室町時代にかけての遺構群を確認した。また、完形の弥生土器をはじめ、各時代の土器・木製品などが多量に出土した。調査区北側の弥生時代後期初頭の土坑より、流水文を施した銅鐸形土製品が出土している。</p>				<p>○弥生時代後期土坑 ○古墳時代前期土坑 ○飛鳥時代井戸、溝 ○奈良時代土坑、溝 ○平安時代掘立柱建物、溝、井戸 ○鎌倉時代土坑 ○室町時代土坑 など</p>		<p>弥生土器 銅鐸形土製品 石包丁 古式土師器 手づくね土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 緑釉陶器 山茶碗 製塩土器 竪櫛 有頭状木製品 など</p>	
関連文献	「堀町遺跡」『松阪市史』第2巻考古編 松阪市 1978 『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報 IV』県埋文センター 1994						
No.	23	遺跡名	朱中遺跡（第2次調査）		台帳番号	204-638	
所在地	松阪市 射和町 字 朱中						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	東 良樹		
調査期間	H. 6. 9. 5～9. 22		調査面積	400㎡	保護法関係文書番号	6年6月30日付け 教埋 第284号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>橿田川左岸、朱中古墳の山裾にあたる斜面に立地する。</p> <p>調査区の3分の1ほどが攪乱を受けており、遺構は溝を一条検出したのみである。</p>				<p>○奈良時代～平安時代溝 1条</p>		<p>土師器 陶器 円形加工製品</p>	
関連文献	『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報 II』県埋文センター 1992						

No.	24-1	遺跡名	菅生遺跡（立会）	台帳番号	未登録
所在地	松阪市 菅生町 字 北浦				
調査原因	県営ほ場整備		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	前川 嘉宏	
調査期間	H. 6. 10. 3	調査面積	31 m ²	保護法関係文書番号	6年9月1日付け 教理 第439号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
遺跡範囲のうち、削平を受ける排水路部分のみ発掘調査を実施した。地表面から約2m下で、溝・ピットが検出された。弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と思われる。			溝1条（幅50cm） ピット4個	○弥生時代後期 高杯・壺 ○古墳時代前期 土師器（高杯・甕）	
関連文献					
No.	25	遺跡名	飛中遺跡（立会）	台帳番号	未登録
所在地	松阪市 菅生町 字 飛中・焼佛				
調査原因	県営ほ場整備		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	前川 嘉宏	
調査期間	H. 6. 10. 4	調査面積	65 m ²	保護法関係文書番号	6年9月1日付け 教理 第437号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
遺跡範囲のうち、削平を受ける排水路部分のみ発掘調査を実施した。弥生時代あるいは奈良時代の遺構の検出が期待されたが、遺構・遺物とも確認されなかった。			なし	なし	
関連文献					



堀町遺跡全景（東から）

No.	26	遺跡名	北野遺跡（第4次調査）			台帳番号	442-228
所在地	多気郡 明和町 養村 字 西へべら						
調査原因	県営は場整備（明星地区）			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	竹田憲治・野口美幸・越賀弘幸		
調査期間	H 6. 5. 9～ 9. 3		調査面積	2,540㎡	保護法関係文書番号	6年4月4日付け 教埋 第187号	
遺跡の概要					主な遺構	主な遺物	
<p>南にゆるく傾斜する低台地上に立地する。平成2年、4年、5年にも調査を行い、今回の調査は第4次調査となる。</p> <p>調査の結果、弥生時代後期～古墳時代初めの竪穴住居の9棟が検出された。竪穴住居の中にはこれまでに検出されていたのと同様、暗渠の排水路もみられた。</p> <p>土師器焼成坑は、新たに28基が検出され、第4次調査までの総計は214基となった。また、時期的にも7世紀初め頃にまでさかのぼるものも確認することができた。</p> <p>また、平成5年度、6年度調査区の下層（旧石器）の調査も行った。遺構を検出することはできなかったが、ナイフ形石器（チャート製）、剝片（チャート、サヌカイト）等が出土した。</p>					<p>○弥生後期 竪穴住居7棟 溝 2条</p> <p>○弥生後期～古墳時代初 竪穴住居2棟</p> <p>○飛鳥～奈良時代 竪穴住居10棟 掘立柱建物3棟 土師器焼成坑33基</p> <p>○時期不明 竪穴住居8棟 掘立柱建物3棟</p> <p>※一部の遺構は平成5年度（第3次）調査と重複する。</p>	<p>ナイフ形石器 剝片等 弥生土器 古式土師器 土師器 須恵器</p>	
関連文献	田村陽一「北野遺跡」『H2・農基盤整備埋文発掘調査報告2』県埋蔵文化財センター 1991.3						
No.	27	遺跡名	大日山古墳群（2・3・4号墳）			台帳番号	未登録
所在地	多気郡 多気町 荒蒔 字 大日山						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	西村 修久 小浜 学		
調査期間	H. 6. 4. 7～6. 10		調査面積	600 ㎡	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第131号	
遺跡の概要							
<p>多気町荒蒔の集落の東側で、いくつもの細い尾根を突き出す丘陵地には、明気古墳群、立岡山古墳群、宮の谷古墳群、黒田山古墳群など、6世紀から7世紀にかけての古墳が多数造営されている。大日山古墳群もこの丘陵地の中の小さな尾根上に所在する。1号墳は、すでに1992年3月、工業団地造成中に尾根頂部近くで発見されている。</p> <p>今回調査した2～4号墳は、1号墳から西へ160mの尾根西端部に位置する。2・4号墳は尾根鞍部に造営されているが、3号墳は尾根北斜面の中腹につくられており、調査前の地形ではテラス状になっていた。2号墳には埋葬施設が見当たらず、3・4号墳には墳丘がみあたらなかった。</p>							
備考	古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	
2号墳	円	径20	見当たらず	須恵器片 杯・高杯・甕			
3号墳	(あえて言うなら「テラス状」とでも・・)		(方形墓壇)	須恵器 蓋杯・壺 土師器 甕	7世紀初頭 (TK217古)		
4号墳	?	?	木棺直葬	須恵器 蓋・壺	7世紀前半 (TK217新)		
関連文献							

No.	28	遺跡名	上ノ垣外遺跡（第2次調査）		台帳番号	441-276	
所在地	多気郡 多気町 荒蒔 字 上ノ垣外・茶ノ木下						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	東 良樹 下平 康弘		
調査期間	H. 6. 4. 18～8. 31		調査面積	3,050㎡	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第132号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>櫛田川中流右岸、本流に流れ込む小河川（相可川）の斜面に立地する。平成5年度の第1次の調査区北側で、築護遺跡までの範囲を調査した。 縄文時代～鎌倉時代までの各遺構を検出した。出土遺物では縄文時代後期の蛇紋岩製の土師器の大珠の出土が特筆できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代 土坑 1基 埋設土器 1基 ○奈良時代 竪穴住居 3棟 ○平安時代 溝 2条 掘立柱建物 ○鎌倉時代 配石遺構 		<p>縄文土器 （中期～後期） 石鏃、石鏟、スクレーパー 大珠 弥生土器 土師器（杯・皿・甕・壺など） 緑釉陶器 灰釉陶器 山茶碗、山皿 志摩式製塩土器 など</p>	
関連文献	『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報 IV』 県埋文センター 1994						
No.	29	遺跡名	新徳寺遺跡（第1次調査）		台帳番号	441-145	
所在地	多気郡 多気町 相可 字 新徳寺						
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設			事業主体	建設省中部地方建設局		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	西村 修久 小浜 学		
調査期間	H. 6. 5. 23～8. 24		調査面積	1,100㎡ 下層 333㎡	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第130号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>櫛田川右岸の自然堤防上に所在する遺跡である。昭和40年代の櫛田川堤防工事・相可川のつけかえ・水門建設という一連の治水事業の際、多くの縄文土器片と石鏟等が採集されており、遺跡のかかなりの部分が既に破壊されたと考えられていた。今回の調査は、相可川の旧流路と櫛田川の堤防に挟まれ、破壊を免れた部分について行われた。 10㍻弱の表土を除去するだけで縄文時代の遺構が検出される箇所もあり、現在では当時の土地が50～60㍻は削られているようである。 北白川上層式や堀之内式の縄文土器の出土が多く、また、竪穴住居跡や埋設土器などの存在などから、縄文時代後期前半の居住空間の一部であったことがうかがえる。 また、櫛田川に直交するかたちの大溝や、土壇墓と思われる方形墳など、中世（室町）の遺構も検出された。 なお、昨年度の試掘調査の結果から、遺跡が現在の相可川を越えて櫛田川の上流方向に広がっていることがわかっている。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代後期前半 竪穴住居(1棟) 石組炉有り 埋設土器(4基) 土坑 ○室町時代 大溝 土壇墓 		<ul style="list-style-type: none"> ○縄文時代 土器中期（微量）後 期福田K2広瀬土坑北 白川上層堀之内 石器石鏟、石斧スク レーパー石鏟、磨石 耳栓片 辰砂原石 ○室町時代 土師器（鍋・皿） 	
関連文献	『多気町史 通史』多気町史編纂委員会 1992 『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報 IV』 県埋文センター 1994						
No.	30	遺跡名	松葉遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	多気郡 勢和村 波多瀬 字 松葉						
調査原因	県営畜産経営環境整備事業			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	浜口 元 松本 美先		
調査期間	H. 6. 7. 18～8. 29		調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	6年5月31日付け 教埋 第295号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>櫛田川右岸の段丘面に位置し、波多瀬城の東側にあたる。 排水路と削平を受ける部分について、4地区に分けて調査を行った。北側の2地区については、鎌倉～室町頃の溝などが確認できた。南側の2地区からは、縄文中期末の土器が中心に出土したが、この時期の遺構は確認できなかった。また、弥生中期後半の大形の壺が横たわった土坑も検出された。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 柱穴 溝 土坑 		<p>縄文土器 弥生土器 土師器 山茶碗</p>	
関連文献							

No.	31-1	遺跡名	ニツ屋遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	度会郡 御園村 高向						
調査原因	県道大湊宮町停車場線道路改良事業			事業主体	県土木部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	高崎 仁 越賀 弘幸		
調査期間	H 6 . 9 . 12～11 . 8		調査面積	1,100㎡	保護法関係文書番号	6年8月5日付け 教埋 第331号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
宮川の下流右岸に位置する。以前の宮川の堤防決壊のため、広く攪乱を受けていた。ほぼ南北方向の大溝と浅い溝が検出された。大溝のところ所に土坑状の窪みがあった。溝底部から磨滅した中世の土師器片が出土したことからこの頃には既に溝として機能していたと考えられる。				溝		須恵器片 緑釉陶器片2点 山茶碗 土師器(鍋・皿等)	
関連文献							
No.	32	遺跡名	沖ノ下遺跡(立会)		台帳番号	未登録	
所在地	度会郡 度会町 田口 字 沖ノ下						
調査原因	県営は場整備			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	前川 嘉宏 田中 伸之		
調査期間	H . 6 . 10 . 11		調査面積	270㎡	保護法関係文書番号	6年9月1日付け 教埋 第436号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
遺跡範囲のうち、削平を受ける排水路部分のみ発掘調査を実施した。中世の遺構の検出が期待されたが、明確な遺構としては、近世の埋甕土坑1基が検出されたのみである。				埋甕土坑1基		常滑産陶器甕	
関連文献							
No.	33	遺跡名	中村遺跡(立会)		台帳番号	未登録	
所在地	度会郡 度会町 田口 字 中村						
調査原因	県営は場整備			事業主体	県農林水産部		
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	前川 嘉宏 田中 伸之		
調査期間	H . 6 . 10 . 11		調査面積	270㎡	保護法関係文書番号	6年9月1日付け 教埋 第435号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
遺跡範囲のうち、削平を受ける部分を発掘調査した。中世の遺構の検出が期待されたが、遺構・遺物とも確認されなかった。				なし		なし	
関連文献							

No.	34	遺跡名	弥助窯跡	台帳番号	483-56
所在地	阿山郡 阿山町 丸柱 字 平子				
調査原因	国道422号線特改1種(丸柱I区)		事業主体	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	浜口 元 増田 博	
調査期間	H 6. 9. 1 ~ 10. 25	調査面積	300㎡	保護法関係文書番号	6年7月5日付け 教埋第293号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>現地形は北にのびた尾根であったが国道422号がこの尾根を削ってつくられたため、遺跡のかなりの部分が既に壊されている。今回の調査では、国道422号の拡幅による遺跡南側部分について行った。</p> <p>調査の結果、窯跡と推定できる跡が3ヶ所、また、大量の製品・窯道具を検出した。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○レンガを組んだ窯状遺構 ○頂上部の階段状窯跡遺構 ○柱穴・溝が集中する窯跡遺構 	<ul style="list-style-type: none"> ○製品 土鍋・行平(数種の刻印あり)・トチリ土瓶・灯明皿・灯明受け皿・湯呑み茶碗・茶碗・仏器・素焼き製品 ○窯道具 さや(数種の窯記号あり)・棚板・羽間・トチン・色見穴の蓋 	
関連文献	川崎克「伊賀及び信楽 故さとの歩み」『日本陶磁大系8』平凡社 『阿山町史』				
No.	35	遺跡名	遊山城跡	台帳番号	未登録
所在地	阿山郡 伊賀町 愛田 字 遊山				
調査原因	農道整備		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	小林 秀 松本 美先	
調査期間	H 6. 8. 22 ~ 11. 25	調査面積	4,300㎡	保護法関係文書番号	6年7月20日付け 教埋第364号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>愛田の集落の北側の山上に位置している。付近には竹島城や高塚氏館跡がある。</p> <p>主郭はすでに破壊されていたが、東西面と南面の土塁は良好に残っていた。時期的には16世紀の中頃と思われる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 土塁 堀切 	<ul style="list-style-type: none"> 天目茶碗 播鉢 	
関連文献					
No.	36	遺跡名	西出遺跡	台帳番号	206-955
所在地	上野市 山神 字 西出				
調査原因	県営は場整備事業(上野北部地区)		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	高崎 仁	
調査期間	H 6. 8. 22 ~ 9. 1	調査面積	850㎡	保護法関係文書番号	6年7月20日付け 教埋第351号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>は場整備事業により削平を受ける850㎡についての調査。</p> <p>A, B, C, Dの4地区のうち最も北のA地区では、ピット数個が見つかった。また、C地区ではピット数個が見つかったほか、自然の落ち込みの埋土から奈良時代の土師器甕が出土した。</p>			ピット群	<ul style="list-style-type: none"> ○弥生~古墳時代 土師器、須恵器 ○古墳時代初頭 土師器(甕) <p>瓦器碗</p>	
関連文献					

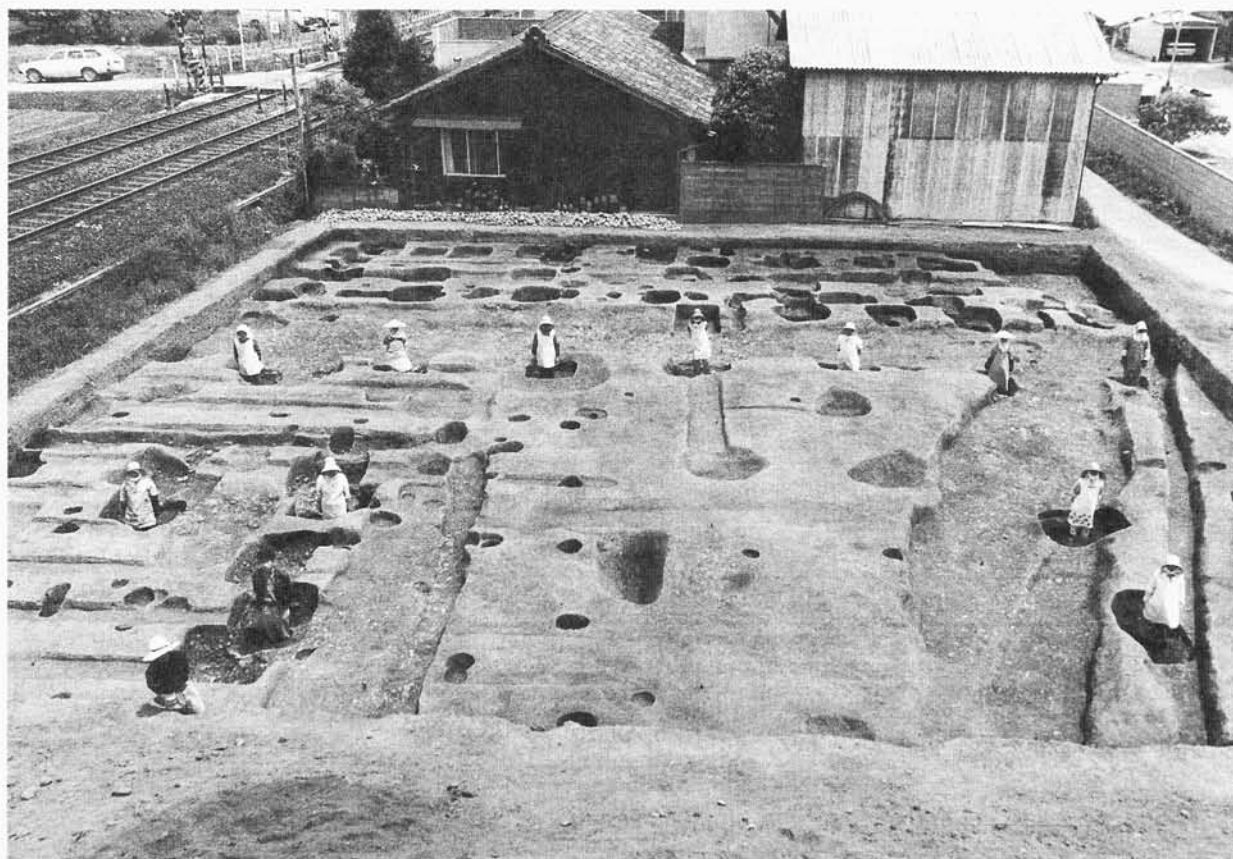
No.	37	遺跡名	井戸地遺跡	台帳番号	未登録
所在地	上野市 土橋 字 井戸地				
調査原因	県営ほ場整備事業		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	筒井 正明 田中 伸之	
調査期間	H 6.10.26~12.27	調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	6年9月27日付け 教埋 第417号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
井戸地遺跡は柘植川北岸の丘陵上にあり、推定される古代東海道沿いに位置する。 今回の調査区は土橋川の東岸にあり、調査区東部の標高の低いA地区からは奈良時代のものと思われる掘立柱建物を、調査区西部の標高の高いB地区からは中世の土坑・溝等を、それぞれ検出した。 またA地区の西半分は土橋川の氾濫原と思われ、同堆積土からは古墳時代末～飛鳥・奈良時代の遺物が大量に出土した。			○古代掘立柱建物 3棟 ○室町土坑 1基 柵列 2条 溝 3条	○古墳時代古式土師器 ミニチュア土器 他 ○飛鳥・奈良時代土師器 須恵器（墨書土器有） 他 ○室町時代土師器 信楽焼 瓦器 他	
関連文献					
No.	38	遺跡名	高座遺跡（喰代古墳）	台帳番号	未登録
所在地	上野市 喰代 高座				
調査原因	地方特定道路上野大山田線道路改良		事業主体	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	竹内 英昭 増田 博	
調査期間	H 6. 5. 11~ 6. 10	調査面積	150㎡	保護法関係文書番号	6年4月8日付け 教埋 第192号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
高座古墳群に隣接する丘陵根端に立地する。主に地山を整形して一辺5mほどの方形土壇を造成している。埋葬施設等は検出されず、土壇部から古墳時代後期の須恵器壺片が出土した。			○古墳時代方形土壇状遺構	○古墳時代須恵器（壺） ○奈良時代須恵器（壺）	
関連文献					
No.	39	遺跡名	森脇遺跡（第4次調査）	台帳番号	206-671
所在地	上野市 市部				
調査原因	広域農免道（上野～依那古）建設		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	竹内 英昭 増田 博	
調査期間	H 6. 7. 4~ 8. 31	調査面積	1,500㎡	保護法関係文書番号	6年6月2日付け 教埋 第237号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
第二次調査区の北に位置し、調査区の大部分は現農道のため削平を受けていた。弥生中・後期以降の遺物を含む旧河道2条の他、古墳時代の堅穴住居2棟ならびに掘立柱建物3棟等を検出した。			○弥生時代旧河道 ○古墳時代堅穴住居 掘立柱建物 土坑 溝 旧河道 ○飛鳥時代旧河道 ○奈良時代旧河道	○弥生時代弥生土器（壺・甕・高杯・器台） 石包丁 ○古墳時代須恵器（蓋杯・高杯・壺・甕） ○飛鳥時代須恵器（蓋杯・長頸壺） 土師器（杯・高杯） 石製品（砥石） 木製品（曲物） ○奈良時代須恵器（杯身・蓋杯）	
関連文献	森川常厚『森脇遺跡（第三次）発掘調査報告』三重県教育委員会 1991				

No.	40	遺跡名	西横尾遺跡	台帳番号	未登録
所在地	上野市 安場 字 西横尾				
調査原因	国道368号線道路改良		事業主体	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	小林 秀 宇河 雅之	
調査期間	H 6. 5. 16～ 5. 25	調査面積	150㎡	保護法関係文書番号	6年4月15日付け 教理 第189号
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
横尾遺跡は、横尾川（現在は農地整備により消滅）の左岸丘陵の尾根上に位置している。調査の結果、石組1基と土坑2基を検出した。石組は小石室状で幅約1m、長さ約2mの規模であった。時期的には鎌倉時代頃と考えられる。			石組 1基 土坑 2基		青磁片 瓦器片
関連文献					
No.	41	遺跡名	高寺遺跡	台帳番号	未登録
所在地	名賀郡 青山町 伊勢路 字 高寺				
調査原因	県営ほ場整備事業		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	野口 美幸 竹内 英昭	
調査期間	H 6. 9. 1～10. 27	調査面積	1,350㎡	保護法関係文書番号	6年7月28日付け 教理 第335号
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
青山峠の伊賀側登り口付近、木津川とその支流の青山川によって解析された小盆地に立地する。標高は240m程度である。 調査の結果、飛鳥・奈良時代の竈を持つ竪穴住居、総柱で倉庫と考えられる掘立柱建物及び平安時代末期の掘立柱建物、配石遺構を検出した。また、包含層より縄文時代中期の土器も確認した。 平安時代後期の掘立柱建物のうち2棟は、建物方向や柱並びから同時存在であった可能性がある。1棟は5間×4間、もう1棟は4間×4間で、主屋・副屋の関係であろうか。配石遺構は建物の間及び重複する位置で検出した。建物との前後関係は不明である。付近からは多量の瓦器や土師器、陶器甕などが出土している。瓦器の中には焼成不良もしくは二次焼成を受けたと考えられるものも出土している。			○飛鳥・奈良時代 竪穴住居 3棟 掘立柱建物 1棟 ○平安時代末期 掘立柱建物 4棟 配石遺構 2基 土坑 ○時期不明 掘立柱建物 1棟		○縄文時代中期 鉢片 ○飛鳥・奈良時代 土師器（杯・甕） 須恵器（杯・皿・瓶・甕） ○平安時代末期 土師器（羽釜・皿・小皿） 瓦器（碗・皿） 陶器（甕） 青磁（碗） 白磁（碗・皿） 青白磁（碗）
関連文献					
No.	42	遺跡名	六地藏B遺跡	台帳番号	未登録
所在地	名賀郡 青山町 伊勢路 字 六地藏				
調査原因	県営ほ場整備事業（上津地区）		事業主体	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	越賀 弘幸 竹田 憲治	
調査期間	H 6. 11. 7～H 7. 1. 30	調査面積	1,340㎡	保護法関係文書番号	6年9月7日付け 教理 第384号
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
当遺跡は青山川と木津川が合流する付近に位置する。 調査区を南北に分割する2条の溝を境界として、南側に多数の小穴群、土坑（周囲に石組を持つ土坑4基を含む）が検出された。住居跡としては、奈良時代の竪穴住居が1棟、東南隅土坑を持つもの1棟を含めて掘立柱建物が5棟以上検出された。 対する溝の北側では、整地土と思われる土層から多数の瓦器碗の破片が発見されたが、住居跡と思われる遺構は発見されなかった。			竪穴住居（奈良） 掘立柱建物5棟 （鎌倉～室町） 土坑数基 （鎌倉～室町） 小石室1基 溝数条		縄文土器 土師器 須恵器 青磁 瓦器 信楽産播鉢 短刀
関連文献 吉沢良ほか「六地藏B遺跡」『H5農業基盤整備埋文発掘調査報告1』県埋文センター1994.3					

県（斎宮歴史博物館）担当分

No.	43-1	遺跡名	斎宮跡 第105次調査			台帳番号	442-210
所在地	明和町 斎宮 字 鍛冶山 2758-1 他						
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	野原 宏司		
調査期間	H6 . 4 . 7 ~ 10 . 7		調査面積	780㎡	保護法関係文書番号	6年 4月22日付け 教斎 第4の 316号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>史跡東部には平安時代前半期を中心に確立したと考えられる方格地割の存在が明らかになってきたが、この方格地割のほぼ中央部にあたる方形区画（鍛冶山西ブロック）で実施した平成4年度第98次調査区では大規模な板塀に囲まれた内側に大型掘立柱建物が検出されるなど斎宮内院の一面と考えられるようになった。今回の調査区は内院が想定される区画の西辺部にあたる。</p> <p>調査の結果、平安時代初期～前期の柵列4条や大型掘立柱建物10棟、土坑、溝等の遺構を検出した。調査区西端で確認された南北方向の柵列2条は第29・44次調査で検出した柵列の延長部分にあたり、この区画全体を取り囲む外郭の板塀と考えられるが、調査区中央部で今回新たに発見された南北方向の柵列2条はこの区画内をさらに画する内郭の板塀として想定される。内郭の板塀と考える柵列は外郭の柵列と並行して2時期の変遷をたどるが、それぞれの柵列に対応して大型掘立柱建物が配置されることが判明した。新たな柵列と関連建物の発見によりこの区画が細分されたこと、さらに中心施設の範囲が東へ展開することが今後予想される。</p>				<p>柵列SA1411の延長 柵列SA2675の延長 柵列1・2（新たに発見した南北方向の柵列で柱間約3m） 掘立柱建物1（東西棟4間×2間で四周に雨落溝有。5間×2間に2度建て替えられる。） 掘立柱建物2（東西棟5間×2間で四周に雨落溝有）</p>		<p>緑釉陶器片13点（唾壺等） 墨書土器片4点 陶棺片1点</p>	
関連文献							
No.	43-2	遺跡名	斎宮跡 第107次調査			台帳番号	442-210
所在地	多気郡 明和町 竹川 字 中垣内 414 他						
調査原因	計画調査			事業主体	三重県教育委員会		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	赤岩 操		
調査期間	H6 . 7 . 18 ~ 11 . 15		調査面積	530㎡	保護法関係文書番号	6年 8月24日付け 教斎 第4の 791号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>史跡南西部の被川を見下ろす台地縁辺部で行われた、本年度第2回目の計画発掘調査である。</p> <p>周辺では奈良三彩の出土があったり、飛鳥・奈良時代の柵列が確認されるなど、平安時代以前の斎宮を考えるうえで重要な場所である。この実態解明のために当調査区を設定した。</p> <p>その結果、弥生時代の方形周溝墓2基の他、奈良時代～平安時代にわたる竪穴住居・掘立柱建物跡・土坑、また鎌倉時代の中世墓2基も確認している。</p> <p>周辺の調査で確認されている柵列の延長部分は、いずれも当調査区内には延びてこないが、柵列と方位を揃える建物は検出しており、これらの柵列に囲まれた中において関係の深い地区であることが窺われる。</p>				<p>○弥生時代 方形周溝墓</p> <p>○奈良時代 竪穴住居 掘立柱建物 土坑</p> <p>○平安時代 掘立柱建物</p> <p>○鎌倉時代 井戸 土坑墓</p>		<p>円面硯 弥生土器 土錘 獣脚</p>	
関連文献							

No.	43-3	遺跡名	齋宮跡 第108次調査	台帳番号	442-210
所在地	多気郡 明和町 齋宮 字 柳原 2779-2 他				
調査原因	計画調査	事業主体	三重県教育委員会		
調査機関	齋宮歴史博物館	担当者	大川 勝宏		
調査期間	H6 .11 .15 ~H7. 3. 6	調査面積	1,100㎡	保護法関係文書番号	6年10月18日付け 教斎 第4の1029号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>史跡の東半部において確認されている方格地割においても、そのほぼ中央部にあたる竹神社周辺の牛葉東ブロックとその東隣の鍛冶山西ブロックでは柱間寸法約3mを測る長大な柵列による区画や、柱掘形一辺1.2m程を測る、これまでの調査では齋宮跡最大級の大型掘立柱建物が発見されている。今回は昨年度の第103次調査に続いて、この牛葉東ブロックの実態解明を目的として実施した。</p> <p>平安時代初期～前期には第103次調査区から続く柵列SA7000が確認され、東西21間分に及んだ。第44次調査のSA2655や、第10次調査のSA0587と接続するとみると、東西約107m、南北約96mの区画が想定され、この内側が当該期の齋宮において重要な地であった事がほぼ確実となった。</p> <p>またこの柵廃絶直後と考えられる時期は齋宮跡最大級の規模を持つ大型掘立柱建物が3棟、規則的に配置されていた。平安後期以降においても幅約3mほどの道路、あるいは土塁によってこの周辺がさらに細かく区画されるとい、他の地区ではあまり認められない様相を呈し、平安時代を通じて、集約的土地利用が続いた事もうかがわれる。</p> <p>緑釉陶器の出土は少ないが、金銅製金具、銅製鉈尾、鉄製雁股鎌、「某(?)」線刻陶器、平仮名習書土器など注目される遺物も多い。また、土錘、製塩土器、漆附着土器、朱附着土器、フイゴ羽口片が多い点を注意されるべき問題点である。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代後期 竪穴住居 ○平安時代初期～前期 大型柵列 区画道路側溝 L字状区画溝 大型掘立柱建物 土器溜まり土坑 ○平安時代中期～末期 区画溝 道路遺構 土器溜まり土坑 	<p>平安時代の土師器・須恵器 灰釉陶器 緑釉陶器 約30片 土錘約120片 製塩土器 約500片 漆附着土器片 朱附着土器片 円面硯片 風字硯片 須恵器転用硯 「某(?)」 線刻陶器 「中」墨書土器 かな習書土器 金銅製金具 銅製鉈尾 鉄製符般鎌 フイゴ羽口片</p>	
関連文献					



齋宮跡第105次調査・柵列と大型掘立柱建物（西から）

No.	43-4	遺跡名	斎宮跡 第106-1次調査		台帳番号	442-210	
所在地	多気郡 明和町 斎宮						
調査原因	個人農業用倉庫の新築			事業主体	明和町教育委員会		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	赤岩 操		
調査期間	H 6. 6. 14 ~ 7. 13		調査面積	180㎡	保護法関係文書番号	6年6月24日付け 教斎 第4の640号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
<p>史跡指定範囲の南端で、東西7列・南北4列と推定される方格地割の東から5列目の最南端ブロック、南辺中央にあたる場所での個人農業用倉庫の新築に伴っての事前発掘調査である。</p> <p>方形区画の南辺中央にあたることから、区画内への進入口の遺構の存在が想定されたが平安時代後期の遺構が大半で、区画の南側溝を確認するととどまった。</p> <p>しかし、遺物として緑釉陶器片を多く出土しており、当該調査区周辺の重要性は大きいものであると考えられる。</p>				<p>○平安時代 柵列 方形区画の区画溝</p> <p>○平安時代後～末期 掘立柱建物</p>	<p>○平安時代後～末期 土師器 緑釉陶器 墨書灰釉陶器</p>		
関連文献							
No.	43-5	遺跡名	斎宮跡 第106-2次調査		台帳番号	442-210	
所在地	多気郡 明和町 斎宮 字 楽殿						
調査原因	個人住宅の新築			事業主体	明和町教育委員会		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	大川 勝宏		
調査期間	H 6. 7. 8 ~ 7. 14		調査面積	26㎡	保護法関係文書番号	6年8月24日付け 教斎 第4の793号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
<p>史跡指定範囲中央北辺で、個人住宅の建設に先立って実施された緊急発掘調査である。調査面積は26㎡と狭隘なため、遺構の詳細な実態は不明だが、平安後期以降の溝が確認された事は史跡において、この周辺で当該期の遺構の分布が卓越する事を確認する事となった。</p>				<p>○平安後期以降 溝1条</p>	<p>平安時代後期～末期の 土師器 灰釉陶器片 ロクロ土師器(碗) 山茶碗 緑釉陶器片</p>		
関連文献							
No.	43-6	遺跡名	斎宮跡 第106-3次調査		台帳番号	442-210	
所在地	多気郡 明和町 斎宮 字 鍛冶山内						
調査原因	史跡内環境整備事業・側溝改修			事業主体	明和町教育委員会		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	野原 宏司		
調査期間	H 6. 8. 22 ~ 10.13		調査面積	200㎡	保護法関係文書番号	5年12月28日付け 教斎 第4の1220号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
<p>通称中町地内のエンマ川から広域園道路までの総延長470mの既設側溝改修に伴う事前調査で、平成5年度第102-6次調査に引き続いて行ったものである。</p> <p>今回の調査区は方格地割の鍛冶山西ブロックで斎宮内院が想定される方形区画の北辺部にあたり、平成4年度第98次調査区で検出した東西方向の柵列2条やこの方形区画の西辺部に相当する区画道路の延長部分が確認された。</p> <p>この結果、この区画内の外郭の板塀と考えられる柵列の東西辺は総長117.8mに及ぶことが判明した。また、奈良時代の古道も部分的に検出された。</p>				<p>奈良時代古道の延長 (SF6800)</p> <p>柵列SA6760の延長 柵列SA6780の延長 区画道路の西側側溝 SD2660の延長 区画道路の東側溝でSD 2670の延長</p>			
関連文献							

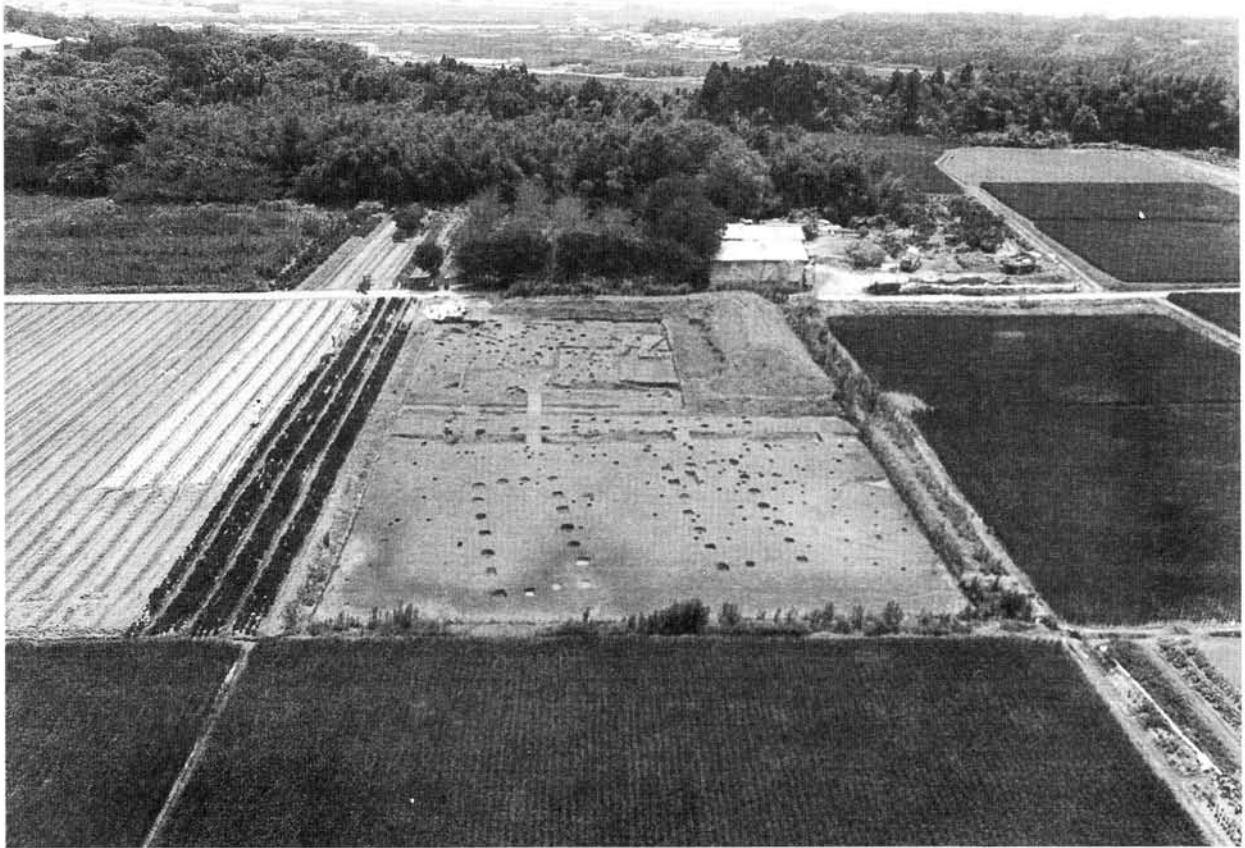
No.	43-7	遺跡名	斎宮跡 第106-4次調査	台帳番号	442-210
所在地	多気郡 明和町 斎宮 字 刈干				
調査原因	個人住宅の新築		事業主体	明和町教育委員会	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	野原 宏司	
調査期間	H 6. 10. 14～ 10. 25	調査面積	180㎡	保護法関係文書番号	6年12月21日付け 教斎 第4の1335号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>史跡北辺部のはぼ中央に位置し、町道塚山線（歴史の道）沿いで個人住宅の新築に伴う事前調査である。</p> <p>史跡南西部の古里地区から史跡北辺部を通る鎌倉時代の大溝の延長部分を検出した。溝の幅は約2.8m、完掘はできなかったが、深さ1m以上で断面形はV字形と考えられる。</p>			鎌倉時代の大溝 (SD2505)		
関連文献					
No.	43-8	遺跡名	斎宮跡 第106-5次調査	台帳番号	442-210
所在地	多気郡 明和町 斎宮 字 鍛冶山				
調査原因	農機格納小屋の建築		事業主体	明和町教育委員会	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	野原 宏司	
調査期間	H 6. 11. 4 ～ 3. 31	調査面積	650㎡	保護法関係文書番号	7年 2月17日付け 教斎 第4の1334号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>史跡東部の鍛冶山地区に所在する現況畑地で農機格納小屋の建築に伴う事前調査である。</p> <p>調査区は斎宮内院を想定する方形区画の東隣の区画（鍛冶山東ブロック）の東辺部にあたり、方格地割を構成する南北方向の区画道路（幅約12m）を検出した。</p> <p>さらに、史跡西部から東へほぼ直線的に延びる奈良時代の古道（幅約9m）の延長部分を検出し、これまでの調査で確認したもっとも東端にあたる。</p>			奈良時代古道の延長 区画道路と両側側溝		
関連文献					
No.	43-9	遺跡名	斎宮跡 第106-6次調査	台帳番号	442-210
所在地	多気郡 明和町 斎宮 字 塚山				
調査原因	個人住宅の新築		事業主体	明和町教育委員会	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	野原 宏司	
調査期間	H 7. 1. 23～ 3. 9	調査面積	130㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 教斎 第 号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>史跡北辺部に位置する町道塚山線（歴史の道）沿いの北側で個人住宅の新築に伴う事前調査で、5m×16mと3m×16mの2箇所の調査区を設定して行った。</p> <p>調査の結果、古墳の周溝と考える溝や奈良時代の東西溝、鎌倉時代以降の溝を検出した。</p>			古墳の周溝？		
関連文献					

各市町村教育委員会担当分 本調査・立会調査

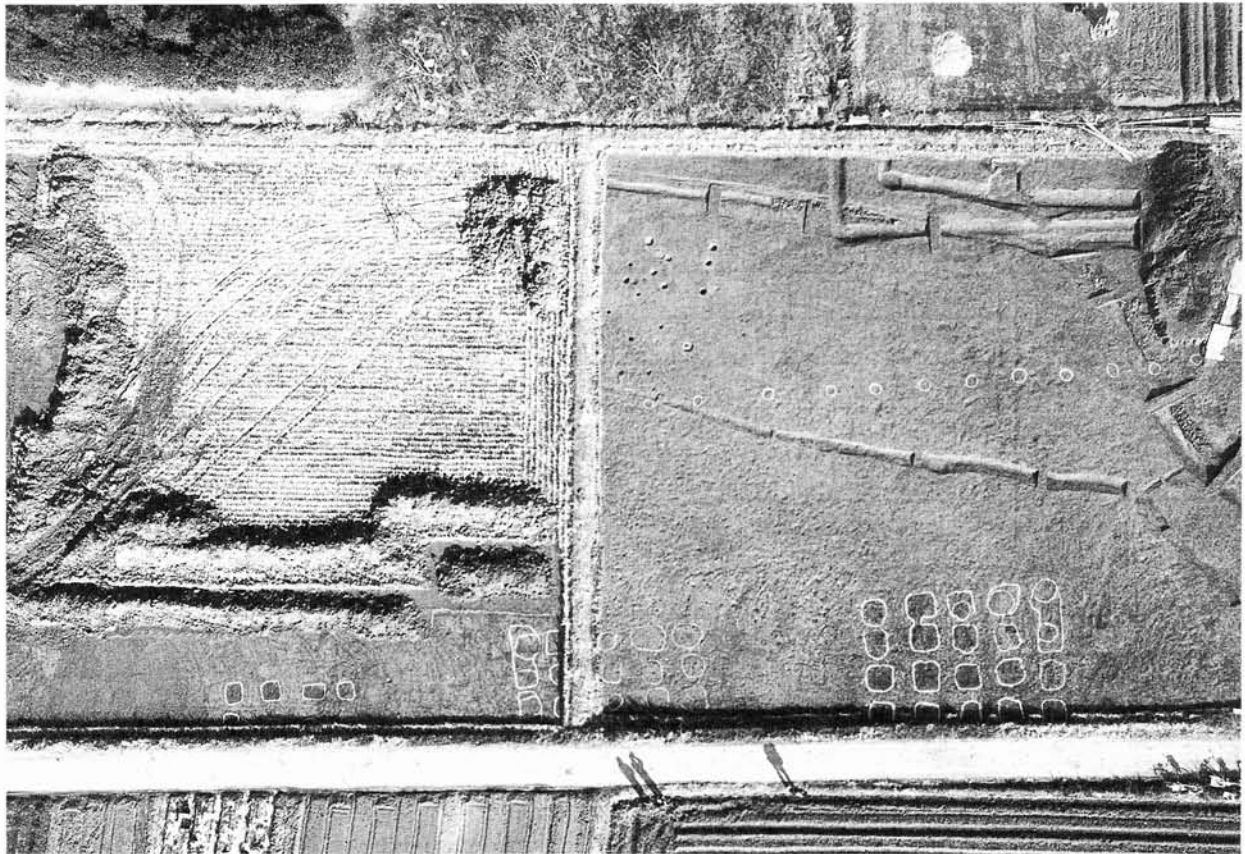
No.	44	遺跡名	西ケ谷遺跡（第2次発掘調査）		台帳番号	202-126	
所在地	四日市市 西坂部町 字 西ケ谷 ・ 山之一色町 字 堂前						
調査原因	耕地整理事業			事業主体	堂前耕地整理事業準備委員会		
調査機関	四日市市遺跡調査会			担当者	葛山 拓也		
調査期間	H6・3・16 ～11・22		調査面積	4,700㎡	保護法関係文書番号	5年10月6日付け 教文 第353号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>垂坂丘陵南斜面の裾部に広がる古墳時代後期の集落跡。平成5年に行われた発掘調査（第1次）により、西ケ谷古窯跡群に関わる工人の集落であろうことが判明し、また、土器焼成坑も検出されている。</p> <p>第2次調査は第1次調査の西側隣地に位置する。東区では第1次調査で検出した7世紀前半代の集落の広がりを確認した他谷を隔てた西区では6世紀前半代の集落も確認した。</p> <p>竪穴住居の多くにはカマドの痕跡がみられ、支脚石が残るものもある。土器焼成坑は西区でのみ検出され、いずれも7世紀前半代に操業されたものとみられる。</p> <p>工房の様な遺構は明確には検出できなかったが、土師器と須恵器の生産に関わる事例として興味深い。</p>				<p>竪穴住居 25基 掘立柱建物 8基 土器焼成坑 3基 土坑 溝 ピット</p>		<p>土師器（甕・甔） 須恵器（杯・高杯・甕） 土錘 土製紡錘車 石鎌 石製紡錘車 勾玉 鉄鎌 刀子 耳環</p>	
関連文献	『四日市市文化財保護年報5－平成5年度－』（四日市市教育委員会 1995）						
No.	45	遺跡名	市場城跡		台帳番号	202-233	
所在地	四日市市 市場町 字 大屋敷 2093-1・2093-2						
調査原因	分譲住宅建設			事業主体	株式会社名酒コンサルタント		
調査機関	四日市市遺跡調査会			担当者	川崎 正幸		
調査期間	H6・7・11 ～8・9		調査面積	270㎡	保護法関係文書番号	5年11月1日付け 教文 第397号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>朝明川右岸の河原段丘上に立地する。調査場所は、主郭を取りまく屋敷地の一画に相当する。</p> <p>面的な調査ではないため、屋敷地の全体を明らかにすることは出来なかったが、北辺の一部と東辺の土塁や溝を検出し、以下の諸点が明らかとなった。</p> <p>□当屋敷地の南北幅は、土塁内側で約40mである。</p> <p>○屋敷地内は、2段に区画され、上段裾には溝が掘られている。</p> <p>○東辺の土塁は、鍵状に屈曲する。</p> <p>なお、遺物は置土、攪乱坑、土塁崩落土から近世以降の陶器等が出土したのみで、屋敷地形成の時期を明らかにすることは出来なかった。</p>				<p>土塁 溝</p>		<p>近世陶器</p>	
関連文献							

No.	46	遺跡名	道具林古墳	台帳番号	202-24
所在地	四日市市 小牧町 字 道具林 2633-2・2633-7				
調査原因	区画整理	事業主体	四日市市小牧南土地区画整理組合		
調査機関	四日市市遺跡調査会	担当者	川崎 正幸		
調査期間	H 6・11・7 ~ 12・6	調査面積	220㎡	保護法関係文書番号	6年10月28日付け 教文 第366号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>朝明川左岸の河岸段丘上に立地する。直径11mの円墳で、幅1~2mの周溝が巡る。主体部は、割竹形木棺の木棺直葬で、棺外に副葬品が据えられていた。西側が盗掘による攪乱を受けているため、正確な規模は明らかにできないが、墓壇は幅約2.4m、長さ約4m、木棺は幅約0.7m、長さ約2.4mと推定される。</p> <p>なお、検出された主体部は墳丘中央からやや偏った位置にあるため、削平された主体部が他に1基存在した可能性も考えられる。</p>			周溝 主体部 (木棺直葬)	須恵器(蓋杯・ハソウ・甕) (MT15) 土師器(小型壺) 鉄鏃 鉄刀 鉄刀子	
関連文献					
No.	47	遺跡名	竹野一丁目遺跡	台帳番号	新発見
所在地	鈴鹿市 竹野一丁目 9・10				
調査原因	分譲マンション建築	事業主体	(株)三交不動産		
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会	担当者	藤原 秀樹		
調査期間	H 6・4・11 ~ 5・7	調査面積	680㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教遺 8号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>遺跡は鈴鹿川右岸の段丘上で、浅い開析谷に臨んでいる。遺跡は谷の湧水を利用した東西への水路とそれに沿って一列に配置された、15×20cmの方形水田跡と、その北側の微高地を南北溝で区画した屋敷地からなる。在村領主的な人物の居宅かとみられ、年代的には鎌倉時代の前半代に位置づけられる。</p>			水田跡 道路状遺構 井戸 3基 土坑 柵列 総柱掘立柱建物 2棟 小形掘立柱建物 2棟	土師器(皿・羽・釜) 山茶碗 山皿 常滑焼甕・鉢 青磁 石硯 鋤	
関連文献					
No.	48	遺跡名	寺山遺跡	台帳番号	207-14
所在地	鈴鹿市 高岡町 字 寺山 1747-1				
調査原因	共同倉庫建設	事業主体	鈴鹿市		
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会	担当者	新田 剛 山本 保志 清山 健		
調査期間	H 6・4・22 ~ 6・1	調査面積	1,800㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教遺 9号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>鈴鹿川左岸の台地上に位置し、付近には寺田山1号墳を筆頭に古墳が点在する。過去の調査においては、弥生時代から奈良時代までの遺構・遺物が検出されている。今回の調査では主に、7世紀前半から8世紀までの遺構が検出された。</p> <p>出土遺物が乏しく厳密な時期の特定は難しいが、建物の棟方向から3期程度の変遷が考えられる。</p>			○7世紀前半 方墳 4棟 竪穴住居 8棟 ○7世紀前半~8世紀 掘立柱建物 17棟 土壇 ○その他 溝・土壇	○弥生時代 扁平片刃石斧 ○7世紀前半~8世紀 土師器(杯・埴) 須恵器(杯・高杯・甕)	
関連文献					

No.	49-1	遺跡名	伊勢国分寺跡（6BIB-A～D,6BIA-B地区）		台帳番号	207-361	
所在地	鈴鹿市 国分町 字 西高木 224・226・233・234・235						
調査原因	博物館建設			事業主体	鈴鹿市		
調査機関	鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市遺跡調査会			担当者	山本保志・清山健・藤原秀樹・新田剛		
調査期間	H6,5,23～7,31 H6,12,1～H7,1,31		調査面積	3,500㎡	保護法関係文書番号	鈴教文 16号 鈴教遺3,6,8号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>調査地は僧寺跡の伽藍地の前面東南部に位置する。検出遺構は大きく4期に分類できる。まず、方形周溝3基は、古墳時代後期の古墳痕跡とみられ狐塚古墳群の広がりを示す。白鳳～奈良前半期には、並列する6×3間の大形建物2棟を中心とする、主軸をN7°Wに振る建物群が営まれ官衙的性格を持つとみられる。国分寺並行期にはほぼ正方位にそろえられた掘立柱建物、竪穴状遺構が点在しており、同一場所での建て替えも多い。国分寺付属の運営施設とみられる。6BIB-A区を東西に走る溝1は寺地の区画と推定される。平安後期以降では、一般集落とみられる方位を異にする建物群が全域に進出して、国分寺の寺勢の衰退を示す。</p>				方形周溝 3基 掘立柱建物20基以上 溝 方形区画溝 竪穴状遺構 土壌、焼土壌		軒平瓦、軒丸瓦 平瓦、丸瓦、Ⅱ 土師器、須恵器 緑釉陶器 灰釉陶器 山茶碗、鉄製品	
関連文献							
No.	49-2	遺跡名	伊勢国分寺跡（6BIB-A・I地区）		台帳番号	207-361	
所在地	鈴鹿市 国分町 字 西高木 226						
調査原因	博物館建設			事業主体	鈴鹿市		
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			担当者	山本 保志 藤原 秀樹		
調査期間	H7・1・5 ～2・28		調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 鈴教委 9 号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>調査地は僧寺跡のほぼ前面にあたり、6BIB-A～D区とは埋没谷をへだてて西側に位置する。主な検出遺構は総柱の大型建物（倉庫）ではほぼ東西に各々9m（30尺）の間をおいて配列される。東と中の建物は4×3間、西は3×2間と推定される。地形的に倉庫群は南にさらに広がると考えられる。北側には、掘立柱列が倉庫と平行に延長60m並び、倉庫群北限を区画する。年代や遺跡の性格を示す遺物にとほしいが、河曲（かはわ）郡衙の正倉である可能性がきわめて高い。</p>				総柱掘立柱建物3基 掘立柱柵列 焼土壌 溝		土師器、須恵器 瓦類	
関連文献							
No.	50	遺跡名	津賀平遺跡		台帳番号	207-522	
所在地	鈴鹿市 津賀町 字 池ノ坪 807-1外						
調査原因	農業関連施設			事業主体	鈴鹿農業共同組合		
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会			担当者	新田 剛		
調査期間	H6・7・4 ～8・10		調査面積	570㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 鈴教遺 6 号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>平成元年度に続く第二次調査。造成土及び耕作土80cmを重機で除去したのち、遺物包含層を人力掘削し、黄褐色土上面で遺構検出を行った。奈良時代から鎌倉時代までの遺構と遺物が検出された。 瓦類がもちこまれていることから、西南西約2kmに位置する長者屋敷遺跡や北東1kmに位置する川原井瓦窯跡などとの関連がうかがえる。緑釉陶器や八稜鏡などの存在から平安時代には中核的な集落であったことが考えられ、さらに石帯の出土により、地方官人との深い結びつきが考えられる。八稜鏡は柱穴様の小ビットからの出土でしかも完形品であるため、埋納例として注目される。</p>				○奈良時代 竪穴住居 土壌 ○平安時代 土壌 掘立柱建物 ○鎌倉時代 土壌 溝 掘立柱建物		○奈良時代 土師器（杯・皿・甕） 須恵器（平瓶） 製塩土器 瓦 ○平安時代 土師器（杯・皿・耳 皿・甕） 灰釉陶器碗 緑釉陶器片 土鏝、砥石、石帯、 八稜鏡 ○鎌倉時代 土師器（皿・鍋） 山茶碗、山皿、 青磁碗	
関連文献							



伊勢国分寺跡 6B1B-A地区 (北から)



伊勢国分寺跡 6B1A-I地区 (南から)

No.	51-1	遺跡名	国分遺跡	台帳番号	207-838
所在地	鈴鹿市 国分町 字 北条 1290-1				
調査原因	学術		事業主体		
調査機関	鈴鹿市教育委員会		担当者	清山 健 山本 保志	
調査期間	H 6・8・1	～	9・30	調査面積	300㎡
			保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教委104号	
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>調査区は尼寺推定地のうち『北院』とされる現国分集落の北西角にあたる。検出遺構は東西に延びる溝及び掘立柱列2である。溝内からは、多数の瓦類、鬼瓦、瓦塔片が出土し、これらは僧寺のものと異なるため、尼寺に伴うものの可能性が高い。掘立柱列は溝の廃絶後の建てられたもので、柵状に続くか目隠堀にとどまるかは不明である。これらの区画施設と瓦の出土状況からみて、尼寺の伽藍地あるいは寺地の北限を示すと考えられる。</p>			溝 掘立柱列 2基 土壇 ビット	土師器、須恵器、 重廓文軒平瓦 均整唐草文軒平瓦 唐草文縁復弁八葉 蓮華文軒丸瓦 単弁十二葉蓮華文 軒丸瓦 鬼瓦 瓦塔 山茶碗、青磁 灰釉陶器	
関連文献					
No.	11-2	遺跡名	長者屋敷遺跡	台帳番号	207-363
所在地	鈴鹿市 広瀬町 字 矢下 1132・1133				
調査原因	学術		事業主体		
調査機関	鈴鹿市教育委員会		担当者	山本保志・清山健・藤原秀樹・新田剛	
調査期間	H 6・10・6	～	12・27	調査面積	750㎡
			保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教文196号	
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>昨年度発見された伊勢国府政庁の西半部について調査を行った。いずれの建物も礎石建物で、掘り込み地業が行われ、基壇は黄色・黒色土の交互叩き締めによる版築が行われる。脇殿では地山地業ラインに添い足場穴が検出されている。礎石はすべて失われているが、掘形及び根石から、脇殿は桁行12尺、梁行10尺の10間以上×2間の長大な建物で、調査範囲内では束柱をもつ。軒廊は桁行8尺、梁行12尺の5間等間とみられる。瓦の出土状況から主要な建物は完成していたとみられるものの、脇殿等には基壇化粧がほどこされず、存続期間については短期間であったのではないかという疑問が持たれる。 築地は、地山削り出しによる基礎が幅12尺で、両脇の溝には多量の瓦が堆積しており、焼土、炭の層もみられる。</p>			正殿 軒廊 脇殿 築地 溝	重廓文軒平瓦 均整唐草文軒平瓦 重圍文軒丸瓦 須恵器 土師器	
関連文献					
No.	52	遺跡名	神戸中学校遺跡	台帳番号	207-168
所在地	鈴鹿市 十宮 四丁目 1-1				
調査原因	学校（体育倉庫）		事業主体	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会		担当者	新田 剛	
調査期間	H 6・12・19	調査面積	14㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教文270号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>表土を10～20cm除去した黄褐色地山面で遺構検出を行った。検出遺構及び遺物の年代は6世紀前半である。平成5年度の調査において検出されたのはほぼ同時期の遺構と一連のものであろう。</p>			竪穴住居 1基 土壇	土師器（甕・高杯） 須恵器（杯・甕）	
関連文献					

No.	53	遺跡名	赤郷遺跡	台帳番号	207-598
所在地	鈴鹿市 秋永町 字 赤郷 1823他				
調査原因	市道拡幅改良工事		事業主体	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市遺跡調査会		担当者	新田 剛	
調査期間	H7・2・14 ~ 継続中	調査面積	200㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教遺 11号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>三角縁神獣鏡の出土で知られる赤郷2号墳(?)に隣接する。検出された弥生時代の溝は幅1.2m、深さ0.2~0.5mで残りは非常に悪い。環濠の一部と考えられるが、遺物の出土量は少なく、居住域から比較的離れた部分と考えられる。</p>			○弥生時代後期 溝	弥生土器片	
関連文献					
No.	54	遺跡名	高田遺跡	台帳番号	新発見
所在地	鈴鹿市 神戸地子町 字 高田 218-2他				
調査原因	共同住宅建設		事業主体	澤田 正治	
調査機関	鈴鹿市教育委員会		担当者	新田 剛	
調査期間	H7・9・1 ~ 9・2	調査面積	196㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 鈴教文168号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>表土を約40cm掘り下げた青灰色シルト質砂層上面において遺構検出をこころみた。表土から土師器・須恵器・灰釉陶器片の出土をみたが、本来の包含層は水田耕作等により失われており、遺構も全く検出されなかった。調査地点の北側に隣接する畑部分が遺跡の中心と考えられる。</p>			なし	○平安時代 土師器 須恵器 灰釉陶器	
関連文献					
No.	12-2	遺跡名	大藪遺跡	台帳番号	210-195
所在地	亀山市 羽若町				
調査原因	市営住宅建替		事業主体	亀山市	
調査機関	亀山市教育委員会		担当者	山口 昌直	
調査期間	H6.10.14~ H7. 1. 31	調査面積	2,750㎡	保護法関係文書番号	6年9月28日付け 第251号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>椋川左岸の標高約75mの台地上に位置し、国道1号亀山バイパス建設工事に伴い、平成元年度に三重県埋蔵文化財センターが調査を行った地点の北側にあたる。 調査の結果、後世の削平を受けたと思われる調査区南部を除いて、ほぼ全域で遺構・遺物が確認された。平安時代末期から鎌倉時代を中心とする集落跡であると思われる。</p>			掘立柱建物 土坑 溝 ピット	須恵器 土師器 山茶碗 羽釜	
関連文献	『一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査概要VI』三重県埋蔵文化財センター1990.3				

No.	55	遺跡名	忍山遺跡	台帳番号	207-57
所在地	亀山市 野村町 忍山				
調査原因	市道建設	事業主体	亀山市		
調査機関	亀山市教育委員会	担当者	山口 昌直		
調査期間	H7.2.2 ~ H7.3.31	調査面積	1,650㎡	保護法関係文書番号	6年7月25日付け 第174号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
鈴鹿川左岸の標高約58mの段丘南面に位置する。調査区内のはほぼ全域から掘立柱建物、溝、土坑等の遺構が検出された。出土遺物の時期は13世紀代に集中している。短期間に営まれた集落の一部であろうと思われる。			掘立柱建物 土坑 溝 ピット	山茶碗 山皿 土師器	
関連文献	山口昌直 『忍山遺跡』 亀山市教育委員会1994				
No.	56	遺跡名	向山遺跡	台帳番号	201-797
所在地	津市 高茶屋小森町 字 向山				
調査原因	宅地造成	事業主体	ふ西浦産業		
調査機関	津市教育委員会	担当者	池端 清行 海田 美幸		
調査期間	H6.3.25 ~ 4.18	調査面積	600㎡	保護法関係文書番号	6年3月9日付け 津教文第242号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
向山遺跡は、雲出川が形成した沖積地を見下ろす標高19mの段丘上の位置する。同丘陵の東端部には、古墳時代前期の大集落遺跡である四ツ野B遺跡がある。調査の結果、竪穴住居2棟・掘立柱建物8棟・土坑・ピット多数が検出された。また調査区東南部で方形周溝墓か、古墳の周溝の可能性のある方形を呈する溝も検出した。遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・石斧・石鏃などが出土しているが、ほとんどが包含層出土のもので、弥生時代前期の土坑を除いて遺構に伴う遺物は、あまり見られなかった。遺構の時期や竪穴住居など、四ツ野B遺跡とほとんど同じ様相を呈する。			○弥生時代前期 土坑 1基 ○古墳時代前期 竪穴住居 2棟 ○時期不明 掘立柱建物 8棟	縄文土器 弥生土器 土師器 石斧 石鏃	
関係文献					
No.	57	遺跡名	長遺跡	台帳番号	201-17
所在地	津市 河辺町 字 石立・池尻				
調査原因	宅地造成	事業主体	三交不動産		
調査機関	津市教育委員会	担当者	池端 清行 米山 浩之		
調査期間	H.6.8.11 ~ H.7.2.1	調査面積	約 4,100㎡	保護法関係文書番号	6年8月2日付け 津教文第104号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
長遺跡は、安濃川左岸の丘陵中央部に位置し、標高は40ほどで、周囲には各水田が複雑に入り込んでいる。付近には、同時期の亀井遺跡・山籠遺跡などがある。調査は、A～C地区に分けて行われ、昭和58年の第1次調査はA～C地区の中間にあたる。A地区は、南東側がすでに削平されていて、全容は不明であるが、丘陵頂部はもとより、斜面も階段状に削り込み、そこにも多数の竪穴住居・掘立柱建物が出された。棟方向を揃えて並ぶ建物も多く、計画的なムラづくりが窺える。B地区は、丘陵裾部にあたり、ピットが多数検出されたが、柵列・建物としてはまとまらない。C地区は、東側がすでに削平されていて不明だが、丘陵突端部近くの斜面にあたる。竪穴住居・掘立柱建物などが検出されている。			[A地区] 竪穴住居 90棟 円形2棟以外は方・長 方形 暗渠排水 3棟 壁柱穴 2棟 1辺10m以上3棟 掘立柱建物約10棟 柵列?・溝・土坑 井戸? [C地区] 竪穴住居 23棟 掘立柱建物 7棟	弥生土器 (ほとんどが □様式) (壺甕・高杯・台付鉢・ 鉢・蓋) 石器 石斧・石包丁・ 石鏃・石槍・ 石鏝・磨石など 土製品 土鏃	
関連文献	米山浩之ほか 『長遺跡発掘調査報告』 津市教育委員会1989.7				



長遺跡北側斜面（東から）

No.	58	遺跡名	太田城跡	台帳番号	384-603
所在地	安芸郡 安濃町 大字 太田 字 宮城・宮後				
調査原因	鉄塔建設		事業主体	株式会社 東海デジタルホン	
調査機関	安濃町教育委員会		担当者	田中 秀和	
調査期間	H 6 . 10 . 17 ~ H 7 . 1 . 19		調査面積	195㎡	保護法関係文書番号 6年7月29日付け 第543号
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>太田城の主郭とされている箇所北東側斜面図に鉄塔建設が計画され、調査を実施した。 その結果、当該期の柱穴等が丘陵平坦面で検出されたが、遺物は出土しなかった。また、平坦面から斜面へ下る部分に斜面を加工した跡は見られたものの、主郭内部に見られる土塁及び空堀は見られなかった。 今夏の調査は、太田城の初の調査であったが、主郭の中心を外れた部分であるため、太田城の具体的な様相はつかめなかった。今後の調査の進展に期待される。</p>			柱穴 土坑		弥生土器
関係文献	浅生悦生・田中秀和「考古編」『安濃町史』資料編 安濃町 1994.12				
No.	59	遺跡名	天野山遺跡	台帳番号	384-681
所在地	安芸郡 安濃町 大字 今徳 字 天野山				
調査原因	個人住宅建設		事業主体	個人	
調査機関	安濃町教育委員会		担当者	田中 秀和	
調査期間	H . 6 . 9 . 26 ~ H . 7 . 2 . 9		調査面積	72㎡	保護法関係文書番号 6年8月26日付け 第600号
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
<p>平成4年1月~2月にかけて調査した東隣の畑で、個人住宅の建設に伴い、擁壁の基礎、浄化槽の部分について立会い調査を実施した。 平成4年の調査で検出した溝の続き及び、地形の凹地等を検出した。</p>			溝 土坑		須恵器片 土師器片 磁器片
関連文献	田中 秀和『天野山遺跡発掘調査報告書』安濃町教育委員会・安濃町遺跡調査会 1992・3				

No.	60	遺跡名	久居城跡	台帳番号	213-154
所在地	東鷹跡町 49				
調査原因	民間宅地開発	事業主体	共同建設株式会社		
調査機関	久居市教育委員会	担当者	辻 富美雄 山口順也		
調査期間	H 6 . 4 . 15 ~ 5 . 15	調査面積	1,000㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 第 号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
江戸時代の久居城跡で武家屋敷地域である。現状は畑となっている。			溝 2条	陶磁器	
関連文献	『久居市史』『藤影記』				
No.	61	遺跡名	尺ヶ寺遺跡	台帳番号	213-20
所在地	久居市 榊原町 字 尺ヶ寺				
調査原因	県営は場整備事業	事業主体	県農林水産部		
調査機関	久居市教育委員会	担当者	辻 富美雄 山口順也		
調査期間	H 6 . 11 . 10 ~ 11 . 25	調査面積	410㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 第 号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
現状畑地になっている。 中世尺ヶ寺跡の伝承地であるが、遺跡の端である。			石組遺構 (性格不明)	山茶碗	
関係文献					
No.	62-1	遺跡名	片野遺跡 (第六次調査)	台帳番号	403-289
所在地	一志郡 一志町 大字 片野 字 北浦407-1ほか				
調査原因	共同住宅建設	事業主体	土井建装		
調査機関	一志町教育委員会	担当者	伊勢野 久好		
調査期間	H 6 . 7 . 19 ~ 8 . 5	調査面積	約 200㎡	保護法関係文書番号	6年6月30日付け 一志社発第349号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
片野遺跡は雲出川右岸の中位段丘上に位置しており、縄文～近世まで連なる遺跡である。 既に5回発掘調査が実施されているが、今回の調査区は県道丹生寺一志線の調査区(第一次調査)と3階建共同住宅(カーサーきたうら)の調査区(第四次調査)との間に位置する。 調査の結果、弥生中期の方形周溝墓や、奈良時代の竪穴住居などが検出された。このうち竪穴住居は、カマドが良好に残っており、土師器甕がすえられていた。また、土師器類の中には暗文土師器が多い。隣の第四次調査区には約500個体の暗文土師器を廃棄した土坑が認められたが、これと関連するかもしれない。			○弥生時代 自然流路1 水田60面以上	○古墳時代 S字口縁 古式土師器 漕	
関係文献					

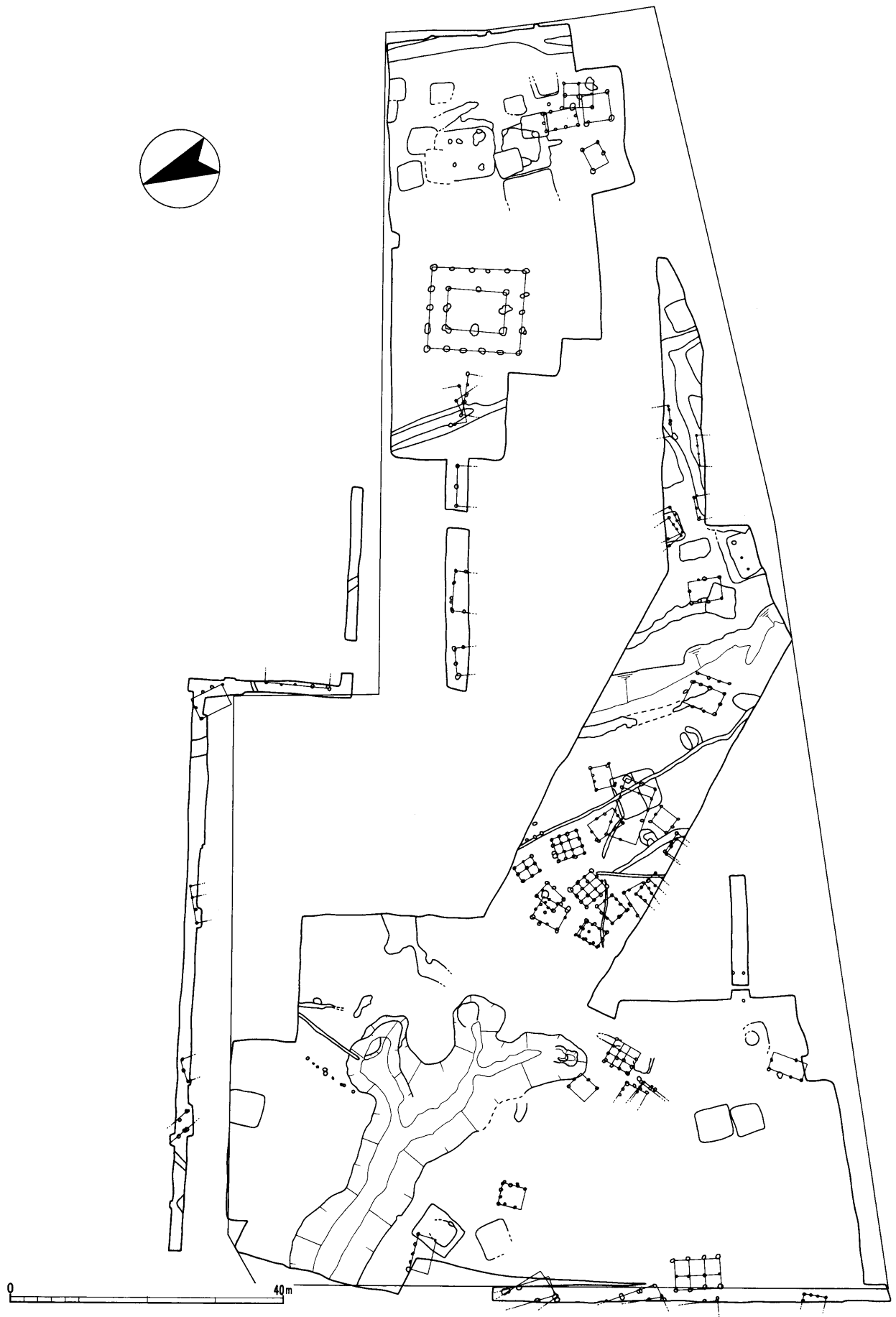
No.	62-2	遺跡名	片野遺跡（第七次調査）		台帳番号	403-289	
所在地	一志郡 一志町 大字 片野 字 北浦491-1ほか						
調査原因	町道改良工事			事業主体	一志町環境改善課		
調査機関	一志町教育委員会			担当者	伊勢野 久好		
調査期間	H 6 . 12 . 5 ~ H 7 . 2 . 23		調査面積	約900㎡	保護法関係文書番号	6年8月30日付け 一志社発第540号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>片野遺跡は雲出川右岸の中位段丘上に位置しており、縄文～近世まで連なる遺跡である。</p> <p>第七次調査区は、県道丹生寺一志線の第一次調査のほぼ中央に取り付く道路部分である。幅4m、長さ約120m南に延び、そこで西側に直角に曲がって幅5m、長さ約120mというトレンチ調査となる。</p> <p>調査の結果、弥生時代の方形周溝墓4をはじめ、各地代の遺構・遺物が検出された。</p> <p>特筆すべきは、これまでの調査成果をまとめると、弥生時代の方形周溝墓の墓域がほぼ推定可能となったことである。</p> <p>東西方向は約350～400m、南北方向は約150～200mに及ぶ広大な墓域の中に、数基で1単位となる方形周溝墓が何グループかに別れて築かれている様である。</p> <p>雲出川下流域における拠点集落となる当遺跡の性格を探る上で、貴重な資料となろう。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○弥生時代中期 方形周溝墓 4基 ○古墳時代後期 古墳（周溝のみ） ○奈良時代 竪穴住居 2棟 ○中世 掘立柱建物 区画溝 4条 土坑墓 1基 		<ul style="list-style-type: none"> ○弥生土器 （壺・甕等） ○古墳時代 土師器（甕） 須恵器（甕） ○奈良時代 土師器 （杯・皿・甕等） 須恵器 （蓋・杯等） ○中世 山茶碗 土師器 （皿・鍋等） 	
関係文献							
No.	63	遺跡名	片部遺跡		台帳番号	未登録	
所在地	一志郡 嬉野町 中川 字 片部 ほか						
調査原因	中川駅前周辺土地区画整理道路			事業主体	中川駅前周辺土地区画整理組合		
調査機関	嬉野町教育委員会			担当者	和気 清章		
調査期間	H 6 . 11 . 21 ~ H 7 . 継続中		調査面積	6,800㎡	保護法関係文書番号	6年10月26日付け 第2190号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
<p>中川駅東側の低地に所在する遺跡である。中川駅を中心とした東側水田地帯の道路部の調査である。</p> <p>平成4年度調査により古墳時代堰跡が確認された調査区の西側に位置し、中川駅東の水田地帯を南北に縦断する発掘区である。</p> <p>今回の調査では、南調査区で古墳時代前期自然流路1条が確認され、中央部に砂質堤防を設け、3列の堰跡が確認された他導水遺構1、導水溝1が確認された他、南北に小型水田が確認されている。</p>				<p>水路1 自然流路1 水田60面以上</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○古墳時代 S字口縁 古式土師器 溝 	
関係文献							

No.	64	遺跡名	六反田遺跡	台帳番号	新発見
所在地	一志郡 嬉野町 中川 字 ホラジ はか				
調査原因	中川駅前周辺土地区画整理道路	事業主体	中川駅前周辺土地区画整理組合		
調査機関	嬉野町教育委員会	担当者	和気 清章		
調査期間	H. 6. 11. 1 ~ H. 7. 2. 28	調査面積	約 3,200㎡	保護法関係文書番号	6年10月26日付け 第 2189号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>中川駅西側の低地に所在する遺跡である。中川駅を中心とした西側水田地帯の道路部の調査であり東西2、南北1の道路の調査である。</p> <p>B区では北側の発掘区では古墳時代～鎌倉時代の遺構が確認された。</p> <p>東西調査区では、A区では鎌倉時代の遺構が確認されたが、連続するC・C2区では縄文時代～古墳時代の自然流水路が3条確認された。</p> <p>最南のD区ではC区で確認した古墳時代前期流水路1条と古墳時代溝が確認された。</p>			<p>○縄文時代中期～流水路1</p> <p>○縄文時代晩期流水路2</p> <p>○古墳時代前期流水路3</p> <p>○平安～鎌倉時代溝11条</p> <p>南北に並行。</p> <p>条理遺構の可能性有り。</p>	<p>○縄文土器中期</p> <p>○縄文土器後期</p> <p>○縄文時代晩期</p> <p>○古墳時代</p> <p>S字口縁</p> <p>古式土師器</p> <p>鋤・ナスビ型鋤</p> <p>石鏟・磨石など</p> <p>○奈良時代</p> <p>土師器</p> <p>○鎌倉時代</p> <p>山茶碗</p>	
関連文献					
No.	65	遺跡名	小川城跡	台帳番号	213-198
所在地	一志郡 嬉野町 中川				
調査原因	中川駅前周辺土地区画整理	事業主体	中川駅前周辺土地区画整理組合		
調査機関	嬉野町教育委員会	担当者	和気 清章		
調査期間	H. 5. 12. 1 ~ H. 6. 6. 30	調査面積	約 8,000㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 嬉教文 第1027号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>式内社小川神社の東に位置する。今回の調査ではA～Dの4か所の調査区で発掘を行い、溝で区画された館跡と考えられる遺構を確認した。</p> <p>各調査区の概要</p> <p>A区：小川神社の東に位置する発掘区であり室町時代以降の東西溝1条（幅1m程度）、南北溝3条が確認され、各区画単位内に掘立柱建物2棟、土器廃棄土坑1、井戸3基が確認された。</p> <p>B区：A区の南に位置し、A区から続く南北溝が2条、土器廃棄土坑1、土坑多数の他に貼石を伴う溝1が確認された。</p> <p>C区：東西溝3条が並行し走り、溝外には建物などの遺構は確認されなかった。</p> <p>D区：鎌倉時代に属する大溝2条と東西溝2条確認された。</p>			<p>掘立柱建物4棟</p> <p>東西溝4条</p> <p>南北溝5条</p> <p>井戸4</p> <p>縄文時代流路1</p> <p>弥生時代土坑2</p>	<p>○縄文土器（中期～後期）</p> <p>○弥生時代</p> <p>壺</p> <p>○鎌倉時代</p> <p>山茶碗</p> <p>○室町時代</p> <p>鍋・分銅</p> <p>青銅金具・下駄</p>	
関連文献					
㎡	66	遺跡名	黒角遺跡（旧塚本B遺跡）	台帳番号	204-425
所在地	松阪市 山室町 黒角				
調査原因	団体営園場整備	事業主体	松阪市農林水産部		
調査機関	松阪市教育委員会	担当者	福田 哲也		
調査期間	H 6. 12. 1 ~ H 7. 1. 13	調査面積	450㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 松教第1457号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>本調査は、金剛川上流の狭い谷筋に位置し山の南側に面しています。このさらに上流には、立野瓦窯跡が見つかっており、周辺では根後窯跡もあり、立地に恵まれています。</p> <p>今回の調査では、平安時代から鎌倉時代初め頃を中心に掘立柱建物2棟・柵2条・井戸・溝・土坑が検出されました。</p>			<p>掘立柱建物 2棟</p> <p>柵 2条</p> <p>井戸</p> <p>溝</p> <p>土坑</p>	<p>舌尖頭器</p> <p>縄文土器片</p> <p>石匙・石鏟・硯</p> <p>緑釉陶器</p>	
関係文献	「松阪市史」第二巻 史料篇 考古 1978				

No.	67	遺跡名	浅間古墳群			台帳番号	204-522~528	
所在地	松阪市 立野町 口南戸							
調査原因	市道建設			事業主体	松阪市建設部			
調査機関	松阪市教育委員会			担当者	福田 昭 福田 哲也			
調査期間	H5. 7. 29 ~ H6. 7. 19		調査面積	4,800㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 松教 第239号		
遺 跡 の 概 要								
前年度に継続して調査した古墳群で、古墳12基、土坑墓2基を検出した。ほとんどが木棺直葬であるが、3号墳は右片袖式横穴式石室であった。概ね6C前半から7Cの築造である。								
古墳名	墳	規模 (m)		主体部	出土遺物		時期	備考
1号墳	円墳	径 15 高 東4 南3.6		木棺直葬2	土師器 (長胴甕・高杯・甕) 須恵器 (杯身・杯蓋) 鉄鏃			
2号墳	方墳	径 7×11 高 東2.4 南3		なし	俵瓶			
3号墳	円墳	径 10.5×13 高 東2.4 南2.3		竪穴式石室	土師器 (壺) 須恵器 (杯身・杯蓋・高杯・壺) 鉾先・鉾石突・鎌・鋤先・刀子 鉄鏃 胡祿			
4号墳	円墳	径 16.0 高 東3.5 西1		木棺直葬2	須恵器 (杯・蓋杯) 鉄鏃・鎌・刀子			
5号墳	円墳	径 16.0 高 東2.5 西1		木棺直葬2	須恵器 (杯身・杯蓋・甕・俵瓶・壺)			
6号墳	円墳	径 12 高 北東3 南西0.6		木棺直葬2	須恵器 (甕・高杯・杯蓋)			
7号墳	円墳	径 9 高 北 1.4		石室 (?)	須恵器 (甕・杯身・杯蓋)			
8号墳	円墳	径 17 高 北東1.2南西0.5		木棺直葬1	須恵器 (甕・杯・蓋杯) 各7 土師器 (高杯) 鉄刀2・鉄鏃・刀子			
9号墳	円墳	径8 高 南 0.8		木棺直葬1	なし			
10号墳	円墳	径8 高 南 0.8		盗掘	なし			
11号墳	円墳	径7.5 高 南 1.2		盗掘	須恵器 (杯身)			
12号墳	円墳	径6.5 高 南 1.0		盗掘 磔床残存	杯身・杯蓋			
S X 14	土坑墓				須恵器 (杯身・杯蓋各3)			
S X 15	土坑墓				須恵器 (杯身・有蓋高杯) 土師器 (碗)			
No.	68	遺跡名	西山城跡			台帳番号	441-169	
所在地	多気郡 多気町 大字 西山 字 上奥尻							
調査原因	伊勢多気線道路特殊改良 (1種)			事業主体	県土木部			
調査機関	多気町教育委員会			担当者	中里 守			
調査期間	H6. 2. 15 ~ 4. 30		調査面積	800㎡	保護法関係文書番号	6年1月13日付け 多気文第147号		
遺 跡 の 概 要					主な遺構		主な遺物	
<ul style="list-style-type: none"> ・大字西山部落の南方に接続する丘陵頂部にある。 ・調査対象は、遺跡全体の約1/3 (南側) 					土塁・土坑 甕・鍋 (中世) 土師器 (古墳)			
関係文献								

No.	69	遺跡名	森荘川浦遺跡		台帳番号	441-169	
所在地	多気郡 多気町 大字 森荘 字 林中						
調査原因	保育所建設			事業主体	多気町		
調査機関	多気町教育委員会			担当者	中里 守		
調査期間	H.6.6.15～ 9.15		調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	6年5月15日付け 多教文第225号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
外城田小学校付近の畑及び果樹園地帯の広い範囲に及び散布 (遺物包含層)				溝 土坑		縄文・弥生土師片須恵 器片・石鏃・石斧・た たき石等	
関連文献							
No.	70	遺跡名	銚子口遺跡		台帳番号	新発見	
所在地	度会郡 玉城町 佐田 字 銚子口677・678番地						
調査原因	宅地造成			事業主体	三重県労働者住居生活共同組合		
調査機関	玉城町教育委員会			担当者	中世古 憲司		
調査期間	H7.2.1～2.28		調査面積	1,360㎡	保護法関係文書番号	6年12月28日付け 玉教社第294号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
土坑数基、溝井戸1基、掘立柱穴が出土。土坑から土師器が10数枚重なって 出土し、鎌倉時代後期の中世墓である可能性がたかい。				土坑 ビット		土師器皿 山茶碗 刀子	
関係文献							
No.	71-1	遺跡名	田丸城跡 (立会)		台帳番号	461-214	
所在地	度会郡 玉城町 田丸 114番地1						
調査原因	史跡案内板設置工事			事業主体	玉城町		
調査機関	玉城町教育委員会			担当者	北畠 充生		
調査期間	H7.2.28～3.31		調査面積	10㎡	保護法関係文書番号	7年1月20日付け 玉教社第33号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
				なし。		なし。	
関係文献							
No.	71-2	遺跡名	田丸城跡 (立会)		台帳番号	461-214	
所在地	度会郡 玉城町 田丸 114番地1						
調査原因	旧簡易水道施設撤去			事業主体	玉城町		
調査機関	玉城町教育委員会			担当者	北畠 充生		
調査期間	H6.10.3～10.31		調査面積	1,680㎡	保護法関係文書番号	6年10月3日付け 玉教社第129-1号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
				なし。		なし。	
関係文献							

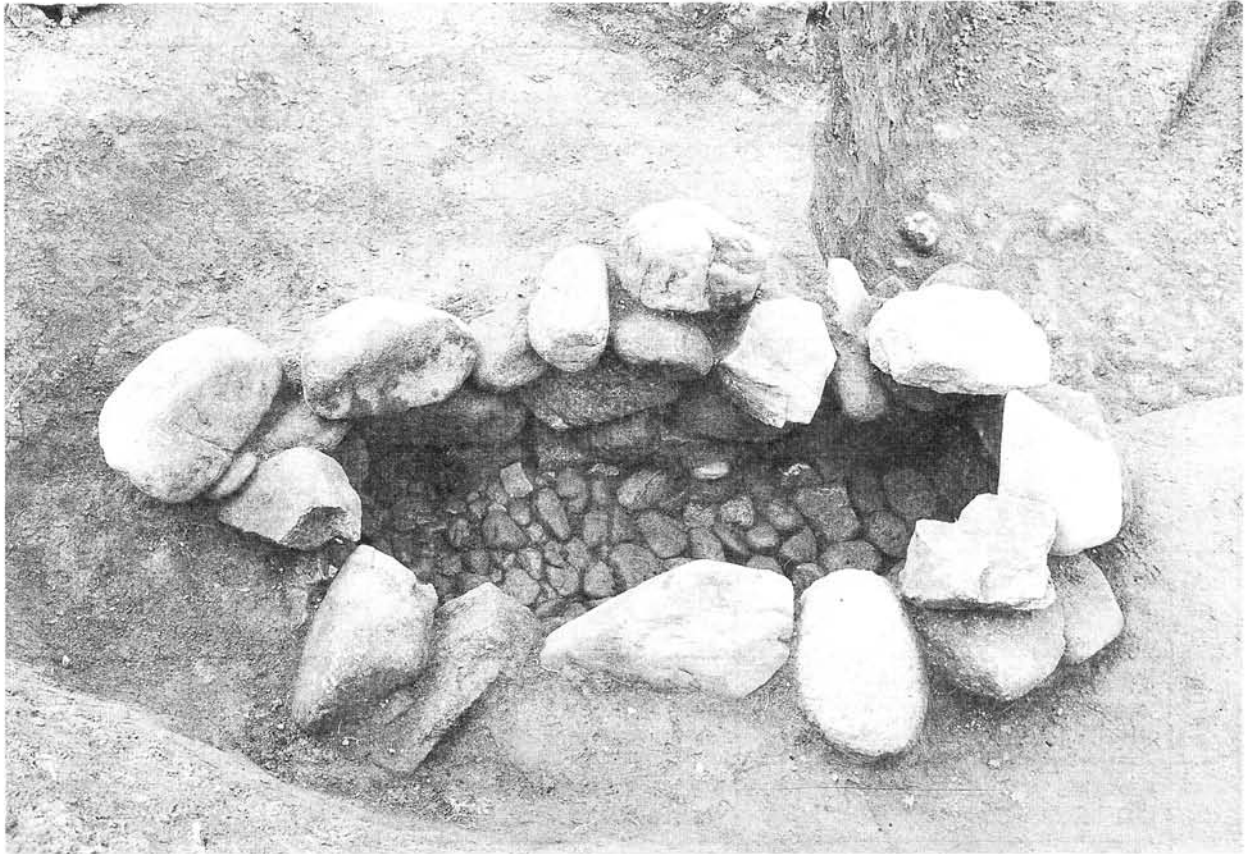
No.	72	遺跡名	楯ヶ崎遠見番所跡	台帳番号	未登録
所在地	熊野市 甫母町 大谷 605-1				
調査原因	学術	事業主体	熊野市教育委員会		
調査機関	熊野市教育委員会	担当者	福村直人		
調査期間	H 6 . 1 2 . 1 9	調査面積	1㎡	保護法関係文書番号	年 月 日付け 第 号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>甫母町と須野町の境260mの山頂にあり楯ヶ崎尾根すじの山上眺望絶佳の地で、南方はるかに太地崎、串本大島方面を望み北方には遠く九鬼崎、崎島半島などが霞んで見える。 目下雑木林となっているが、石垣をめぐらした方10mあまりの屋敷跡があり、水甕、屋根瓦などの破片が散乱している。周囲が段々になっているのは畑の跡であろう。</p>			石垣	水甕 屋根瓦の破片	
関連文献	『熊野市の文化財』熊野市教育委員会 前千雄『奥熊野の城跡』				
No.	73	遺跡名	城之越遺跡	台帳番号	206-1130
所在地	上野市 比土 字 城之越				
調査原因	城之越遺跡保存整備事業	事業主体	上野市		
調査機関	上野市遺跡調査会	担当者	中浦 基之 笠井 賢治		
調査期間	H 6 . 5 . 23 ~ 8 . 10	調査面積	1,300㎡	保護法関係文書番号	6年4月20日付け 上遺 第 19号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>平成3年度 県の調査により、古墳時代前期の貼石・立石をもつ大溝が確認された。次いで、平成4年度上野市教育委員会が大溝周辺約1,800㎡を調査し、周辺の遺構の確認を行った。 その後、城之越遺跡保存整備計画が進む中、本年度は駐車場及びガイドン棟予定地約1,300㎡の発掘調査を行った。</p>			<p>大型掘立柱建物2棟 古墳時代溝 ○古墳～奈良時代 堅穴住居 掘立柱建物</p>	<p>○古墳時代 土師器・勾玉 管玉 ○古墳～奈良時代 丸玉須恵器</p>	
関係文献	穂積裕昌ほか 「城之越遺跡」三重県埋蔵文化財センター 1992.3				
No.	74	遺跡名	伊賀国府跡、	台帳番号	206-938
所在地	上野市 坂之下				
調査原因	重要遺跡範囲確認	事業主体			
調査機関	上野市教育委員会	担当者	福田典明・笠井賢治・中浦基之・山岡裕		
調査期間	H . 6 . 10 ~ H . 7 . 1 . 12	調査面積	1,300㎡	保護法関係文書番号	6年9月5日付け 上教文第431号
遺跡の概要			主な遺構	主な遺物	
<p>調査地は、伊賀国府政庁域の南東にあたる。調査区は、JR関西線沿いに東西に長く設定したため、規模の確定できる建物跡は検出できなかったが、南北方向に棟を向けた掘立柱建物2棟をはじめとする遺構が確認された。建物及び溝・柵列等の遺構は南北軸に並行あるいは直交する形で配され、国庁の関連施設の遺構と思われる。出土遺物より遺構の実年代は10世紀代を中心とした時期と考えられる。</p>			<p>掘立柱建物 土器溜 溝 柵列</p>	<p>土師器 須恵器 黒色土器 緑釉陶器</p>	
関連文献	吉澤良「伊賀国府跡（第5次）」『伊賀国府跡（第5次）・箕升氏館跡ほか』県埋文センター 1993.3				



第2図 城之越遺跡遺構配置図 (1 : 800)

No.	75	遺跡名	国史跡旧崇廣堂（上野城跡）			台帳番号	206-358
所在地	上野市 丸之内						
調査原因	史跡旧崇廣堂史跡名勝建造物緊急保存修復			事業主体	上野市		
調査機関	上野市教育委員会			担当者	豊岡 勇		
調査期間	H7・1・9 ～ 1・24		調査面積	21㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 第 号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
<p>藤堂藩10代藩主藤堂高兌が、津の藩校有造館の支校として文政4年(1821)に建てた藩校である。安政の大地震によって講堂を除くほとんどの建物が倒壊し、安政2年(1855)に再建されている。</p> <p>今回の調査は、史跡旧崇廣堂史跡名勝建造物緊急保存修復事業（2期工事）のために、実施したものである。1次と2次の調査によって残存する資料〔御字館内絵図〕の有効性が明らかになったので、北控所の便所を確認するために、絵図の便所の位置を調査区とした。</p>				便槽土坑 3基 根石	瓦 陶磁器		
関連文献	『史跡旧崇廣堂保存整備事業 第I期保存修理工事報告書』上野市教育委員会1994 豊岡勇『国史跡旧崇廣堂発掘調査報告』上野市教育委員会 1994						
No.	76-1	遺跡名	小芝遺跡			台帳番号	206-963
所在地	上野市 服部町 字 小芝 365-1ほか						
調査原因	レストラン建設			事業主体	大栄工業株式会社		
調査機関	上野市遺跡調査会			担当者	笠井 賢治		
調査期間	H7・1・23 ～ 2・7		調査面積	140㎡	保護法関係文書番号	6年11月17日付け 上遺第48-2号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
<p>調査区は柘植川左岸段丘上に位置し、東側には夏ハゼ遺跡が隣接する。100m北側には、平成4年度の調査地がある。今回の調査で、事前流路が検出され、そこからは弥生時代後期から古墳時代前・中期を中心とする土器が出土している。遺跡の中心は、調査地の南側に偏在するものと思われる。</p>				自然流路 3条	土師器（甕・高杯・ 小型丸底壺） 須恵器（杯身・高杯・ 甕）		
関連文献							
No.	77	遺跡名	横山古墳群			台帳番号	208-58・561・562
所在地	名張市 赤目町 壇 字 横山ほか						
調査原因	宅地造成			事業主体	朝日住宅株式会社		
調査機関	名張市遺跡調査会			担当者	門田 了三 橋本 晋吉		
調査期間	H6. 4. 18 ～ H6. 5. 19		調査面積	820㎡	保護法関係文書番号	年月日付け 第125号	
遺跡の概要							
昨年度からの継続事業で名張市南部、赤目地区に所在する横山古墳群のうち、未着手であった主体部1基と墳形が不明であった2基の墳丘部の調査を行った。							
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考	
丸尾山古墳	円墳	20.0	横穴式石室	昨年度調査	6C前		
丸尾山2号墳	円墳	14.0	横穴式石室	昨年度調査	6C後		
丸尾山3号墳	円墳	9.0	横穴式石室	鉄鏃・杯蓋	6C末		

No.	78	遺跡名	七ヶ城遺跡 (A区・B区)			台帳番号	501-208	
所在地	名賀郡 青山町 阿保 字 沢代							
調査原因	町道阿保勝地線新設工事・近畿日本鉄道車庫新設工事			事業主体	青山町・近畿日本鉄道			
調査機関	青山町遺跡調査会			担当者	境 宏			
調査期間	H6. 3. 1 ~ 7. 31		調査面積	2,200㎡		保護法関係文書番号	6年2月7日付け 青教社第192号	
遺跡の概要					主な遺構		主な遺物	
<p>昨年度、調査した沢代遺跡の北に位置し、町の中心を流れる木津川の北300mの平地に立地する。両地区は試掘調査によって確認された。</p> <p>〔A地区〕 試掘時にピットを数基検出し、掘立柱建物が想定された。掘立柱建物は2棟以上建つと考えられるが、北部分は事業地外なので、規模は不明である。竪穴住居は、一片4mの方形で西辺には、焼土・炭がみられ、竈の存在が考えられる。</p> <p>〔B地区〕 試掘時の土坑、ピットを検出した。延長50m、幅2~3mの溝は、集落を区画するものと考えられる。土坑からは、須恵器(杯身・杯蓋7C代)がまとめて出土した。</p>					<p>〔A地区〕 ピット 掘立柱建物 竪穴住居(竈)</p> <p>〔B地区〕 溝・ピット 竪穴住居 掘立柱建物・土坑</p>		<p>〔A地区〕 土師器 須恵器</p> <p>〔B地区〕 土師器 須恵器 瓦器 天目茶碗 伊賀焼</p>	
関係文献	『七ヶ城遺跡現地説明会資料』							
No.	79	遺跡名	七ヶ城古墳群			台帳番号	501-209,210	
所在地	名賀郡 青山町 阿保 字 沢代							
調査原因	町道阿保勝地線新設工事・近畿日本鉄道車庫新設工事			事業主体	青山町・近畿日本鉄道			
調査機関	青山町遺跡調査会			担当者	境 宏			
調査期間	H6. 3. 1 ~ H6. 7. 31		調査面積	400㎡		保護法関係文書番号	6年2月7日付け 青教社第244号	
遺跡の概要								
七ヶ城A地区の東側尾根橋に位置する。試掘調査によって、周溝が確認された。七ヶ城1号墳の東側周溝から、一片1m、深さ1mの中世墓を検出した。遺物には、完形の青磁碗や瓦器、土師器小皿が出土した。								
古墳名	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	時期	備考		
1号墳	円墳	径 10 高 1	木棺直葬 長 3.5m 幅 2.0m	須恵器(杯身・杯蓋) 土師器(壺・碗・高杯) 鉄鏃・刀子・朱	6C中頃	周溝内に中世墓		
2号墳	円墳	径 10 高 1	木棺直葬 長 3.0m 幅 1.0m	須恵器(杯身・杯蓋) 刀子	6C中頃	周溝		
3号墳	不明	不明	小竪穴式石室 長 1.2m 幅 0.4m	須恵器(杯身) 刀子	7C中頃			
関連文献	『七ヶ城遺跡現地説明会資料』							
No.	80	遺跡名	梅ヶ森遺跡			台帳番号	501-211	
所在地	名賀郡 青山町 阿保 字 椋ヶ森							
調査原因	町道阿保勝地線新設工事・近畿日本鉄道車庫新設工事			事業主体	青山町・近畿日本鉄道			
調査機関	青山町遺跡調査会			担当者	境 宏			
調査期間	H. 6. 8. 1 ~ 11.30		調査面積	1,800㎡		保護法関係文書番号	年 月 日付け 第 号	
遺跡の概要					主な遺構		主な遺物	
<p>七ヶ城遺跡の東200mに位置する。試掘調査では、溝の一部を確認していたのみで、陸橋状遺構は不明であった。</p> <p>弥生の溝は、幅4m、深さ40cmであるが、多量の土器が出土した。陸橋状遺構は南北に走る幅10mの溝、又は掘?を直交し、伴う遺構として柵列がある。竪穴住居では、土器が原位置のまま出土し空間利用を考える上での好資料となった。作り付けの竈は1基を検出した。</p>					<p>溝1条(弥生) 陸橋状遺構(法面貼石・5C中~) 柵列・竪穴住居4棟(竈・6C中~) 溝・ピット</p>		<p>弥生土器(壺・高杯・甕・長頸壺(ヘラ記号)) 須恵器(杯身・蓋・II) 土師器(長胴甕・皿)</p>	
関連文献	『梅ヶ森遺跡現地説明会資料』							



七ヶ城第3号古墳小竪穴石室



梅ヶ森遺跡陸橋状遺構

県（三重県埋蔵文化財センター）担当分試掘調査表

No.	遺跡名 (台帳番号)	所在地	調査原因 (保護法関係文書番号)	調査面積 (㎡)	調査概要
81	玉垣城跡 (325-7)	員弁郡藤原町山口字玉垣内	県道篠立下野尻線道路改良事業 (6.3.17-教埋165)	65	遺構・遺物なし。
82	覚正垣内遺跡 (321-41)	員弁郡北勢町阿下喜字覚正垣内	一般国道 475号東海環状自動車道建設 (6.6.17-教埋265)	96	今回の調査対象範囲には遺跡の広がりではなかった。次年度以降残り 2,800㎡を対象に試掘調査を行う。
83	宮山遺跡 (323-1)	員弁郡大安町片樋ほか	一般国道 475号東海環状自動車道建設 (6.9.28-教埋454)	1,280	20,000㎡強の面積を対象に約80カ所の試掘坑を設定して調査を行った。かなり広範囲で弥生土器が出土したほか、縄文土器も出土している。本調査必要範囲は約14,000㎡。来年度以降調査を行う。また、5,000㎡ほど、未試掘部分がある。
84	大久保城跡 (323-102)				
85	比丘尼塚隣接地 (登録不要)	員弁郡大安町南金井字山畑	農村環境整備事業(住) (梅戸井地区) (7. . . 教埋)	240	地域の信仰を集める比丘尼塚の西側緩斜面に位置する。遺構・遺物ともに検出できなかった。
86	尾野山砦跡 (205-19)	桑名市西宮前	都市計画街路桑名員弁線道路改良事業 (6.9.1-教埋448)	132	遺構・遺物なし。
87	孤野城跡 (341-53)	三重郡孤野町孤野字蓄内	国道306 号道路改良事業 (6.8.4-教埋382)	32	遺構・遺物なし。
88	向山遺跡 (202-298)	四日市市山田町向山	県道小林鹿間線公安1 種事業 (6.7.27-教埋375)	64	遺構・遺物なし。
89	南かに島遺跡 (202-415)	四日市市赤水町南かに島	県道田光四日市線道路改良事業 (6.5.25-教埋251)	12	遺構・遺物なし。
90	高角宮之前遺跡 旧：記念橋北 (202-424)	四日市市高角町	県道四日市土山線道路改良事業 (6.9.5-教埋420)	96	遺構・遺物なし。
91	東門田遺跡 (202-499)	四日市市曾井町東門田	国道477 号線国補道路改良事業 (6.12.5-教埋555)	56	遺構なし。遺物土師器小片
92	西浦遺跡 旧：門口 (新発見)	鈴鹿市西富田町字西浦	県営ほ場整備事業 (7.1.24-教埋123)	184	溝を検出。遺物は、弥生土器(高杯)、須恵器(杯身)、山茶碗、山皿が出土。
11-3	長者屋敷遺跡 (207-363)	鈴鹿市広瀬町	開拓整備事業 (6.3.11-教埋140)	176	周知の遺跡範囲の北側600 mの地点で自然流路1条・小ピット1基を検出したのみで、事業地は遺跡範囲外。
93	畑田遺跡 (登録不要)	鈴鹿市東庄内町北条字畑田	畜産環境整備事業 (鈴亀地区・東庄北条団地) (7.2.13-教埋133)	192	北条集落北側の南向き緩斜面に位置する。山茶碗等の散布が認められたが、試掘調査においては、遺構・遺物ともに検出できなかった。
94	橋子田遺跡 旧：上田新田 (登録不要)	鈴鹿市上田町上田新田字橋子田	畜産環境整備事業 (7.2.15-教埋134)	736㎡	遺構・遺物なし
95	西尾B遺跡 (210-193)	亀山市刃法寺町字西尾畑	広域営農団地農道整備事業 (6.11.7-教埋520)	8	遺構・遺物なし。
96	西尾A遺跡 (210-192)	亀山市刃法寺町字西尾畑	広域営農団地農道整備事業 (6.11.7-教埋521)	48	遺構・遺物なし。

97	峯城跡 (210-136)	亀山市川崎町柴崎字八幡	広域営農団地農道整備事業 (6.6.28-教埋326)	70	事業地内1,400㎡が遺跡である。
98	納所遺跡 (201-34)	津市納所町	県営湛水防除事業 (6.9.1-教埋438)	16	遺構・遺物なし。
99	(登録不要)	津市一身田上津部田字ウノ坪	中勢家畜保健衛生所整備事業 (. . -)	88	遺構・遺物なし。
14-2	六大A遺跡 (A地区) (201-693)	津市大里窪田町字花村	一般国道23号中勢道路建設 (6.3.10-教埋117)	96	A地区の平成7年度調査予定地内に6カ所の試掘坑を設定した。地表面直下約30cmで柱穴、土坑を検出した。主な遺物として土師器高杯、台付甕、山茶碗片が出土した。
100	庚申塚跡 (登録不要)	安芸郡安濃町野口	県道亀山白山線道路改良事業 (6.8.25-教埋406)	4	遺構・遺物なし。
101	下村五間田遺跡 (213-31)	久居市榑原町字五間田	長野川河川災害復旧助成事業 (6.4.7-教埋186)	96	遺構・遺物なし。
102	上出遺跡 (213-104)	久居市庄田町上出	長野川河川災害復旧助成事業 (6.4.6-教埋188)	80	須恵器・土師器が出土するが、遺構なし。
103	下川原遺跡 (213-52)	久居市一色町字下川原	長野川河川災害復旧助成事業 (6.3.18-教埋149)	80	遺構・遺物なし。
104	野田遺跡 (213-83)	久居市稲葉町野田	長野川河川災害復旧助成事業 (6.8.16-教埋407)	32	遺構・遺物なし。
105	湯出谷遺跡 (213-44)	久居市稲葉町湯出谷	長野川河川災害復旧助成事業 (6.3.18-教埋148)	24	遺構・遺物なし。
106-1	薬師寺北裏遺跡 (405-10)	一志郡嬉野町天花寺	主要地方道松阪一志線地方特定道路整備工事 (6.10.5-教埋491)	72	遺構・遺物なし。
106-2	薬師寺北裏遺跡 (405-10)	一志郡嬉野町一志	県道丹生寺一志線道路改良事業 (6.5.2-教埋228)	64	遺構・遺物なし。
107	北瀬古遺跡 (405-93)	一志郡嬉野町天花寺		8	遺構・遺物なし。
108	弥五郎垣内遺跡 (405-343)	一志郡嬉野町釜生田	県道美杉一志線道路改良事業 (6.5.2-教埋230)	48	遺構・遺物なし。
109	天白遺跡 (405-344)	一志郡嬉野町釜生田	県道美杉一志線道路改良事業 (6.5.2-教埋229)	56	遺構・遺物なし。
110	(仮称)松阪久居居線遺跡 (登録不要)	一志郡嬉野町算所～黒野	国補緊急地方道整備事業 (6.10.5-教埋490)	120	遺構・遺物なし。
111	堀田遺跡 (405-224)	一志郡嬉野町宮古字堀田	主要地方道松阪一志線地方特定道路整備工事 (6.10.5-教埋492)	68	土坑・ピット・溝を検出し、7世紀ごろの畿内の土器が出土した。事業地内3,500㎡が遺跡である。
112	寺垣内遺跡 (登録不要)	一志郡美杉村太郎生	国道368号道路改良事業 (6.9.26-教埋482)	32	遺構・遺物なし。
113	せぎ遺跡 (204-604)	松阪市西野町字せぎ	県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業 (6.4.27-教埋226)	84	山茶碗・中世土師器細片が出土したのみ。遺構なし。

24-2	菅生遺跡 (未登録)	松阪市菅生町	県営ほ場整備事業 (6.5.26-教埋269)	234	溝状遺構・ピットを検出し、弥生後期高杯脚部が出土。事業地内4,500㎡が遺跡である。
114	瀬丁遺跡 (新発見)	松阪市清水町櫛田町	県営ほ場整備事業 (6.9.26-教埋461)	512	溝・土坑を検出し、奈良～平安時代の土師器が出土。事業地内9,400㎡が遺跡である。
115	北ノ垣内遺跡 (新発見)				溝・土坑を検出し、古式土師器が出土。事業地内15,000㎡が遺跡である。
116	綾垣内遺跡 (新発見)				ピット・土坑を検出し、中世土師器が出土。事業地内17,000㎡が遺跡である。
117	伊勢寺遺跡 (203-274)	松阪市伊勢寺町子金	堀坂川小規模河川改修事業 (. . .)	40	遺構・遺物なし。
118	石津遺跡 (登録不要)	松阪市上川町字中野前・八王子	一般国道42号松阪・多気バイパス建設 (6.8.22-教埋345)	176	遺構は検出されなかった。土師器細片・山茶碗片など水田の床土から少量出土した。客土と考えられる。
119	東牛込遺跡 (未登録)	松阪市上川町字飛長・艸干	一般国道42号松阪・多気バイパス建設 (6.8.22-教埋347)	144	ピット・土坑・溝などの遺構を検出した。中世の土師器皿・天目茶碗・山茶碗・山皿など出土。
120	山ノ花遺跡 (未登録)	松阪市古井町字山ノ花	一般国道42号松阪・多気バイパス建設 (6.8.22-教埋346)	176	ピットなどの遺構を検出した。中世の土師器皿・陶器片・天目茶碗片など出土。
121	前田遺跡 (登録不要)	松阪市高木町字前田	県営ほ場整備事業 (7.1.20 教埋67)	88	遺物は若干出土するが、氾濫による流れ込みで、遺跡は現集落下に広がると考えられる。
122	別所前遺跡 (登録不要)	松阪市高木町字別所前	県営ほ場整備事業 (7.1.20 教埋66)	24	近接する櫛田川や祓川の氾濫原である。
123	大山遺跡 (登録不要)	松阪市高木町字大山	県営ほ場整備事業 (7.1.20 教埋65)	136	近接する櫛田川や祓川の氾濫原である。
124	内垣内遺跡 (登録不要)	松阪市高木町字内垣内	県営ほ場整備事業 (7.1.20 教埋64)	144	近接する櫛田川や祓川の氾濫原である。
125	井出ノ里遺跡 (新発見)	松阪市井口中町字井出ノ里	県営ほ場整備事業 (7.2.1教埋94)	96	溝やピットを検出。出土遺物は奈良から中世の土師器。遺跡範囲は2,700㎡。
126	山口遺跡 旧：池田 (新発見)	松阪市井口中町字池田・山口	県営ほ場整備事業 (7.2.1教埋93)	88	今回の試掘範囲内からは、遺構遺物ともに発見されなかった。松阪市が試掘を行った山口遺跡は、3,200㎡が遺跡範囲である
127	算越遺跡 (登録不要)	松阪市高木町字算越	県営ほ場整備事業 (7.1.20 教埋63)	120	近接する櫛田川や祓川の氾濫原である。
128	柳辻遺跡 旧：大蓮寺 (新発見)	松阪市櫛田町字柳辻ほか	県営ほ場整備事業 (7.2.6教埋87)	144	中世の遺構・遺物を確認。
129	上川ノ上遺跡 (421-37)	飯南郡飯南町有馬野	県道片野飯高線緊急整備事業 (6.7.4- 教埋319)	40	遺構・遺物なし。
130	北出遺跡 (登録不要)	飯南郡飯南町粥見	国道368号国補道路特殊改良1種 (7.2.27-教埋146)	40	遺構・遺物なし
131	曾根崎古墳群 (442 -526～529)	多気郡明和町上野	県営ほ場整備事業 (6.11.10- 教埋529)	85	土坑・柱穴を検出し、土器片が若干出土。試掘区域の南側に遺跡の存在が予想される。
132	曾根崎遺跡 (442-525)	多気郡明和町上野		128	土坑・柱穴を検出し、土器片が出土。周知の曾根崎遺跡が東に拡大することが判明した。事業地内3,800㎡が遺跡である。

133	鐘突遺跡 (新発見)	多気郡明和町上野	県営ほ場整備事業 (7.2.1教埋92)	40	平安時代の遺構・遺物を確認した。
134	角垣内遺跡 (新発見)	多気郡明和町蓑村	県営ほ場整備事業 (7.2.1教埋91)	72	溝状遺構検出。灰釉陶器・山茶碗等出土。平安時代。
135	池ノ下遺跡 (新発見)	多気郡多気町 四疋田字戸戸 他	県営ほ場整備事業 (6.8.8- 教埋396)	846	ピットを検出し、弥生～平安時代の遺物が多量に出土。事業地内7,300㎡が遺跡である。
136	カタ田遺跡 (未登録)	多気郡多気町 四疋田字カタ田他		107	ピットを検出し、古墳～奈良時代の遺物が出土。事業地内3,000㎡が遺跡である。
137	佐奈口遺跡 (登録不要)	多気郡多気町相鹿瀬	県道相鹿瀬大台線道路改良事業 (6.11.11- 教埋543)	18	遺構・遺物なし。
138	西道ノ上遺跡 (441-294)	多気郡多気町相鹿瀬	県道相鹿瀬大台線道路改良事業 (6.11.11- 教埋542)	24	遺構・遺物なし。
139	年内遺跡 (441-295)	多気郡多気町相鹿瀬	県道相鹿瀬大台線道路改良事業 (6.11.11- 教埋541)	30	遺構・遺物なし。
140	宮ノ谷遺跡 (441-118)	多気郡多気町牧字宮ノ谷	県営畜産環境事業多気勢和地区 (7.1.20 付第75号)	28	遺構、遺物なし
141	井尻遺跡 (新発見)	多気郡勢和村波多瀬字井尻	県営畜産環境事業多気勢和地区 (7.1.20-教埋74)	24	遺構はピット、土坑を検出遺物は縄文土器、緑釉陶器
142	中新田遺跡 (443-34)	多気郡大台町栃原	県道相鹿瀬大台線道路改良事業 (6.6.28-教埋318)	40	遺構・遺物なし。
143	日進遺跡 (登録不要)	多気郡大台町栃原		64	遺構・遺物なし。
144	小滝遺跡 (445-17)	多気郡宮川村小滝	国道422号国補公安1種事業 (6.8.10-教埋405)	24	遺構・遺物なし。
31-2	二ツ屋遺跡 (未登録)	度会郡御園村二ツ屋・沖川原	県道大湊宮町停車場線国補道路改良事業 (6.3.11-教埋151)	150	溝・土坑を検出し、須恵器・土師器片等が出土した。事業地内1,100㎡が遺跡である。
145	高向遺跡 (468-1)	度会郡御園村高向字上万條	県営ふるさと農道整備事業御園地区 (7.2.10-教埋126)	9	遺構、遺物なし
146	里中遺跡 (新発見)	度会郡御園村長屋字里中	県営ふるさと農道整備事業御園地区 (7.2.10-教埋127)	9	ピット、土坑 中世土師器片
147	北大野遺跡 (登録不要)	度会郡度会町田口	県営ほ場整備事業 (6.9.1- 教埋434)	99	遺構・遺物なし。
148	田口B遺跡 (登録不要)	度会郡度会町田口	県営ほ場整備事業 (6.9.1- 教埋432)	51	遺構・遺物なし。
149	中山遺跡 旧：田口A (未登録)	度会郡度会町田口字中山	県営ほ場整備事業 中川地区 (6.9.1- 教埋433)	136	遺構はピット、土坑を検出 遺物は中世土師器、陶器
150	廣切遺跡 (470-27)	度会郡度会町長原	県道伊勢大宮線公安1種事業 (6.4.13-教埋219)	72	遺構・遺物なし。
151	舟越遺跡 (211-39)	鳥羽市答志町舟越	県営舟越漁港修築事業 (7.1.31-教埋110)	9	道路予定地内のみ試掘 遺構なし 遺物は弥生土器片、土師器片

152 -1	東海道遺跡 (524-123)	志摩郡阿児町国府	県道の矢大王線道路改良事業 (6.4.7-教埋197)	168	ヒット・土坑を検出し、中世土師器皿が出土した。事業地内450㎡が遺跡である。
152 -2			県道の矢大王線道路改良事業 (6.11.2-教埋522)	30	溝を検出し、中世土師器皿が出土した。事業地内800㎡が遺跡である。
153	次郎六郎東遺跡 (522-36)	志摩郡大王町舟越字次郎六郎・蛇谷	郵政省伊勢志摩リゾート施設(仮称)建設	816	4m×4mのグリッドを51カ所設定して調査。字次郎六郎に属する低丘陵の西半部で平安末～鎌倉時代の遺物が出土。遺構は明確なものなし。字蛇谷では遺構・遺物ともなし。
154	上地B遺跡 (登録不要)	熊野市有馬町上地	畜産環境整備事業 (6.10.11-教埋496)	54	遺構・遺物なし。
155	春日神社跡 (481-368)	阿山郡伊賀町山畑字春日	広域営農団地農道整備事業 (6.9.12-教埋460)	200	近世の盛土から、玉石敷を検出するが、建物跡等は、攪乱のため不明。近世土師器片・「寛永通宝」等が出土。
156	秋葉神社 (481-371)	阿山郡伊賀町山畑字柳原	広域営農団地農道整備事業 (6.9.12-教埋459)	6	秋葉神社背後の丘陵斜面を調査したが、遺構・遺物なし。
157	良福寺跡 (481-129)	阿山郡伊賀町下柘植字寺後	県営ほ場整備事業 (7.1.19-教埋81)	152	柱穴・溝・土坑と思われる遺構を検出。遺物は、黒色土器片1点、瓦質土器片1点が出土。
158	小上野・中島古墳群 (登録不要)	阿山郡大山田村真泥	県営ため池整備事業 (6.11.4-教埋519)	36	小上野・中島古墳群は事業地には及んでいない。
159	東追付遺跡 (482-6)	阿山郡島ヶ原村中村	県道島ヶ原(T)観音提寺線道路改良事業 (6.9.1-教埋418)	64	遺構・遺物なし。
160	長福寺跡 (206-50)	上野市土橋	県営ほ場整備事業 (6.11.10-教埋515)	300	溝・土坑を検出し、中世陶器・播鉢等が出土。事業地内8,100㎡が遺跡である。
161	東出遺跡 (206-958)	上野市山神字東出	県営ほ場整備事業 (6.11.10-教埋516)		遺構・遺物なし。
162	奥知氏館跡 (206-504)	上野市山神	県営ほ場整備事業 (6.11.10-教埋517)		中世土師器片が若干出土するが、遺構なし。
163	山神寄建神社古墳 (206-41)	上野市山神字東出	県営ほ場整備事業 (6.11.10-教埋518)		周溝は確認できず。遺物なし。
164	東出南遺跡 (新発見)				山神寄建神社古墳の周溝を確認するために設定したトレンチから奈良時代の須恵器・土師器が多量に出土した。事業地内1,300㎡が遺跡である。
165	市部A遺跡 (登録不要)	上野市市部字澤田	広域農免農道事業 (7.1.27-教埋98)	14	遺構・遺物とも認められず。
166	市部B遺跡 (登録不要)	上野市市部字澤田	広域農免農道事業 (7.1.27-教埋99)	9	遺構・遺物とも認められず。
167 -1	才良遺跡 (206-152)	上野市才良	木津川河川改修事業 (6.8.16-教埋393)	168	遺構・遺物なし。
168	三石代遺跡 (206-1114)	上野市下神戸字三石代	木津川河川改修事業 (6.8.16-教埋394)	40	遺構・遺物なし。
169 -1	伊勢路A遺跡 (未登録)	名賀郡青山町伊勢路字高寺	県営ほ場整備事業 (6.11.1-教埋514)	56	土器片が若干出土するが遺構なし。
169 -2				48	若干の遺物を含む落ち込み状遺構を検出。
170	腰山遺跡 (登録不要)	名賀郡青山町腰山	県道松阪青山線道路改良事業 (6.3.23-教埋147)	32	遺構・遺物なし。

各市町村担当分試掘調査

No.	遺跡名 (台帳番号)	所在地	調査原因 (保護法関係文書番号)	調査面積 (㎡)	調査概要
171	西方台地A遺跡 (205-25)	桑名市大字上野字タノ割	宅地造成 (... - 教社220)	120	宅地造成により大部分は滅失。調査地はわずかに残った部分であるが、小規模な遺物包含層が検出されたのみであった。
172	下之宮遺跡 (202-512)	四日市市下之宮町字耳常田	個人住宅建設 (... -)	約 32	遺物包含層より、弥生土器・土師器・山茶碗が出土したが、明確な遺構は確認されなかった。
173	八反縄遺跡 (202-70)	四日市市大矢知町字大沢	店舗建設 (6.7.20-教文257)	約 48	土師器・陶器が若干出土したが明確な遺構は確認されなかった
174	小方縄遺跡 (202-534)	四日市市大治田三丁目19 4-3	土地利用計画 (... -)	約 400	平安時代以降中世を中心として井戸・土坑などを確認し、土師器・灰釉陶器・山茶碗・陶器などが多量に出土した。
175	羽津広遺跡 (202-336)	四日市市大矢知町字斎宮 谷1749	店舗建設(6.11.15- 教文39 6)	約 132	遺構・遺物ともに確認されなかった。
176	北之脇遺跡 (202-405)	他43筆			
177	北中寺遺跡 (202-156)	四日市市石塚町1592-3	土地開発計画 (6.12.2 教文430)	約 59	遺物包含層より、土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗が比較的多く出土したが、2次堆積とみられる。遺構は確認されなかった。
178	赤掘城跡 (202-290)	四日市市城西町835	共同住宅建設 (7.2.13-教文542)	約 48	土師器・磁器が若干出土したが遺構は確認されなかった。
179	宮ノ下遺跡 (202-532)	四日市市小古曾二丁目	市道改良 (... -)	約 20	遺構・遺物ともに、確認されなかった。
180	西辻遺跡 (202-462)	四日市市西大鐘町字古屋 敷 292,296-2	公民館建設 (7.1.10-教文487)	約 32	耕作土の下は灰色砂層や灰褐色層が堆積し、表土から1m以下は荒い砂層となり朝明川の氾濫原と考えられる。遺構なし。五輪塔の空風輪が出土。
181	高塚古墳群 (207-112~118)	鈴鹿市高塚町1069	学校(プール)建設 (... - 鈴教文179)	27.5	遺構・遺物なし
182	国分西遺跡 (207-837)	鈴鹿市国分町字東高木	個人住宅 (... - 鈴教文169)	13	遺構・遺物なし
51-2	国分遺跡 (207-838)	鈴鹿市国分町字北条	個人住宅 (... - 鈴教文122)	16	平安~中世の溝・柱穴や近世の土坑などが検出された。瓦類が多く出土した。
183	三芝遺跡 (207-1046)	鈴鹿市郡山町	個人住宅 (... - 鈴教文150)	4.5	遺構・遺物なし
184 -1	須賀遺跡 (207-166)	鈴鹿市須賀	宅地造成 (... - 鈴教文47)	10	古代~近世の柱穴が検出され、土師器・近世陶器・近世瓦片が出土した。
185	上箕田遺跡 (207- 164)	鈴鹿市上箕田一丁目1116 -3	事務所建設 (... - 鈴教文38)	17	遺構なし。須恵器片1点出土。
6-2	石薬師東遺跡 (207-727)	鈴鹿市石薬師町字寺東45 2-99	作業所建設 (... - 鈴教文56)	41	遺構・遺物なし。
187	高田遺跡 (新発見)	鈴鹿市神戸地子町字高田 218-2 他	共同住宅建設 (... -)	33	平安時代以降の土坑、自然流路などが検出され、土師器・須恵器片が出土した。
188	砂山遺跡 (207-887)	鈴鹿市岸岡町2801	共同住宅建設 (... - 鈴教文174)	67	遺構は検出されなかったが、須恵器・埴輪片が少量出土した。

189	天王遺跡 (207-873)	鈴鹿市岸岡町字天王3132-11	共同住宅建設 (... - 鈴教文151)	33	表土以下を40cm除去した青灰色粘土質シルト層上面で遺構検出をこころみましたが、遺構は検出されず、耕作土から土師器・須恵器片が出土した。	
190	平田城跡 (207-375)	鈴鹿市平田町一丁目126-2	共同住宅建設 (... - 鈴教文188)	15	遺構・遺物なし。	
184-2	須賀遺跡 (207-166)	鈴鹿市須賀一丁目1・2	書庫建設 (... - 鈴教文201)	3.6	表土から2.1m掘削した地点で、基盤層に達した。大規模な溝状遺構の一部と考えられるが、隣接する古墳の一部である可能性もある。11層に分類でき、5層以下が古墳時代前期～中期の包含層である。出土遺物には、土師器・緑釉小壺・山茶碗がある緑釉小壺は、8世紀代に遡るものと考えられる。	
191	北ノ添遺跡 (新発見)	鈴鹿市北玉垣町北添	倉庫・住宅建設 (... - 鈴教文218)	18.6	古代末期から中世にかけての土地区画溝と考えられる溝が検出された。遺物なし。	
192	間瀬口遺跡 (207-735)	鈴鹿市木田町字間瀬口1961	老人保健施設 (... - 鈴教文10)	25.7	造成土・旧耕土を0.3～2m除去した地山上層で、土坑など検出土師器片が出土した。	
193	赤郷遺跡 (207-598)	鈴鹿市秋永町赤郷1823他	市道拡幅改良工事 (... - 鈴教文291)	69.5	弥生時代後期の溝を検出。弥生土器片が出土した。	
194	垂水城跡 (201-371)	津市垂水字井戸谷	土砂採掘 (... - 津教文45)	26	城跡中心部から西側に続く尾根を調査。遺構・遺物なし。	
195	大古曾遺跡 (201-11)	津市一身田大古曾	道路建設 (... - 津教文213)	50	丘陵東側裾部を調査。包含層より須恵器・山茶碗破片小壺出土遺構なし	
196	菖蒲北古墳 (201-649)	津市大里山室町字菖蒲	中勢北部サイエンスシティ第1期工事 (... - 津教文97)	5	自然地形であった。	
197	菖蒲西古墳 (201-650)			5		
198-1	菖蒲東1号墳 (201-651)			5		
198-2	菖蒲東2号墳 (201-652)			5		
199-1	菖蒲1号墳 (201-653)			5		
199-2	菖蒲2号墳 (201-654)			5		
199-3	菖蒲3号墳 (201-655)			5		
199-4	菖蒲4号墳 (201-656)			10		
199-5	菖蒲5号墳 (201-657)			津市小野田町字菅ヶ谷		5
199-6	菖蒲6号墳 (201-658)					5
199-7	菖蒲7号墳 (登録不要)	津市野田町字欠山	5			
200	恐シ古墳 (201-659)	津市大里山室町字恐シ	10			
201	乾谷北古墳 (201-660)	津市大里山室町字乾谷	5			

202 -1	乾谷1号墳 (201-661)	津市大里小野田町字菖蒲	中勢北部サイエンスシティ 第1期工事 (... - 津教文87)	5	自然地形であった。
202 -2	乾谷2号墳 (201-662)			5	
203	乾谷南古墳 (201-663)			5	
204 -1	小野田西1号墳 (201-664)			5	
204 -2	小野田西2号墳 (201-665)			10	
204 -3	小野田西3号墳 (201-666)			5	
205	菖蒲南古墳 (201-667)			5	
206 -1	小野田1号墳 (201-668)			5	
206 -2	小野田2号墳 (201-669)			5	
206 -3	小野田3号墳 (201-670)			5	
206 -4	小野田4号墳 (201-671)	20			
207	八知古墳 (201-672)	津市大里小野田町字八知	中勢北部サイエンスシティ 第1期工事 (... - 津教文87)	5	自然地形であった。
208 -1	白石1号墳 (201-674)	津市大里山室町字白石		5	
208 -2	白石2号墳 (201-675)			5	
208 -3	白石3号墳 (201-676)			5	
208 -4	白石4号墳 (201-677)			5	
208 -5	白石5号墳 (201-678)			5	
209	平栄1号墳 (201-315)	津市野田字千束	ゴルフ練習場造成 (... - 津教文149)	54	すでに崩壊しており、周溝の痕跡等も確認できなかった。 土取りによって削平された丘陵平栄遺跡の断面で弥生土器が出土したが明確な遺構は確認できなかった
210	平栄遺跡 (201-479)				
211	西焼尾古墳群 (201-285他)	津市長岡町 字東高野尾 汐見町字若林	宅地造成 (... - 津教文197)	15	遺構・遺物とも確認できなかった。
212	山王遺跡 (未登録)	安芸郡河芸町 南黒田字山王	中勢北部サイエンスシティ 第1期事業 (... - 津教文97)	49	明確な遺構は確認できなかったが、丘陵斜面で厚さ1mに及ぶ遺物包含層を確認した。遺物は、山茶碗などの中世のものが中心である。
213	内垣内遺跡 (登録不要)	安芸郡河芸町 南黒田字内垣内			
214	ゆふけ遺跡 (384-542)	安濃町浄土寺字米買 連郡字ゆふけ	集落道20号建設 (6.8.25-安教社546)	16	2×2mのテストピットを4ヶ所設定した。柱穴・方形周溝墓?の遺構を確認した。

215	新畑遺跡 (213-218)	久居市木造町字新畑	県営一般農道整備 (. . -)	80	2 m×4 mの試掘トレンチを10ヶ所 設定し、調査した。
216	多気遺跡群 (未登録)	一志郡美杉村下多気2779 -1	寺院駐車場造成 (6.9.19-美教2759)	16	溝を検出し、中世の土師器片、山茶 碗が出土した。
217	(登録不要)	松阪市法田町川原田	砂利採取 (. . -)	56	遺構・遺物とも検出されなかった。
218	(登録不要)	松阪市法田町大垣外	砂利採取 (. . -)	40	遺構・遺物とも検出されなかった。
219	(登録不要)	松阪市法田町松山	砂利採取 (. . -)	20	遺構・遺物とも検出されなかった。
220	(登録不要)	松阪市法田町野垣外	砂利採取 (. . -)	28	遺構・遺物とも検出されなかった。
221	仮) 法田遺跡 (新発見)	松阪市法田町灰菜口	砂利採取 (. . -)	14	榎田川右岸の葉生田神社に位置し、 中世の鍋・羽釜・土師器等出土し、 石組み井戸が検出した
222	(登録不要)	松阪市山添町町居	砂利採取 (. . -)	224	遺構・遺物とも検出されなかった
223	八ノ坪遺跡 (204-401)	松阪市中万町八ノ坪	砂利採取 (. . -)	32	かつて試掘調査され、遺跡なしであ ったが、今回も遺物・遺構は検出され なかった。
224	中山田古墳群 (204 -367,368)	松阪市山添町中山田	工業用地 (. . -)	800	遺構・遺物とも検出されず、自然地 形と判断した。
225	やつで古墳群 (204-369,370 642,696)	松阪市山添町やつで	工業用地 (. . -)	20	遺構・遺物とも検出されず、自然地 形と判断した。
226	長谷古墳群 (204-377)	松阪市山添町長谷	工業用地 (. . -)	10	遺構・遺物とも検出されず、自然地 形と判断した。
227	金剛坂遺跡 (442- 36)	多気郡明和町金剛坂字板 垣内	宅地造成 (. . - 明教斎36)	72	申請地は、昭和40年代まで病院がた っており、解体の際にかなり攪乱を受 けていた。溝と土坑の他、明確な遺 構は見られなかった。
228	東垣外古墳群 (442- 471 ~500)	多気郡明和町坂本字東垣 内	仮) 「福祉のひろば」建設 (. . -)	800	調査中
229	坂倉遺跡 (441-273)	多気町東池上字坂倉	住宅建設用地の造成 (. . - 多教文424)	208	時代- 縄文 遺構- 遺物包含層遺物 - 縄文土器片 (本調査調整中)
230	片倉氏館跡 (441-202)	多気町四神日字西浦	学術研究 (. . - 多教文425)	76	時代- 中世 遺構- 土坑 遺物- 甕・山茶碗等 (資料作成中)
231	天啓公園周辺遺 跡推定地	多気町四疋日 字コウボシ・小池谷	天啓公園用地造成 (. . - 多教文481)	228	名勝「天啓公園」(県指定) 周辺 中世墓・古墳の可能性、3月中旬試 掘予定
232	上通遺跡 (203-171)	伊勢市上地町字上通	宅地造成 (. . -)	48	検出遺構・出土遺物ほとんどなし。
233	砂谷遺跡 (461-380)	玉城町坂本字砂谷	物流センター造成 (6.12.8-玉教社256)	160	遺構・遺物なし。
234	西明寺遺跡 (206-785)	上野市西明寺	住宅団地造成 (. . - 上遺30)	174	農道部分で奈良時代の溝が検出され、 その一部は発掘調査へ。
167 -2	才良遺跡 (206-152)	上野市才良字松ノ本他	ほ場整備 (. . - 上遺32-3)	108	調査地南部の畑において、中世の柱 穴を確認した。盛土保存される。

235	岡角氏館跡 (206-527)	上野市服部町字深野	ゴルフ練習場建設 (... - 上遺38)	97	遺構・遺物なし。岡角氏館跡は周知の位置よりやや東にずれると考えられる。
236	風呂ノ上遺跡 (206-1037)	上野市下友生字風呂ノ上	市道道路改良 (... - 上遺39)	11	遺構・遺物なし。
237	比土遺跡 (206-202)	上野市比土字東賀柳	住宅団地造成 (... - 上遺36)	432	過去の耕地整理によって、切土されているところがある。奈良～平安時代の柱穴が確認された地域は発掘調査へ。
238	福地遺跡 (206-1068)	上野市中友生字福地	市道道路改良 (... - 上遺39)	24	遺構・遺物なし。
76-2	小芝遺跡 (206-963)	上野市服部町字小芝	レストラン建設 (... - 上遺48-2)	128	弥生～古墳時代の溝と中世の柱穴が検出された。レストラン建設地は、発掘調査へ。
239	下郡遺跡 (206-164)	上野市下郡字下代	市道道路改良 (... - 上遺60)	20	遺構なし。遺物少量。
240	森永エンゼルの森発掘区域内古墳群 池之割4号墳 (新発見) 池之割古墓 (新発見)	上野市市部 上友生 沖 蓮池 才良 高山 摺見 比自岐	宅地造成・公園造成 観光開発 (... - 上遺20-2)	250	開発計画に保存が困難な88ヶ所のうち、同意の得られた53ヶ所について、試掘調査を実施したそのうち、2ヶ所が遺跡であると確認された。
241 -1	久米山148号墳 (206-1187)	上野市守田町字林	住宅団地造成 (... - 上遺31-2)	131	分布調査の結果、古墳の可能性のある17ヶ所を試掘調査した。その結果、7基の古墳と、1遺跡を確認した。6ヶ所は自然地形で、残り3ヶ所は開発区域の境界にあり不明である。8遺跡は発掘調査へ。
241 -2	久米山131号墳 (206-1048)				
241 -3	久米山141号墳 (206-1058)				
241 -4	久米山147号墳 (206-1064)				
241 -5	久米山144号墳 (206-1061)				
241 -6	久米山145号墳 (206-1062)				
241 -7	久米山146号墳 (206-1063)				
241 -8	久米山J遺跡 (新発見)				
242	別府砦 (501-212)	名賀郡青山町別府	川上ダム集団移転地造成 (...)	10	堀切を検出。 遺物は小片2片のみ。

III. 埋蔵文化財保護体制の充実

1. 各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化振興課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による技術研修や情報交換を目的として、本年度は次の3回を開催した。

	開催日	場所	内容
第1回	平成6年4月28日	斎宮歴史博物館講堂	<ul style="list-style-type: none"> 平成6年度の事業計画について 斎宮歴史博物館企画展『お伊勢まいり』視察 事例報告 鴻ノ木遺跡 発掘調査現場視察 斎宮跡第105次調査 浅間古墳群
第2回	平成6年10月6日	<ul style="list-style-type: none"> 亀山市青少年研修センター2階研修室 津市役所8階大会議室 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村及び県の現状と課題 亀山市歴史博物館視察 津市特別展『古代揚子江の至宝—中国歴史文化都市・鎮江市の文物展—』視察
第3回	平成7年2月9日	斎宮歴史博物館講堂	<ul style="list-style-type: none"> 市町村及び県の現状と課題（平成7年度の展望） 奈文研研修報告 『遺跡測量過程』 講演 「須恵器生産をめぐる地域性」 京都府京都文化博物館 学芸員 山田邦和

〔三重県埋蔵文化財連絡調整会議〕

目的 県及び市町村の埋蔵文化財保護行政における諸問題について協議・情報交換を行うとともに長期計画・展望について意見交換を行う。

日時 平成6年6月28日（火） 午後1時30分～4時

場所 斎宮歴史博物館 2階 研修室

内容

- 発掘調査にかかる経費積算基準について
- 開発行為にかかる埋蔵文化財保護取扱について（発掘調査基準）

- 事例発表「県における各種開発にたいする保護取扱。」 三重県埋蔵文化財センター
- 〃 「四日市市における各種開発にたいする保護取扱。」 四日市市教育委員会
- 〃 「一志町における各種開発にたいする保護取扱。」 一志町教育委員会
- 〃 「嬉野町における各種開発にたいする保護取扱。」 嬉野町教育委員会
- 〃 「松阪市における各種開発にたいする保護取扱。」 松阪市教育委員会

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議・研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。今年度は次の会議等に参加した。

名称	内容	期日	場所	出席者
平成6年度全国公立埋文協総会・役員会	平成6年度事業計画 その他	6月1・2日	青森県青森市	山沢 義貴 新田 洋
第6回埋蔵文化財写真技術研究会	総会・研究会	7月1・2日	奈良県奈良市	森川 幸雄

平成6年度全国公立埋蔵文化財 連絡協議会役員会	平成7年度事業計画 その他	10月27・28日	三重県久居市	川村 政敬 山澤 義貴 新田 洋 森川 常厚 森川 幸雄 岸田 早苗 前川 嘉宏 岸田 早苗 川村 政敬 山澤 義貴 山田 猛 新田 洋 田村 陽一 森川 常厚
全国公立埋文協第7回全国研究会	考古学と化学分析	10月20・21日	大阪府堺市	
平成6年度全国公立埋文協 中部・北陸ブロック会議	埋蔵文化財の保護取扱いについて他	2月23・24日	三重県多気郡明和町	

2. 埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所が実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修と奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘技術専門研修を随時受講させている。

内 容	実 施 機 関	期 間	受 講 者
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	平成6年7月1日～9月30日	船越重伸
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	〃 9月1日～11月30日	宇河雅之
専門研修 遺跡測量課程	奈文研埋蔵文化財センター	〃 9月20日～10月19日	森川常厚

〔埋蔵文化財発掘技術者研修（教員研修）〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度以降期間1カ年の研修となり、本年度は次の3名が県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において研修を行った。これまで昭和54年度から本年度までに62名が研修を終了した。

平成6年度研修生

松本 美先 県立伊勢実業高等学校
田中 伸之 松阪市立第三小学校
増田 博 上野市立桃青中学校

平成5年度研修内容

月	研 修 内 容
4	・研修ガイダンス ・2次整理研修5・6 ・室内講義5・6 ・自主研修
5	・発掘調査実習（風呂ノ谷・細野遺跡 釜生田遺跡 高座遺跡 ほか） ・試掘調査実習
6	・ 〃 （風呂ノ谷・細野遺跡 釜生田遺跡 高座遺跡 ほか）
7	・ 〃 （大藪遺跡 釜生田遺跡 森脇遺跡 ほか）
8	・ 〃 （松葉遺跡 釜生田遺跡 森脇遺跡 ほか）
9	・ 〃 （遊山城跡 沖の坂・国分東遺跡 弥助遺跡 ほか）
10	・ 〃 （遊山城跡 天水遺跡 弥助遺跡 ほか）
11	・ 〃 （遊山城跡 井戸地遺跡 沖の坂・国分東遺跡 ほか）
12	・ 〃 （井戸地遺跡・六地藏B遺跡 ほか） ・分布調査実習
1	・分布調査実習 ・試掘調査実習
2	・報告書作成実習 ・分布調査実習 ・試掘調査実習 ・室内講義Ⅲ
3	・報告書作成実習 ・試掘調査実習

室内講義内容

月 日	内 容	担 当 者
〔室内講義Ⅰ〕		
4. 12	埋文センターの組織と機能 埋蔵文化財の保護行政と発掘調査 遺跡の調査と方法（現場作業） 遺物の整理と報告書（室内作業）	山沢義貴（埋蔵文化財センター） 伊藤克之（ 〃 ） 山田 猛（ 〃 ） 新田 洋（ 〃 ）
〔室内講義Ⅱ〕		
4. 13	遺跡の立地と地形環境 縄文時代の三重 弥生時代の三重 古墳時代の三重	田村陽一（埋蔵文化財センター） 森川幸雄（ 〃 ） 河北秀実（ 〃 ） 森川常厚（ 〃 ）
4. 14	律令制下の三重 中・近世の三重 文献からのアプローチ	泉 雄二（ 〃 ） 前川嘉宏（ 〃 ） 小林 秀（ 〃 ）
4. 15	博物館業務 斎宮跡	倉田直純（斎宮歴史博物館） 吉水康夫（ 〃 ）
〔室内講義Ⅲ〕		
2. 13	土器様式・型式 縄文土器 須恵器 古墳時代の土師器	山田 猛（埋蔵文化財センター） 田村陽一（ 〃 ） 西村修久（ 〃 ） 中村光司（ 〃 ）
2. 14	建物 弥生土器 中世の土師器 飛鳥～平安時代の土師器	赤岩 操（斎宮歴史博物館） 上村安生（ 〃 ） 新田 洋（埋蔵文化財センター） 泉 雄二（ 〃 ）
2. 20	城館 瓦器 中近世陶磁器 瓦	森川常厚（ 〃 ） 野口美幸（ 〃 ） 本堂弘之（ 〃 ） 河北秀実（ 〃 ）
2. 21	緑釉陶器・灰釉陶器 墓 山茶碗 祭祀等特殊遺構・遺物	岸田早苗（ 〃 ） 竹内英昭（ 〃 ） 前川嘉宏（ 〃 ） 穂積裕昌（ 〃 ）

〔埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修〕

町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、文化財保護行政に資するための研修を実施している。本年度は次の2件を実施した。

所属・氏名	種 別	内 容	期 間
玉城町教育委員会 中世古憲司	講座 I	分布調査・試掘調査実習等 （玉城町内各地・ 久居市五間田遺跡ほか）	平成6年5月2日～5月31日
	講座 IV	報告書作成実習 （玉城町砂谷遺跡）	平成6年7月1日～8月31日
	講座 II	発掘調査の立案と実習等 （玉城町銚子口遺跡遺跡）	平成7年2月1日～3月31日

3. 埋蔵文化財保護等に関する指導・協力

依頼者	内容	期日
員弁町教育委員会	北野遺跡他発掘調査報告書作成の指導	4月1日～4月30日
立命館大学	京都縄文研究会の講師	4月23日
上野市教育委員会	城之越遺跡保存整備指導委員会に出席	4月26日
勢和村史編纂委員会	勢和村史編纂委員会議に出席	5月7日
大王町教育委員会	考古資料の整理	6月1日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	6月11日
御園村教育委員会	文化財調査委員会に出席	6月13日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	6月17日
三重県文化振興課	丹生川上城跡の現状確認	6月17日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	6月23日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	6月25日
立命館大学	京都縄文研究会の講師	7月9日
四日市市立博物館	四日市市立博物館資料委員会議に出席	7月27日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	8月1日
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡ほか発掘調査指導委員会に出席	8月5日
美杉村教育委員会	「美杉村遺跡詳細分布調査」調査委員会に出席	8月31日
三重県文化振興課	三重県祭り調査に係る全体会議に出席	9月6日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	9月10日
鳥羽市教育委員会	宮の谷古墳の現状確認	10月13日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	10月15日
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会に出席	10月19日
上野市教育委員会	伊賀国府跡史跡指定にかかる協議会に出席	10月27日～11月30日随時
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡発掘調査の現地指導	10月27日～11月30日随時
青山町教育委員会	梅ヶ森遺跡調査の現地指導	11月1日～11月30日随時
皇學館大学考古学研究会	講師	11月4日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	11月12日
勢和村教育委員会	勢和村文化財分布調査打合せ会	11月26日
多気町教育委員会	西山城址・森荘川浦遺跡の遺物整理作業の指導	11月28日～12月2日随時
三重県学事文書課	考古資料の各種調査	12月～平成7年3月
多気町教育委員会	西山城址・森荘川浦遺跡整理事業員の指導	12月5日～2月28日随時
美杉村教育委員会	美杉村遺跡詳細分布調査の現地指導	12月12日～12月20日随時
国立歴史民俗博物館	「土偶シンポジウム3 栃木大会」準備など	12月17日・18日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	12月17日
亀山市立中央公民館	講師	12月18日
京都古墳時代研究会	講師	1月7日
勢和村史編集委員会	勢和村史編集委員会議に出席	1月21日
滋賀県文化財保護協会	埋蔵文化財研究会事前会議及び講師	1月18日・26日
国立歴史民俗博物館	「土偶シンポジウム3 栃木大会」準備など	1月21日・22日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	1月24日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	1月27日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	1月30日
御園村教育委員会	文化財調査委員会に出席	1月30日
三重県学事文書課	『三重県史』資料編編纂担当者会議に出席	2月4日
国立歴史民俗博物館	「土偶シンポジウム3 栃木大会」準備など	2月4日・5日
御園村教育委員会	文化財調査委員会に出席	2月16日
上野市教育委員会	西明寺遺跡発掘調査の現地指導	2月21日
国立歴史民俗博物館	「土偶シンポジウム3 栃木大会」	2月24日～2月26日
多気町教育委員会	森荘川浦遺跡整理事業員の指導	3月1日～3月24日
玉城町教育委員会	講師	3月4日
嬉野町教育委員会	文化財保護委員会に出席	3月14日
国立歴史民俗博物館	「非文献資料の基礎的研究」による研究会に出席	3月15日・16日
上野市教育委員会	城之越遺跡保存整備の指導	3月24日

平成6年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

1. 目的

発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主催

三重県教育委員会

3. 担当

三重県埋蔵文化財センター

4. 期間

平成6年4月1日～翌年3月31日までの12か月間

5. 場所

- ・多気郡明和町大字竹川 三重県埋蔵文化財センター
- ・県内各発掘調査現場

6. 人員

4名（小・2名、高校2名）

7. 参加資格

- (1) 県内の公立小学校・中学校・高等学校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。
- (2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和35年4月以降生まれである者。

8. 研修内容

(1) 講義

- 総論 ・文化財の保護
- 各論 ・文化財保護法
 - ・史跡および埋蔵文化財保護の現状
 - ・発掘調査方法
 - 調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査
 - ・遺物調査方法
 - 実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査
 - ・関係学概説
 - 建築構造、測量、保存科学、文献史学
 - ・報告書作成方法 等

- (2) 実習 ・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習等

9. 講師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

10. その他

- (1) 研修者の出張旅費は、県の旅費規程にしたがって支給する。
- (2) 研修期間中は、当該学校に対し常勤講師の補充がなされる予定である。
- (3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

平成6年度 研修年間計画概要

内 容	月											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義 I 室内講義 II	— —											
基本実習	— —											
発掘調査		— —			— — — —							
分布調査									—			
試掘調査										—		
室内講義 III												—
報告書作成									— —	—		
施設・主要遺跡見学	—		—									
研修場所	埋蔵文化財センター他									埋蔵文化財センター・県下各発掘調査現場他		埋蔵文化財センター他

〔町村職員研修実施要項〕

埋蔵文化財発掘技術町村職員研修実施要項

1. 目的

この要項は、各町村において文化財保護行政を担当する者に対して、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門的知識と技術について研修（以下「研修」という。）を行うことにつき、必要な事項を定めるものとする。

2. 研修の主体

研修は、三重県埋蔵文化財センターが行う。

3. 研修の場所

研修の場所は、三重県埋蔵文化財センターおよび県内各地の埋蔵文化財発掘調査現場等とする。

4. 研修の対象

研修の対象者（以下「研修員」という。）は、町村教育委員会文化財保護行政担当職員、もしくはこれに準ずる者とする。

5. 研修員の決定

(1) 町村教育委員会教育長は、職員に研修を受けさせようとするときは、別紙様式の「研修希望調書」を三重県埋蔵文化財センター所長（以下「所長」という。）に提出するものとする。

(2) 所長は、研修希望調書をもとに選考のうえ研修員を決定し、町村教育委員会教育長に通知するものとする。

6. 研修の内容

研修の内容は、別表「研修内容」のとおりとする。

7. 修了証書の交付

所長は、研修員が全研修課程を修了したと認めるときは、修了証書を交付する。

8. 研修に要する経費

(1) 研修員の旅費は、研修員派遣機関において負担するものとする。

(2) 所長は、研修に必要な資料等の経費について、研修員派遣機関に実費負担を求めることができる。

9. その他

前各項に定めるもののほか、研修の実施について必要な事項は、所長が別に定める。

（ 附 則 ）

この要項は、平成6年4月1日から施行する。

（別 表） 埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修 研修内容

講座名	期 間	研 修 内 容			
講座Ⅰ	1 か月間	Ⅱ 文化財保護法の概要	Ⅱ 埋蔵文化財の判定	Ⅱ 試掘調査の立案と実習	
講座Ⅱ	2 か月間	Ⅱ 発掘調査の立案と実習	Ⅱ 遺構の実測と写真撮影実習		
講座Ⅲ	2 か月間	Ⅱ 発掘調査資料の整理実習	遺構図面・写真の整理	出土遺物の整理	遺物実測
講座Ⅳ	2 か月間	Ⅱ 報告書作成に関する実習	遺物写真撮影	遺物・遺構図版の作成	

〔 注 〕

(1) 講座5 については、講座修了者と同等の技術を有すると所長が認めた場合は省略することができる。

(2) 各講座の取得方法および実施時期は研修員派遣期間と協議の上決定する。

（ 参 考 ）

受 講 例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
例 1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・					
例 2																	

(別紙様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県埋蔵文化財センター所長 様

町村教育委員会教育長 印

研 修 希 望 調 書

埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修を次のとおり希望します。

希望する講座名				
研修派遣期間		一 年 月 日 から 年 月 日まで		
研 修 希 望 職 員	ふりがな 職 氏 名		性別	男・女
	生年月日(年齢)	(歳)		
	現職年数	年 (年 月 以来)		
	最終学歴	学校名 (学部	学科)
	発掘調査経験 (参加遺跡名)	(有 無)
その他希望事項				

IV. 資料の整理・保管・公開

1. 資料の整理・保管

本年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、その整理は埋蔵文化財センター及び受託事業現場整理所で行っている。出土遺物の保管については、原則として再検討・貸出等利用頻度の高いものを埋蔵文化財センター収蔵庫に、その他のものは各収納倉庫に保管している。

一方、実測図面・写真フィルム類についても出土遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸し出し等に対応している。一方、受贈図書は約 冊有り、図書室に分類保管して職員の利用に供している。

〔平成6年度出土品量（概数）〕

事業		平成6年度出土量
公共事業		1,200
受託事業	東海環状	109
	関IC	185
	中勢道路	1,948
	松多バイパス	796
	斎宮跡	300
合計		4,538

※ 平成6年度出土品量の内1,385箱は、仮設プレハブ収納倉庫（桜橋）に収納予定。

〔出土遺物保管状況〕

施設		遺物保管量
埋文センター 収蔵庫 2	センター	9,416
	斎宮	10,033
収納倉庫	桜橋	19,470
	藤方	7,019
	上野	3,200
受託現場整理 所(一時保管)	東海環状	109
	中勢道路	5,092
	松多バイパス	1,756
合計		52,942

※数量はコンテナ（55cm×35cm×15cm）による

2. 科学的保存処理

埋蔵文化財センターには、出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室1（木製品保存処理）にPEG樹脂含浸装置2基、保存科学室2（金属製品保存処理）に減圧樹脂含浸装置1基ほかが設置されている。また、中勢道路整理所にPEG含浸装置1基が設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員等が保存処理にあっている。

3. 資料の公開

・出版物の発行

発掘調査報告書・概報・埋蔵文化財展図録のほかに『三重県埋蔵文化財センター研究紀要4』『三重県埋蔵文化財センター通信みえ』No13～15等を発行し、関係機関等へ配布している。

・現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護への理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺 跡 名	所 在 地	担 当 課	開 催 日	参加人数
上ノ垣外遺跡（第2次）	多気郡多気町荒蒔	調査第2課	H 6. 7.30	120名
新徳寺遺跡（第1次）	多気郡多気町相可			
北野遺跡（第4次）	多気郡明和町蓑村	調査第1課	H 6. 8.13	雨天30名
六大A遺跡（B・C地区）	津市大里窪田町	調査第2課	H 6. 9.10	350名
高寺遺跡	名賀郡青山町伊勢路	調査第1課	H 6.10.23	80名
六大A遺跡（A地区）	津市大里窪田町	調査第2課	H 7. 1.28	200名
石薬師東古墳群	鈴鹿市石薬師町	調査第1課	H 7. 1.29	150名
堀町遺跡（第1次）	松阪市朝田寺町	調査第2課	H 7. 2. 4	100名
権現坂遺跡	員弁郡北勢町治田外面	調査第2課	H 7. 2.11	170名
合 計		8 件		1,200名

・齋宮歴史博物館速報コーナーでの展示

齋宮歴史博物館映像展示室の速報コーナーで、埋蔵文化財センターが実施している発掘調査の成果の一部を速報的に随時展示している。本年度は次の資料を展示した。

- 4月～6月 小屋城古墳群（須恵器） 伊賀国府跡（土師器・須恵器）
- 7月～8月 六大A遺跡（土師器・須恵器） 鴻ノ木遺跡－第5次－（縄文土器）
上ノ垣外遺跡（土師器）
- 9月～12月 北野遺跡－第4次－（弥生土器・土師器）
- 1月～3月 高寺遺跡（土師器・瓦器・白磁）
- 3月 堀町遺跡（弥生土器・銅鐸形土製品）

・三重県埋蔵文化財発掘調査速報展

前年度の三重県下の発掘調査の結果を展示し、広く県民に公開するために、三重県埋蔵文化財発掘調査速報展を行うことになった。第3回目である本年度は、関係各機関のご協力を得、齋宮歴史博物館特別展示室を会場として、平成6年7月20日（水）～8月14日（日）までの会期で実施した。会期中の入場者数は、約3,150人であった。

第3回 三重県埋蔵文化財発掘調査速報展開催要項

1. 目 的
 - ① 平成5年度に県下で実施された発掘調査の成果を、広く県民へ速やかに公開するため。
 - ② 埋蔵文化財がわが国の歴史・文化の正しい理解と文化の向上発展のために、貴重な遺産であることを、県民へ普及啓蒙するため。
 - ③ 県民に対して埋蔵文化財保護への理解と協力を求めるため。
 - ④ なおいっそうの県民文化の向上に努めるため。
2. 主 催 三重県埋蔵文化財センター
3. 期 間 平成6年7月20日（水）～8月14日（日） 9：30～17：00（入館は16：30まで
ただし、月曜日は博物館休館日のため休展
4. 場 所 齋宮歴史博物館 特別展示室（多気郡明和町竹川 503番地）
5. 展示テーマ 「'93発掘三重」
6. 主な展示資料 石薬師東26号墳出土遺物 鴻ノ木遺跡出土遺物 西ヶ谷遺跡出土遺物

小屋城古墳群出土遺物	北野遺跡出土遺物	長者屋敷遺跡出土遺物
六大B遺跡出土遺物	伊賀国府跡出土遺物	御墓山窯跡出土遺物
大古曾遺跡出土遺物	斎宮跡出土遺物	横山古墳群出土遺物
ほか多数		

7. 入館料 速報展に関してのみ無料

・三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は、昭和56年度から三重県教育委員会が主催して、各市町村を会場に毎年実施してきた。平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果および市町村主体の発掘調査の成果を展示して広く県民に公開し、生涯教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第14回目を迎えるが、斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センターの開設5周年にあたり、それを記念して博物館と共催で、斎宮歴史博物館特別展示室を会場に、9月23日（金）～11月23日（水）までの会期で実施した。今回は「三重の祭祀遺跡—まつりのかたちさまざま—」というテーマで、県内外に収蔵されている三重県下出土の主要祭祀遺物を一堂に集めるとともに、県外の参考資料と比較しながら紹介した。会期中の入場者数は、約11,304人であった。

第14回 三重県埋蔵文化財展「三重の祭祀遺跡 —まつりのかたちさまざま—」開催要項

1. 開催趣旨

自然の脅威を恐れ、豊かな自然の恵みや収穫を祈るまつり、疫病や災いを除き生活の安定を祈るまつり。人々は日々の生活の中で、様々なまつりや祈りを行ってきた。まつりや祈りに使われた祭祀遺物は斎宮跡をはじめ県内各地の遺跡から出土し、かつての人々の祈りや願いを今に伝える貴重な資料となっている。本展覧会は斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター開設5周年記念として、県内外に収蔵されている三重県下出土の主要祭祀遺物を一堂に集めるとともに、県外の参考資料と比較しながら紹介する。

2. 主催 斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター

3. 会場 斎宮歴史博物館 特別展示室 ☎515-03 三重県多気郡明和町竹川503

TEL 05965-2-3800・3722 FAX 05965-2-3724

4. 会期 平成6年9月23日（祝）～11月23日（祝） 52日間

5. 開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

6. 休館日 月曜日、祝日の翌日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

7. 入館料 個人 一般600円、高大学生400円、小中学生100円
 団体 一般480円、高大学生320円、小中学生 80円

8. 出品資料 土偶・石棒・銅鐸・滑石製模造品・土製模造品・土馬・人形・斎串・ミニチュア土器など
 77件約500点

9. 記念講演会 演題 「海への祈り—鳥羽神島の謎」

講師 日本大学教授 亀井正道氏

日時 平成6年11月3日（祝） 午後1時30分～3時

会場 斎宮歴史博物館講堂（聴講無料）

10. 主な展示資料

	資 料 名	所 蔵 者	
多度町	柚井遺跡	斎串、吉祥句墨書土器、土馬	桑名市博物館
朝日町	縄生廃寺	塔心礎埋納品(舍利容器、外容器、三彩杯)	文化庁
四日市市	伊坂	偏平紐式銅鐸	四日市市 菟上耳利神社
四日市市	智積廃寺	三尊セン仏、独尊セン仏	四日市市教育委員会
四日市市	茂福城跡	木槌、船形木製品	四日市市教育委員会
四日市市	赤堀城跡	呪符、墨書土器、犬形土製品	四日市市教育委員会
鈴鹿市	高岡山遺跡群	菱環紐式銅鐸片	伊勢市 個人
鈴鹿市	磯山	外縁紐式銅鐸	東京国立博物館
鈴鹿市	一反通遺跡	突線紐式銅鐸片、鐸形土製品	鈴鹿市教育委員会
亀山市	大鼻遺跡	土偶、子持勾玉、滑石製白玉	三重県埋蔵文化財センター
関町	正法寺山荘跡	犬形土製品、泥塔	関町教育委員会
芸濃町	下川遺跡	漆描土器、犬形土製品	三重県埋蔵文化財センター
津市	神戸	外縁紐式銅鐸	東京国立博物館
津市	野田	突線紐式銅鐸	津市 専修寺
津市	太田遺跡	鐸形土製品	三重県埋蔵文化財センター
津市	納所遺跡	鐸形木製品、直弧文付手焙形土器	三重県埋蔵文化財センター
津市	メクサ4号墳	鹿角装刀子	津市教育委員会
津市	鳥居古墳	押出仏	三重県立博物館
嬉野町	東野B遺跡	線刻磔	三重県埋蔵文化財センター
嬉野町	下沖遺跡	土偶、石刀、石剣、朱彩土器	嬉野町教育委員会
嬉野町	天白遺跡	土偶、岩偶、石棒、石刀、土製玉類、朱付き土器、	三重県埋蔵文化財センター
嬉野町	筒野古墳	位至三公鏡、三角縁三神三獸鏡、変形四神二獸鏡、	東京国立博物館
嬉野町	中之庄遺跡	瓦塔片	三重県埋蔵文化財センター
美杉村	漆経塚	唐草双鳥方鏡、梅樹飛雀鏡、陶製経筒、白磁合子	美杉村 漆区
松阪市	鴻ノ木遺跡	線刻磔、線刻土器	三重県埋蔵文化財センター
松阪市	草山遺跡	小形銅鐸・舌	松阪市教育委員会
松阪市	涌早崎遺跡	鐸形土製品	松阪市教育委員会
松阪市	常光坊谷4号墳	巫女埴輪、鶏形埴輪	松阪市教育委員会
松阪市	草山遺跡	土製模造品(人形、獸形、鏡形、玉形、円板形)	松阪市教育委員会
松阪市	伊勢寺廃寺	三彩陶器片	三重県埋蔵文化財センター
松阪市	ヒタキ廃寺	鬼瓦	〃
松阪市	曲遺跡	墨画土器	松阪市教育委員会
松阪市	杉垣内遺跡	斎串、人形、馬形、刀形、刀子形、陽物形、横櫛	三重県埋蔵文化財センター
松阪市	南山遺跡	銅製五輪塔	松阪市教育委員会
松阪市	大乘寺跡	泥塔	〃
松阪市	寄谷遺跡	柿経	三重県埋蔵文化財センター
明和町	寺垣外遺跡	独鈷石	三重県埋蔵文化財センター
明和町	斎宮跡	土馬、人面墨書土器、ミニチュア土器、斎串、馬齒	斎宮歴史博物館
多気町	カウジデン遺跡	土馬、斎串	三重県埋蔵文化財センター
宮川村	神滝遺跡	異形局部磨製石器	宮川村 個人
玉城町	カリコ遺跡	土馬・台	玉城町教育委員会
度会町	森添遺跡	土偶、耳飾、御物石器、石冠、石棒石刀、敲石	度会町教育委員会
伊勢市	朝熊山経塚	線刻阿弥陀如来鏡、秋花双鳥鏡、白磁合子、白磁皿	伊勢市 金剛證寺
伊勢市	金剛證寺	経石	伊勢市 金剛證寺
伊勢市	荒祭宮北方遺跡	滑石製白玉	東京国立博物館
伊勢市	佐八藤波遺跡	岩偶	伊勢市 個人
鳥羽市	神島	画文帯神獸鏡、飛禽草花八稜鏡、瑞花双鸞八稜鏡	鳥羽市 八代神社
鳥羽市	白浜遺跡	牙製垂飾、卜骨、石製舌、珥形鹿角製品、貝輪	鳥羽市 海の博物館
志摩町	地蔵貝塚	鹿角装刀	志摩町 御座小学校
大王町	泊古墳	五鈴鏡	東京国立博物館
上野市	山神寄建神社古	三角縁三神二獸鏡	東京国立博物館
上野市	石山古墳	車輪石、石釧、鍬形石、玉杖形石製品、	京都府 京都大学文学部
上野市	伊賀国庁推定地	子持勾玉	三重県埋蔵文化財センター
上野市	城之越遺跡	飾り弓、弓、刀鞘、劍鞘、劍形、刀形、槍形、案	三重県埋蔵文化財センター
上野市	北堀池遺跡	船形、劍形、刀子形	三重県埋蔵文化財センター
上野市	御墓山窯跡	土馬・土鈴	上野市教育委員会
上野市	西蓮寺経塚	経石	上野市教育委員会
名張市	土山遺跡	銅鏡、弭金物、滑石製模造品	名張市教育委員会
名張市	夏見廃寺	大形セン仏片、三尊セン仏片、独尊セン仏片、ら髪	名張市教育委員会
青山町	柏尾	突線紐式銅鐸	東京国立博物館
山梨県	金生遺跡	土偶、石棒、石刀、垂飾、勾玉、大珠、土製耳飾	山梨県立考古博物館
奈良県	平城京跡	人面墨書土器、人形(木・金属)、金属、小型鏡	奈良国立文化財研究所
愛媛県	上黒岩岩陰遺跡	線刻磔	東京都 慶応義塾大学文学部
広島県	草戸千軒町遺跡	墨書土器、人形、陽物形、舟形、懸仏、毬杖、毬	広島県立歴史博物館

ほか多数

4. 保管遺物等の貸出・写真等の掲載及び閲覧許可

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
世古遺跡出土遺物写真	小林 秀	『新版 玉城町史』（仮称）への掲載		4 / 6
世古遺跡出土遺物写真等3点	玉城町教育委員会	『新編 玉城町史』上巻（中世編）へ写真掲載		4 / 22
遺物展示ケース8台 遺物展示ケース鍵 遺物展示コード8本	鈴鹿市仏教文化研究会	鈴鹿市民会館における「鈴鹿の仏教文化展」に使用する	6 / 9～ 6 / 17	5 / 9
紀勢町遺跡台帳閲覧	岡田 登	紀勢町史編纂準備	5 / 10	5 / 10
地藏僧遺跡・北野遺跡の遺構平面図閲覧	陰山 誠一	論文作成	5 / 11	5 / 11
地藏僧遺跡の遺構平面図閲覧	陰山 誠一	論文作成	5 / 17	5 / 17
発掘調査の主要遺跡を紹介したビデオテープ	県立津東高等学校教諭 服部久士	日本史の授業で教材として使用する	5 / 25～ 6 / 8	5 / 23
地藏僧遺跡の遺構平面図閲覧	陰山 誠一	論文作成	5 / 20	5 / 20
地藏僧遺跡の遺構平面図・報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	5 / 24	5 / 24
地藏僧遺跡の遺構平面図・報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	5 / 30	5 / 30
多倉田遺跡報告書閲覧	四日市市教育委員会 川戸達也	四日市市発刊予定の報告書の資料とする	5 / 27	5 / 27
地藏僧遺跡の遺構平面図・報告書閲覧	陰山 誠一	修士論文作成の為の資料調査	5 / 27	5 / 27
大鼻遺跡出土土偶写真1点	株式会社至文堂	『日本の美術』「土偶」に掲載するため		6 / 6
北野遺跡遺構カード 他府県の報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	6 / 7	6 / 7
北野遺跡遺構カード 他府県の報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	6 / 10	6 / 10
上ノ広遺跡出土石器写真等2点	株式会社吉川弘文館	『一万年前を掘る』（奈良県立橿原考古学研究所編）への掲載		6 / 15
東浦遺跡出土木葉形尖頭器写真等4点	津市	『古代揚子江の至宝』展図録及び展示パネルに使用する	6 / 15～ 6 / 24	6 / 13
北野遺跡の遺構平面図・他県報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	6 / 21	6 / 21

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
北野遺跡の遺構平面図・他県報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	6 / 24	6 / 24
北野遺跡の遺構平面図・他県報告書閲覧	陰山 誠一	論文作成	6 / 28	6 / 28
石薬師東26号墳形象埴輪写真等3点	鈴鹿市教育委員会	第4回鈴鹿市埋蔵文化財展のパンフレットへ掲載		7 / 1
神大寺遺跡出土壺形土器等6点	雪野山古墳発掘調査団	雪野山古墳出土壺形土器制作地特定のための、胎土分析比較資料として用いる		7 / 11
天白遺跡出土注口土器ほか閲覧	岡田 憲一	論文作成	7 / 13	7 / 13
経塚中世墓群出土瀬戸三足壺等21点	財瀬戸市埋蔵文化財センター	企画展「東海の中世墓」へ出品	8 / 24～ 12 / 2	7 / 22
報告書閲覧	山中 由紀子	論文作成	7 / 22	7 / 22
鳥居本遺跡出土壺形土器実測図1点	尼崎市教育委員会	第24回尼崎市田能資料館特別展のポスターに使用		7 / 22
下郡遺跡出土製塩土器等20点	上野市教育委員会	関西製塩土器研究会での見学	8 / 19～ 8 / 22	8 / 8
石薬師東26号墳出土形象埴輪等12点	鈴鹿市教育委員会	第4回鈴鹿市埋蔵文化財展に展示	8 / 18～ 9 / 2	8 / 11
中ノ庄遺跡調査区全景写真等7点	尼崎市教育委員会	第24回尼崎市田能資料館特別展の解説資料として使用	8 / 19～ 10 / 7	8 / 18
納所遺跡壺形土器等156点	尼崎市教育委員会	第24回尼崎市田能資料館特別展に展示	8 / 26～ 10 / 7	8 / 18
天白遺跡出土宮滝式土器閲覧	鈴木 正博	調査・研究	8 / 11	8 / 11
天白遺跡出土土偶	黒田 利恵	論文作成	8 / 25	8 / 25
天白遺跡出土土偶	黒田 利恵	論文作成	8 / 26	8 / 26
天白遺跡出土土偶20点	奈良県立橿原考古学研究所	X線撮影を実施し、接合痕跡等を調べ、土偶作成技法を明確にし、土偶研究の資料とする	9 / 13	9 / 5
遺物展示ケース4台 遺物展示ケース鍵 遺物展示コード4本	金剛証寺	重要文化財の本堂落慶並びに20年に1度のご開帳法要を記念し、特別寺宝展を開催する	9 / 30～ 12 / 25	9 / 6
北野遺跡出土土師質土管1点	常滑市民俗資料館	特別展「土管の歴史展」展示	10 / 1～ 12 / 9	9 / 13
城之越遺跡大溝上流部全景写真1点	穂積 裕昌	『歴史読本』への掲載		9 / 20

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
大木ノ輪遺跡・天ノ宮遺跡・神大寺遺跡出土遺物等の閲覧	鈴鹿市教育委員会 新田 剛	写真撮影	9/16	9/16
大木ノ輪遺跡出土の弥生土器壺等27点	鈴鹿市教育委員会	公民館講座「長太近辺の遺跡」におけるスライド上映	9/16～ 9/27	9/16
報告書閲覧	松下 敦志	論文作成	9/30	9/30
天白遺跡配石遺構写真1点	穂積 裕昌	朝日グラフへの掲載		10/5
六大A遺跡出土櫛写真1点	株式会社ジャパン通信社	月刊文化財発掘出土情報94年11月号表紙写真に使用	10/7～ 11/29	10/7
天白遺跡出土土器閲覧	中村 敦子	論文作成	10/5	10/5
西殿遺跡出土土師器甕等18点	皇學館大学考古学研究会	皇學館大学大学祭における考古学研究会での展示	10/26～ 11/7	10/18
ビデオテープ三重の遺跡1991等2点	津市立育生小学校教諭笠井洋子	国語の授業で教材として使用する	10/19～ 10/28	10/18
伊勢寺小学校周辺のカラースライド26点	松阪市立伊勢寺小学校	第6年生の国語科と社会科の授業及び郷土史クラブで教材として使用する	10/19～ 10/31	10/19
大里西沖遺跡出土遺物等閲覧	帆足 俊文	論文作成	10/19	10/19
報告書閲覧	山中 由紀子	論文作成	10/24	10/24
遺物展示ケース2台 遺物展示ケース鍵 遺物展示コード2本	津市教育委員会	津市埋蔵文化財センター開設記念事業にともなう資料展示	10/28～ 12/末	10/28
考古学の概論等閲覧	滝下 宗昭	調査・研究	11/2	11/2
河芸町・美里村遺跡台帳閲覧	河合 良成	調査・研究	11/8	11/8
新徳寺遺跡出土遺物閲覧	伊藤 正人	調査・研究	11/2	11/2
城之越遺跡フィルム2点	明石市立文化博物館	企画展『発掘された明石の歴史展』におけるパネル展示に使用	11/9	11/9
大古曾遺跡出土遺物写真等3点	津市教育委員会 山口 格	津市政だよりの『歴史散歩』に使用	11/8～ 11/30	11/8
美里村・白山町遺跡台帳閲覧	県立津東高等学校教諭服部久士	文化財パトロール資料	11/8	11/8
六大A遺跡出土遺構及び遺物の写真	朝日新聞・アサヒグラフ編集部	『アサヒグラフ』「古代史発掘総まとめ」に掲載		11/16

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
天白遺跡出土遺物閲覧	岡田 憲一	論文作成	12/ 1	12/ 1
天白遺跡出土石器閲覧	長井 博志	論文作成	12/ 2	12/ 2
城之越遺跡出土土師器甕等35点	滋賀県安土城考古博物館	平成7年度春季特別展に展示する	H.7.4.17～ H.7.6.19	12/ 2
平田古墳群報告書等閲覧	藤田 有紀	論文作成	12/ 8	12/ 8
阿部丘陵遺跡群報告書閲覧	川崎 志乃	調査・研究	12/ 8	12/ 8
城之越遺跡大溝上流部全景写真等5点	滋賀県安土城考古博物館	平成7年度春季特別展の図録等に使用する	1 / 5 1 / 31	1 / 5
城之越遺跡全景写真等4点	穂積 裕昌	神奈川県鶴岡八幡宮発行の雑誌『悠久』に掲載		1 / 5
北野遺跡遺構図及び他県報告書等の閲覧	陰山 誠一	論文作成	1 / 10	1 / 10
衾所遺跡出土琴形木製品写真等3点	津市教育委員会	『津市の歴史散歩』に掲載	1 / 12	1 / 12
松葉遺跡全景写真等2点	勢和村教育委員会	村制40周年記念誌『勢和の自然と歴史』への掲載		1 / 18
他県報告書等の閲覧	陰山 誠一	論文作成	1 / 25	1 / 25
鴻ノ木遺跡出土押型文土器1点	講談社	田中琢・佐原眞監修「歴史発掘」第2巻「世界最古の縄文土器」に掲載する		2 / 7
報告書及び地形図閲覧	四日市市教育委員会 川崎正幸	調査研究	2 / 9	2 / 9
報告書閲覧	川崎 志乃	論文作成	2 / 9	2 / 9
上椎ノ木古墳出土四神鏡写真 1枚	亀山市歴史博物館	博物館企画展「亀山バイパスと文化財」ポスターに使用する	2 / 9～ 3 / 25	2 / 9
天白遺跡出土土偶 3点	財四日市市文化振興財団	企画展「人形展」にて展示	2 / 21～ 3 / 17	2 / 15
城之越遺跡大溝貼石部写真等2点	上野市教育委員会	城之越遺跡大溝復元整備の工外用外部フェンス東入口揭示用パネルに使用する	2 / 15～ 3 / 15	2 / 15
若宮遺跡遺構写真	小林 秀	「勢和村の自然と歴史」への掲載		2 / 22
山王遺跡出土遺物等 52点	桑名市教育委員会	「桑名市の考古資料展」にて展示	3 / 9～ 3 / 21	3 / 6

資 料 名	申 請 者	目 的	期 間	許可日
亀山バイパス建設地 内出土文化財写真パ ネル 174点	亀山市歴史博物 館	企画展展示	3/14～ 4/13	3/10
城之越遺跡 大溝貼 石部写真等 2点	上野市教育委員 会	城之越遺跡保存整備事業に使用	3/23～ 3/30	3/22
平林7号墳特殊扁壺 1点	愛知県陶磁資料 館	愛知県陶磁資料館特別企画展「古代の造 形美—装飾須恵器展」に展示	H7.9.20～ 12.9	3/22

5. 保管遺物等の長期貸出

資 料 名	申 請 者	目 的	許可日
起A遺跡出土弥生土 器及び炭化米	鈴鹿市教育委員会	稲生民俗資料館での常設展示に使用	
多気遺跡群出土瓦等 13点	美杉村教育委員会	美杉ふるさと資料館での常設展示に使用	
落川原遺跡出土石帯 1点	四日市市立博物館	常設展示での使用	
山王遺跡出土遺物 66箱	桑名市教育委員会	資料公開及び市民への文化財保護意識の 普及・啓蒙 埋蔵文化財整理室にて利用	
出土品保管ケース 3 点	県立神戸高等学校	出土品保管管理	4/7
正知浦遺跡出土有舌 尖頭器等 298点	亀山市歴史博物館	亀山市歴史博物館常設展示に使用	9/2
陶器壺 畜銭容器等 157点	地方職員共済組合 三重県支部	榑原保養所神湯館に展示	12/12

6. 出土文化財の寄贈

資 料 名	申 請 者	受付日
容器（信楽産の壺） 1点 陶器皿片 1点 小銭 12, 619点	地方職員共済組合 三重県支部	12/12

7. 斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺 跡 名	遺 物 名
大安中世墓 丹生川上城跡 西ヶ広遺跡 東庄内A遺跡 東庄内B遺跡 上箕田遺跡 神大寺遺跡 川原井瓦窯 川原井遺跡 柴崎遺跡 大鼻遺跡 井田川茶臼山古墳	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔(1式) 蔵骨器(1) 異形硯(1) 縄文土器：深鉢(1) 縄文土器：台付鉢(1) 壺棺墓：壺(1) 甕(1) 台付鉢(1) 方形周溝墓出土：壺(1) 石器：石包丁(1) 直柄鋤(2) 石器：石斧(1) 伊勢国分寺式軒丸瓦(1) 軒平瓦(1) 灰釉陶器：浄瓶(1) 土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壺(1) 土偶(1)、子持勾玉(1) 須恵器：器台(5) 台付壺(4) 壺(7) 甕(1) 裝飾台付壺(1) 臚(1) 有蓋高杯(2) 有蓋高杯蓋(2) 土師器：壺(1)
上椎ノ木古墳 木下古墳 柳垣内遺跡 大塚古墳 浄土寺南遺跡 納所遺跡	馬具：杏葉(4) 鏡板(2) 辻金具(2) 銅鈴(1) 四神鏡(1)、石製壺(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34) 獸帯鏡(1) 蔵骨器(1) 水晶切子玉(11) 管玉(4) 円面硯(1) 弥生土器：彩文壺(1) 黒色壺(1) 手焙型土器(1) パイプ型土器(1) 壺(1) 片口鉢(1) 台付壺(1) 木製品：琴(1) 篋状木製品(1) 木鐸(1) 斧の柄(2) 鋤(4) 鍬(2) 直柄鋤(1) 櫛(1) 石器：石斧(6) 石包丁(4) 石小刀(3)
亀井遺跡 太田遺跡 鳥居本遺跡 午前坊遺跡 堀ノ内遺跡 天華寺廃寺 東野遺跡 堀田遺跡 中ノ庄遺跡 杉垣内遺跡	双脚壺(1) 銅鐸型土製品レプリカ(1) 方形周溝墓：壺(1) 瓢壺(1) 縄文土器：深鉢(1) 塑像(1)、埴仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、へら描き軒平瓦(1) 線刻磔(1) 円面硯(1) 馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1) 石器：石包丁(1) 木製品：人形(2) 櫛(1) 斎串(11) 土馬(4)、ミニチュア土器：壺(7)
伊勢寺廃寺 深長古墳 横尾墳墓群 養徳寺遺跡 崎谷遺跡 牧瓦窯 牧中世墓 河田古墳群 東裏遺跡 カウジデン遺跡	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1) 土師器：壺(1) 経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1) 柿経(1式) 五輪塔(1)、石仏(2) 軒丸瓦(1)、軒平瓦(1) 石仏(1) 土師器：高杯(3) 甕(1)、須恵器：杯蓋(2) 杯身(2) 高杯(2) 壺(3) 土師器：杯「中臣」(1) 碗(1) 青磁：碗(1) 土馬(1) 土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1)
神前山古墳 寺垣内遺跡 西出遺跡 大藪遺跡 樋ノ谷遺跡 東畑中世墓 東山古墳 北堀池遺跡 北切遺跡 前山古墳 小上野西谷遺跡 歌野遺跡 辻垣内遺跡	黒色土器：碗(1) 円筒埴輪(1)、須恵器：二重臚(1) 鳥形臚(1) 独鈷石(1) 土板(1) 方形周溝墓：壺(1) 珠状耳飾(1) 蔵骨器(2) 土師器：高杯(1) 器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2) 鉄剣(1) 木製品：槌(1) 鍬(3) 剣型木製品(1) 舟型木製品(2)、円面硯(1) 方形周溝墓：壺(1) 銀象嵌刀装(2) 土製勾玉(1) 製塩土器(2) 縄文土器深鉢(1)

V. 行政資料

1. 文化庁通達「行政手続法の施行及びこれに伴う文化財保護法の一部改正等について」

庁保伝第141号
平成6年11月25日

各都道府県教育委員会教育長 様

文化庁次長
林田 英樹

行政手続法の施行及びこれに伴う文化財保護法の一部改正等について（通達）

「行政手続法（平成5年法律第88号）」が平成5年11月12日に公布されるとともに、「行政手続法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律（平成5年法律第89号）」が同日公布され、同法により、別添1のとおり、文化財保護法の一部が改正されました。これらは、いずれも平成6年10月1日に施行されております。

また、これに関連して、「文部省聴聞手続規則（平成6年文部省令第36号）」及び「行政手続法及び行政手続法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律の施行に伴う文部省関係省令の整備に関する省令」（平成6年文部省令第37号）が平成6年9月21日に公布され、同省令により、別添2のとおり、「文化財保護法の規定による処分等に関する聴聞及び不服申立規則（昭和29年文化財保護委員会規則第11号）」の一部が改正されました。同省令は「文化財保護法の規定による処分等に関する聴聞、意見の聴取及び不服申立規則」として平成6年10月1日に施行されております。

ついては、これらの施行に伴う文化財保護事務について、下記に留意の上、遺漏なく処理して下さるようお願いいたします。

なお、このことについて、管下市（区）町村教育委員会にたいしてもその趣旨が徹底されるようよろしくお取り計らい願います。

記

1 行政手続法に施行に伴う文化財保護事務について

I 行政手続法上の申請に対する処分に該当する文化財保護法上の処分について

(1)行政手続法上の申請に対する処分に該当する文化財保護法上の処分は別紙1の「1」のとおりであること。

なお、文化財保護法第27条、第29条、第56条の3、第56条の4、第56条の10、第56条の11、第69条、第70条及び第71条による文化財の指定、仮指定及び指定等の解除並びに同法第83条の3、第83条の4、第83条の5、第83条の7及び第83条の8による選定及び選定の解除については、行政手続法上の処分には該当せず、同法は適用されないこと。

(2)行政手続法第5条に基づく審査基準については、別紙2のとおり「重要文化財及び史跡名勝天然記念物の現状変更等に係る審査基準について」を定めたこと。

(3)行政手続法第6条に基づく標準処理期間については、別紙3のとおり「重要文化財及び史跡名勝天然記念物の現状変更等に係る標準処理期間について」を定めたこと。

「重要文化財及び史跡名勝天然記念物の現状変更等に係る標準処理期間について」に定められた標準処理期間

には、各都道府県教育委員会の実績等を勘案し、都道府県教育委員会における処理期間を含めないこととしたが、各都道府県教育委員会におかれては、行政手続法の趣旨を踏まえ、事務処理の迅速化に努められたいこと。

(4)別紙2及び別紙3以外の文化財保護法上の申請に対する処分に関する審査基準及び標準処理期間については、過去に実例がないこと等にかんがみ、当分の間、審査基準及び標準処理期間を定めないこととしたこと。

II 行政手続法上の不利益処分に該当する文化財保護法上の処分について

(1)行政手続法上の不利益処分に該当する文化財保護法上の処分は別紙1の「2」のとおりであること。

なお、文化財保護法第27条、第29条、第56条の3、第56条4、第56条の10、第56条の11、第69条、第70条及び第71条による文化財の指定、仮指定及び指定等の解除並びに同法第83条の3、第83条の4、第83条の5、第83条の7及び第83条の8による選定及び選定の解除については、行政手続法上の不利益処分には該当せず、同法は適用されないこと。

(2)行政手続法第12条に基づく処分基準については、別紙4のとおり「重要文化財及び史跡名勝天然記念物等に係る不利益処分に関する処分基準について」を定めたこと。

(3)別紙4以外の文化財保護法上の不利益処分に関する処分基準については、過去に実例がないこと、事案が極めて多様であること等にかんがみ、あらかじめ具体的な基準を画一的に定めることが困難であるため、当分の間、処分基準を定めないこととしたこと。

III 地方公共団体の機関が行う処分等について

(1)地方公共団体の機関が行う処分（その根拠規定が条例又は規則に置かれているものに限る。）及び地方公共団体の機関に対する届出（その根拠基準が条例又は規則に置かれているものに限る。）については、地方自治の尊重の観点から行政手続法の適用除外であること。

また、地方公共団体が行う行政指導については、それが法律に規定される事項を実施するものか、条例で規定される事項を実施するものかを問わず、一律に行政手続法の適用除外であること。

(2)文化財保護法第98条第2項により地方公共団体が定めた条例（いわゆる文化財保護条例）に基づく処分等については、根拠規定が条例であるため、行政手続法の適用除外であること。

(3)文化財保護法第83条の3第1項により市町村が定めた条例（いわゆる伝統的建造物群保存地区保存条例）に基づく処分等については、根拠規定が文化財保護法であるため、行政手続法が適用されること。

このため、当該条例を制定している市町村におかれては、行政手続法上の申請に対する処分に該当する処分について、行政手続法第5条に基づく審査基準を定めるとともに、行政手続法第6条に基づく標準処理期間を定めるよう努められたい。また、当該条例中に行政手続上の不利益処分に該当する処分が規定されている場合には、行政手続法第12条に基づく処分基準を定めるよう努めるとともに、行政手続法等に基づく意見聴取のための手続きを執ることとされたいこと。

なお、当該条例中に現状変更の許可基準が定められている場合には、行政手続法第5条に基づく審査基準を改めて定める必要はないこと。

(4)文化財保護法第99条により都道府県教育委員会に委任された文化庁長官の権限に基づく処分については、根拠規定が文化財保護法であるため、行政手続法が適用されること。

このため、当該都道府県教育委員会におかれては、行政手続法上の申請に対する処分に該当する処分について、別紙2及び別紙3を参考に、行政手続法第5条に基づく審査基準を定めるとともに、行政手続法第6条に基づく標準処理期間を定めるよう努められたい。また、行政手続法上の不利益処分に該当する処分について、別紙4を参考に、行政手続法第12条に基づく処分基準を定めるよう努めるとともに、行政手続法等に基づく意見陳述のための手続きを執ることとされたいこと。

2 文化財保護法の一部改正について

(1)概要

文化財保護法では、従前から、聴聞等の事前手続きが整備されていたが、行政手続法の施行に伴い、当該事前手続については原則として行政手続法で定める手続に従うこととし、また、文化財の所有者等の権利保護が従前以下のものとならないよう配慮しつつ整理し、行政手続法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律により、所要の規定改正を行ったこと。

この改正により、行政手続法で定める事前手続が適用されるものについては、従前の手続きに係る規定を削除するとともに、弁明に代えて聴聞を行う場合や聴聞の公開等の特例を設けることとしたこと。

また、行政手続法では不利益処分とされていない各種措置の施行のうち、文化財保護法により聴聞を行うこととされているものについては、行政手続法上の聴聞と区別するため、用語を従来の「聴聞」から「意見の聴取」に改め、従来どおりの手続きを行うこととしたこと。

(2)主な改正の内容

主な改正の内容は、以下のとおりであること。

① 第48条第4項ただし書関係

文化庁長官による公開命令を発する際には、行政手続法により弁明の機会を付与することとなるので、事後手続に係る部分を削除することとしたこと。

② 第85条関係

・第1項

本条では、聴聞を行うべき処分・措置を列挙しているが、行政手続法の施行に伴い、同法に基づき聴聞を行うべき処分及び事前手続を必要としない措置に関する規定を削除するとともに、行政手続法では弁明の機会を付与すれば足りる処分について特に聴聞を行うことを定めることとしたこと。

・第2項

行政手続法の特例として、聴聞の期日の10日前までに、聴聞の通知をし、かつ、処分の内容並びに聴聞の期日及び場所を公示することとしたこと。

・第3項

行政手続法の特例として、聴聞の審理は公開により行われなければならないこととしたこと。

③ 第85条の2関係

現行法の第85条において聴聞を行うこととなっている不利益処分に該当しない各種措置については、行政手続法上の聴聞と区別するため、用語を従来の「聴聞」から「意見の聴取」に改め、従来どおりの手続を行うこととしたこと。

④ 第85条の3～第85条の5関係

現行法では、特定の意義申立の決定に際し聴聞を行うこととしているが（第85条の3）、行政手続法上の聴聞と区別するため、用語を従来の「聴聞」から「意見の聴取」に改め、従来どおりの手続を行うこととしたこと。

⑤ 第99条第2項関係

機関委任事務に係る処分、行政手続法上の聴聞の規定の適用のあるものに関する部分を削除するとともに、不利益処分に該当しない各種措置に関する部分について、第85条の2の改正に伴い、規定の整理を行うこととしたこと。

⑥ 第103条第4項関係

届出等の到達時期に関しては、行政手続法第37条に同趣旨の規定があるため、これを削除することとしたこと。

ただし、行政手続法第37条に規定されていないもの（報告、申出及び指定書の返付）についても、同条を

準用させることとする。

3 文化財保護法の規定による処分等に関する聴聞及び不服申立規則の一部改正について

(1) 概要

行政手続法、行政手続法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律及び文部省聴聞手続規則の施行に伴い、行政手続法及び文部省聴聞手続規則と重複する規定を削除するとともに、文化財保護法上新たに設けられた意見の聴取に関する規定を加えたこと。

(2) 主な改正の内容

主な改正の内容は、以下のとおりであること。

- 意見の聴取の手続に関する規定を加えたことに伴い、題名の改正を行ったこと。
- 聴取手続については、行政手続法及び文部省聴聞手続規則によることとし、聴聞の続行の場合の公示の規定等特例のみを規定したこと。
- 行政手続法では、不利益処分とされていない各種措置の施行のうち、文化財保護法により聴聞を行うとされていたものについては、行政手続法上の聴聞と区別するため、用語を従来の「聴聞」から「意見の聴取」に改めるとともに、当該手続に関する章を設け、当該手続については、従来どおりの手続きとしたこと。

2. 文化庁通知「都道府県教育委員会への権限の委任について」

庁保記第34号
平成6年4月25日

各都道府県教育委員会 様

文化庁長官 内田 弘保

都道府県教育委員会への権限の委任について（通知）

貴都道府県の区域内に所在する史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可等に係る文化庁長官の権限については、昭和39年6月27日付け文委庶第44号により、その一部を貴教育委員会に委任しているところですが、このたび、当該通知を改正し、平成6年7月1日以降、下記の権限を貴教育委員会に委任します。

記

- 1 昭和39年6月27日付け文委庶第44号（以下「通知」という。）3イ中「建築面積70平方メートルをこえない新築、増築又は改築」を「新築、増築又は改築で建築面積（増築又は改築にあつては、増築又は改築後の建物全体の建築面積）が120平方メートルを超えないもの」に改める。
- 2 通知3ハ中「20日」を「90日」に改める。
- 3 通知3チ中「ト」を「リ」に改め、チをヌとし、トをリとし、への次に次のように加える。
ト 天然記念物に指定されている野生の動物で、文化財保護法第80条第1項の規定により文化庁長官の許可を受けて飼育し、又は飼育下で繁殖した個体の国内における90日を超えない期間の一時的移動
チ 天然記念物に指定されている野生の動物の保護又は危険防止のために緊急に必要とされる捕獲又は捕獲した個体の1年を超えない期間の飼育

3. 文化庁通知「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準の一部改正について」

庁保記第143号

平成7年3月6日

各都道府県教育委員会教育長 殿

文化庁次長 林田英樹

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準の一部改正について（通知）

このたび、別記のとおり、特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準（昭和26年文化財保護委員会告示第2号）の一部が改正され、平成7年3月6日付けで官報告示されました。今回の改正は、平成7年1月20日に取りまとめられた「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議報告〔記念物分科会関係〕」を踏まえたものです。今後、国の史跡指定は、改正後の指定基準に基づき行われることとなりますので、事務処理に遺漏のないようよろしくお取り計らい願います。

おって、このことについて、管下市（区）町村教育委員会に対してもその趣旨の徹底方よろしく願います。

○文部省告示第二十四号

昭和二十六年文化財保護委員会告示第二号（国宝及び重要文化財指定基準並びに特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準）の一部を次のように改正する。

平成七年三月六日

文部大臣
与謝野 馨

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準のうち史跡を次のように改める。

史跡

左に掲げるものうち我が国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値あるもの

- 一 貝塚、集落跡、古墳その他この類の遺跡
- 二 都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡
- 三 社寺の跡又は旧境内その他祭祀信仰に関する遺跡
- 四 学校、研究施設、文化施設その他教育・学術・文化に関する遺跡
- 五 医療・福祉施設、生活関連施設その他社会・生活に関する遺跡
- 六 交通・通信施設、治山・治水施設、生産施設その他経済・生産活動に関する遺跡
- 七 墳墓及び碑
- 八 旧宅、園池その他特に由緒のある地域の類
- 九 外国及び外国人に関する遺跡

〔参考〕

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準
 (昭和26年5月10日文化財保護委員会告示第2号) 新旧対照表

改 正 前	改 正 後
<p>史 跡</p> <p>左に掲げるもののうちわが国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、且つ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値あるもの</p> <p>一 貝塚、遺物包含地、住居跡（竪穴住居跡、敷石住居跡、洞穴住居跡等）、古墳、神籠石その他この類の遺跡</p> <p>二 都城跡、宮跡、太宰府跡、国郡庁跡、城跡防塁、古戦場その他政治に関する遺跡</p> <p>三 社寺の跡又は旧境内、経塚、磨崖仏その他祭祀信仰に関する遺跡</p> <p>四 聖廟、藩学、郷学、私塾、文庫その他教育学芸に関する遺跡</p> <p>五 菜園跡、慈善施設その他社会事業に関する遺跡</p> <p>六 関跡、一里塚、並木街道、条里制跡、堤防窠跡、市場跡その他産業交通土木に関する遺跡</p> <p>七 墳墓並びに碑</p> <p>八 旧宅、園池、井泉、樹石及び特に由緒のある地域の類</p> <p>九 外国及び外国人に関する遺跡</p>	<p>史 跡</p> <p>(同 左)</p> <p>一 貝塚、集落跡、古墳その他この類の遺跡</p> <p>二 都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡</p> <p>三 社寺の跡又は旧境内その他祭祀信仰に関する遺跡</p> <p>四 学校、研究施設、文化施設その他教育・学術・文化に関する遺跡</p> <p>五 医療・福祉施設・生活関連施設その他社会・生活に関する遺跡</p> <p>六 交通・通信施設・治山・治水施設、生産施設その他経済・生産活動に関する遺跡</p> <p>七 墳墓及び碑</p> <p>八 旧宅、園池その他特に由緒のある地域の類</p> <p>九 (同 左)</p>

4. 文化庁通知「『近代の文化遺産の保存と活用について（報告）〔記念物分科会関係〕』の送付について

庁保伝第55号
平成7年1月30日

関係文部省各施設等機関長
関係文化庁各施設等機関長
各都道府県・指定都市教育委員会
日本芸術文化振興会
国立大学協会 殿
公立大学協会
日本私立大学団体連合会
文化財保護関係団体

文化庁文化財保護部長
大澤 幸夫

「近代の文化遺産の保存と活用について（報告）〔記念物分科会関係〕」の送付について
（通知）

文化庁では、近年における社会経済情勢の変化に伴い大きな課題となっている近代の文化遺産の適切な保護を図るため、その保存と活用の在り方について調査研究を行うことを目的に、「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」を設置し、調査研究を進めてきており、このたび、「近代の文化遺産の保存と活用について（報告）〔記念物分科会関係〕」がとりまとめられました。

ついては、御参考までに上記の報告を送付しますので、よろしくお取り計らいください。

近代の文化遺産の本と活用について（報告） 〔記念物分科会関係〕

平成7年1月20日
近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議

近年の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議は、近年における社会経済情勢の変化に伴い大きな課題となっている近代の文化遺産の適切な保護を図るため、その保存と活用の在り方について調査研究を行うことを目的に、平成6年9月1日に設置され、記念物、建造物、美術・歴史資料お飛び生活文化・技術の4分科会を置き、調査研究を進めてきている。

このたび、記念物分科会における4回の検討を踏まえ、近代の遺跡の保護に関する調査研究結果を取りまとめたので、ここに報告する。

1 近代の遺跡の保護の在り方に関する検討の視点

(1) 近代の遺跡の保護の必要性

国は、遺跡のうち、学術的な調査研究により歴史的な評価が確定した重要なものから史跡に指定しているが、現在のところ、近代の遺跡については、明治中頃以降のものは指定していない状況にある。

しかしながら、近代の遺跡の中には、既に相当の年数を経て、その歴史的な重要性についての認識がある程度定まっているものも多い。また、近代の遺跡の所在地は現代の生活が営まれている場所と重なっている場合が多いことなどから、土地利用の改変や都市の再開発等に伴い、損壊されるものも少なくない。このため、我

が国の近代の歴史を理解する上で欠くことのできない重要な遺跡の適切な保護が急務となっている。

(2) 近代の遺跡の特質と検討の視点

近代の遺跡は、それ以前の遺跡に比して、

- ア 多様で、多数かつ大規模な遺跡が存在すること
 - イ 歴史事象の意義について対立する多様な見解が存在したり、遺跡の保護について国民的合意が得られにくいものもあること
 - ウ 現存する特定の個人・団体・思想・宗教が関係しているため、史跡指定によって国や地方公共団体が関与することが不適切なものもあること。
 - エ 現在も機能を失わず使用されていること等のため、現状の恒久的な保存が社会的・技術的に著しく困難なものもあること
- 等の種々の特質を有していると考えられる。

このため、近代の遺跡の保護を推進するに当たっては、史跡指定の対象とすべき遺跡の時期、対象とすべき遺跡の分野、対象とすべき遺跡の選択に当たっての基準・考慮要件など、近代の遺跡の特質を踏まえた史跡指定の在り方について検討する必要がある。

2 近代の遺跡の保護の指針等

(1) 対象とすべき時期

史跡指定の対象とすべき遺跡については、その遺跡に関する歴史事象の重要性及び保護の必要性が十分に認識されている必要があり、通常、これらの認識が広く一般に定着するには、一定の時間の経過が必要であると考えられる。

このような観点から、史跡指定の対象とすべき近代の遺跡の時期について検討すると、当面、第二次世界大戦終結頃までとするのが適当と考えられる。ただし、産業・科学技術等、改変の速度が速い分野のもので、保存の緊急性が高いものについては、別途考慮する。

(2) 対象とすべき遺跡

① 分野

政治、経済、文化、社会等あらゆる分野における重要な歴史的遺跡を選択することが適当と考えられる。分野別に例示すると次のとおり。

- 政治（立法、行政、司法、外交、軍事、政治運動等）
- 経済（諸産業、金融、土木、建築、交通、通信等）
- 文化（学術、芸術、教育、宗教、情報伝達等）
- 社会（生活様式、都市計画、保健・衛生、福祉、社会運動等）

② 選択の基準

現行の指定基準（特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準〔昭和26年5月10日文化財保護委員会告示第2号〕）では、「我が国の歴史の理解のために欠くことができず、学術上価値あるもの」を史跡に指定することとしている。これは、史跡指定の目的とその対象の意義付けの点において、特に時代を限定したものではなく、先史以来のいずれの遺跡についても適用されるべき基準である。

このため、近代の遺跡についても、この基準によることが適当であり、この基準の具体化として、次の2点を充たす必要がある。

ア 我が国の近代史を理解する上で欠くことのできない遺跡であって、国として保護する必要のあるものであること。

イ 遺跡が歴史上の重要性をよく示しており、学術上価値の高いものであること。

③ 選択の際の考慮要件

上記の選択の基準に則り選択を行う際の考慮要件を列挙すると、以下のとおりである。

- ア 歴史事象とそれを表象する遺跡とが直接に又は密接に関係していること。
- イ 同種の遺跡が複数ある場合には、全国の見地から注目すべきものであること。
また、その場合、当該歴史事象に関する資料等の保存状況についても、勘案するものとする。
- ウ 当該遺跡が歴史的に重要で保護を要するものであるという点について相当の評価が定まっており国民的理解が得られやすいものであること。
- エ 宗教に関する遺跡については、特定の関係者・団体を顕彰するなど、これらに特別の利害を生ずる結果となるおそれがあることにかんがみ、慎重に取り扱うものとする。
- オ 個人に関する遺跡については、当該個人を顕彰するなど、関係者に特別の利害を生ずる結果となるおそれがあることにかんがみ、慎重に取り扱うものとする。

④ 現行指定基準との関係

上記①から③を踏まえ、現行指定基準を適切に見直すことが必要である。

(3) 保存の活用の在り方

近代の遺跡の中には現在も機能を失わないで使用されているものもあり、遺跡の保存と活用について多様な柔軟な手法を考える必要がある。

特に、史跡指定された遺跡の現状変更規制、修理、活用等については、個々の遺跡の状況に応じた柔軟な対応が必要であり、また、史跡指定に当たっては、当該遺跡の指定後の保護・管理について、所有者、関係地方公共団体、文化庁等の間で事前に十分な意見調整を行い、当該遺跡の「保存管理方針」を合意しておく必要がある。

なお、近代に係る埋蔵文化財の発掘調査については、当面、特に必要と考えられる場合に行うものとする。

(4) 今後の課題

近代の遺跡の遺存状況については、現段階では、文化庁、地方公共団体いずれにおいても十分には把握していない。このため、今後、近代の遺跡の保護を推進するに当たっては、近代の遺跡の遺存状況についての全国的調査を実施する必要がある。

また、国による史跡指定と並行して、地方公共団体による積極的な保護措置の推進を図る必要がある。

さらに、史跡に指定する遺跡と関係する資料については、併せて保存の措置を講じ、総合的な保護を図る必要がある。

近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者名簿

近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者名簿
記念物分科会

	氏名	役職
	石井 寛治	東京大学教授
【座長代理】	石井 進	国立歴史民俗学博物館長
	伊理 正夫	中央大学教授
	加藤 秀俊	放送教育開発センター所長
	加戸 守行	日本芸術文化振興会理事長
【座長】	河合 隼雄	前国際日本文化研究センター教授
	小林 陽太郎	富士ゼロックス会長
	杉田 繁治	国立民族学博物館教授
	中根 千枝	東京大学名誉教授
	尾藤 正英	川村学園女子大学教授
	本間 長世	東京女子大学教授
	村松 貞次郎	法政大学教授
	安岡 昭男	法政大学教授

(敬省略)

	氏名	役職
	浅井 清	お茶の水女子大学教授
	朝尾 直弘	京都大学教授
	加藤 陽子	東京大学助教授
	佐々木 潤之介	神奈川大学教授
	鈴木 博之	東京大学教授
	高村 直助	東京大学教授
	鳥海 靖	中央大学教授
【副主査】	中岡 哲郎	大阪経済大学教授
	新谷 洋二	日本大学教授
【主査】	尾藤 正英	川村学園女子大学教授

(敬省略)

5. 文化庁依頼「埋蔵文化財発掘調査報告書の抄録作成について」

資料 1

埋蔵文化財発掘調査報告書の抄録作成について

文化庁文化財保護部記念物課

近年、全国で実施される発掘調査件数は年間9000件近く、毎年刊行される発掘調査報告書も膨大な数にのぼっています。ちなみに1988年度の発掘調査報告書刊行数は、全国で2167冊に達するという調査結果が得られており、おそらく昨今の年間報告書刊行数は、2500冊近いものと予測されます。また、過去に刊行された報告書の累積数は数万冊に及ぶものと推定されます。

こうした状況は、埋蔵文化財に関する情報収集、資料検索など、データの集積と活用に困難さをもたらせており、全国各地で蓄積された発掘調査成果の有効活用を図る上で、埋蔵文化財発掘調査報告書データベース構築の必要性が痛感されているところです。

文化庁も平成元年に「全国文化財情報システム調査研究会」を発足し、全国文化財データベースの構築計画に着手しましたが、現在、その第一歩として、実状に応じた文化財の基礎データの整備作業を進めているところです。特に不動産文化財のうちの遺跡部門では奈良国立文化財研究所と全国の教育委員会有志の参加によるワーキンググループの手で、不動産文化財データベース構造の細部の検討がなされ、遺跡データを入力するためのプログラムが作成されています。（その内容に関しては、1992年9月1日の「埋蔵文化財ニュース」75号『全国文化財データベースについて』を参照のこと）

こうした中、平成3年の関東甲信越静岡ブロック埋蔵文化財担当者会議において、報告書のデータベース化に向けた報告書抄録作成の提案があり、文化庁の不動産文化財データベースの文献情報データベースとの整合性を検討した結果、全国で共通使用が可能な抄録の様式案を作成することができました。この抄録は、図書カードやデータベースの作成に最低限必要な事項（共通項目）を抽出したもので、データベース作成の基礎となるデータシートとしての利用を目的としています。そこで平成4年5月に全国都道府県にこの抄録様式案を提示し、抄録作成に関する意見を聴取すると共に、書式の体裁や項目の検討を依頼しました。

その結果、全国から趣旨に対する全面的賛同が得られるとともに、書式の項目に関しても多くの意見が寄せられました。それらの意見をもとに、再度文化庁で書式や項目の検討を行いました。基本的には前回提示した様式案の部分的な修正で実施可能という結論に達しましたので、平成6年1月14日開催の「記念物保護行政担当者会議」において、新様式案を提示し、趣旨・内容説明を行い、その実施に向けた協力を依頼しました。

担当者会議では具体的な実施時期を明示しませんでした。市町村や関係機関にもこの趣旨の理解を求め、条件の整ったところから順次、この様式に添う形で抄録掲載を実施するようお願いします。またその徹底を図る上で、地方公共団体とその関係機関以外が行う発掘調査に関しても、57条の発掘届の受理時などに、届出者にその趣旨の説明を行い、協力が得られますようご尽力願います。

なお、報告書抄録の必要性に関しては、既に多くの研究者からの提言がありますが、地方公共団体とその関係機関が実施する発掘調査が、全国の発掘調査件数の9割近くを占めること、また埋蔵文化財保護行政の一層の充実と発展のために、全国共通の書式が望ましい点を配慮し、文化庁が実現への協力を要請するものであります。

蓄積された発掘調査成果が、今後の調査・研究・文化財保護行政により有効に反映されますよう、よろしく趣旨を御理解の上、御協力をお願い申し上げます。

報告書抄録（記載様式案）

ふりがな								
書名								
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名								
編集機関								
所在地	〒 都道府県				TEL			
発行年月日	西暦 年 月 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯 °、′、″	東経 °、′、″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		

報告書の抄録《記載上の注意》

文化庁記念物課

1-1	ふりがな	書名にふりがなを付す。読みはひらがなを原則とするが、かたかなでも可。ローマ数字、括弧付き数字、丸付数字などは全て算用数字に替えて記入する。
1-2	書名	主たる書名を記入する。できるだけ遺跡名が入った部分を書名として捨てること。特に書名がなくシリーズ名の場合は、本欄にもシリーズ名を記入すること。
1-3	副書名	主たる書名以外に副題がある場合は、その副題を記入する。
1-4	巻次	副書名がシリーズ名の場合、その巻次を記入する。
1-5	シリーズ名	書名とともにシリーズ名がある場合、そのシリーズ名を記入する。
1-6	シリーズ番号	そのシリーズの巻次を記入する。
1-7	編著者名	主たる執筆者から順次記入する。
1-8	編集機関	編集機関を記入する。
1-9	所在地	編集機関の所在地と電話番号を記入する。郵便番号も記入のこと。
1-10	発行年月日	発行日を西暦で記入する。編集機関と発行機関が異なる場合には発行年月日の前に発行機関の項目を設ける。
2-1	所収遺跡名	掲載遺跡名を記入する。必ずふりがなをつけること。
2-2	所在地	遺跡所在地を都道府県以下、大字程度まで記入する。ふりがなを付し、「町」や「村」もそれが「ちょう」「そん」と読むのか「まち」「むら」なのか、分かるようにふりがなを付ける。広範囲にわたる遺跡の場合、掲載調査区が属する主たる所在地名を記入する。
2-3	市町村コード	遺跡の所在する市区町村を、自治省が定めた「全国地方公共団体コード」により都道府県コード+市区町村コードの5桁で記入する。J I Sコードと同じ。
2-4	遺跡番号コード	市区町村別の遺跡コードを記入する。未決定の場合は、空欄とする。各市区町村内で同一コードが複数の遺跡に重複せぬよう留意すること。
2-5,6	北緯・東経	遺跡のほぼ中心と思われる位置を度分秒の単位で記入する。国土地理院2万5千分の1地形図等を利用して算出する。
2-7	調査期間	西暦で記入する。調査期間は実際の発掘調査期間とし、整理期間は含めない。調査が数次にわたる場合、分けて記入する。
2-8	調査面積	調査対象面積ではなく実際の発掘面積を平方メートル単位で記入する。
2-9	調査原因	発掘調査の原因を記入する。（発掘届の原因を参考）
3-2	種別	掲載遺跡についてその種別を以下を参考にして記入する。「集落・洞穴・貝塚・宮都・官衙・城館・交通・窯・田畑・製塩・製鉄・その他の生産遺跡・墓・古墳・横穴・祭祀・経塚・社寺・散布地・その他」
3-3	主な時代	各遺跡の主たる時代を記入する。細別時期・世紀が判明する場合併記も可。
3-4	主な遺構	各遺跡で検出された主な遺構と遺構数を記入する。
3-5	主な遺物	各遺跡で検出された主な遺物について記入する。可能ならその数量も記入。
3-6	特記事項	調査結果、遺跡の性格など、特記すべき事項を簡略にまとめて記入する。

報告書抄録 記載例 1

ふりがな	へいじょうきょうきょうはちじょうじゅうさん・じゅうよんつぼはっくつちようさほうこく								
書名	平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告								
副書名									
巻次									
シリーズ名	奈良国立文化財研究所学報								
シリーズ番号	第46冊								
編著者名	千田剛道・町田章・服部伊久男・本中真・島田敏男・松村恵司・井上和人・館野和己・杉山洋・小林謙一								
編集機関	奈良国立文化財研究所								
所在地	〒630 奈良県奈良市二条町2丁目9-1					TEL 0742-34-3931			
発行年月日	西暦 1989年 3月 30日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
	所在地	市町村	遺跡番号						
へいじょうきょう 平城京	からけんじうりやまし 奈良県大和郡山市 くじょうちよう 九条町	29203	-	34度 40分 15秒	135度 47分 50秒	市調査分 19841219～ 19850218	890	市北部清 掃センタ ー周辺整 備に伴う 事前調査	
						156-32次 19850220～ 19850302			324
						168 次南 19850710～ 19851004			2200
						168 次北 19851004 19860127			2900
						179 次 19861107～ 19861226			1100
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
平城京	宮都 生産遺跡	奈良時代前半	掘立柱建物 62棟 井戸 8基 塀 19条 溝 21条 その他 土坑 道路 など	土師器、須恵器、陶 硯、瓦、銭貨(和銅 開珎・万年通寶・神 功開寶・富本銭)、 木簡、櫛、鑄造具 (埴塼・羽口・帯金 具未製品・銅滓・砥 石・鉄鉗・鉄杓子)、 漆工具(漆容器・漆 紙文書・漆容器栓) 帯金具、海獣葡萄鏡 銅鈴、ガラス小玉、 ガラス埴塼、水晶、 石帯、二彩小壺、墨 書土器、羊形硯・統 一新羅陶器	平城京に設けられ た官營の鑄銅・漆 工工房とそれに伴 う官衙を確認。大 蔵省管下の工房群 か。 奈良時代後半には 宅地となり、1/16・ 1/32町の小規模宅 地を確認。 袍衣壺と地鎮具の 埋納遺構を発見。 奈良時代の厭勝銭 (富本銭)の存在 を初めて確認。				
		奈良時代後半	掘立柱建物 40棟 井戸 9基 塀 26条 溝 6条 その他 土坑や土器 埋納遺構、道路など						

報告書抄録 記載例 2

ふりがな	しわやろっばんまつおつせき							
書名	志波屋六本松乙遺跡							
副書名	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	13							
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第103集							
編著者名	高瀬哲郎・家田淳一・立石泰久・松下孝幸・分部哲秋							
編集機関	佐賀県教育委員会							
所在地	〒840 佐賀県佐賀市内1丁目1-59					TEL 0952-25-7232		
発行年月日	西暦 1991年 3月 29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°	°			
しわやろっばんまつおつ 志波屋六本松乙	さがけん かんざきぐん 佐賀県神埼郡 かんざきまちおおあざしわや 神埼町大字志波屋 あざろっばんまつ 字六本松	41321	-	33度 20分 15秒	130度 21分 40秒	19820423 ～ 19820623	2,000	道路（九州横断自動車道）建設に伴う事前調査
ゆくわ 的	かんざきぐんかんざきちやう 神埼郡神埼町 おおあざゆくわあざごほんくろき 大字的の字五本黒木	41321	1008	33度 20分 30秒	130度 21分 25秒	19821014 ～ 19830210	8,200	同上
かみしわや 上志波屋	かんざきちやう おおあざしわや 神埼町大字志波屋 あざよんほんまつ 字四本松	41321	2007	33度 20分 50秒	130度 22分 55秒	19810119 ～ 19810331	7,700	同上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
志波屋六本松乙	墓 古墳	弥生 古墳	甕棺墓 85基 土坑墓 13基 石棺墓 1基 古墳 1基 石棺墓 1基	甕棺・壺棺 154 鉄剣 1・刀子 1 碧玉製管玉 1 土師器壺 2 刀子 1		弥生人骨39体遺存 残存率 39%		
的	集落跡 墓	弥生 中世 近世	竪穴住居 15軒 甕棺墓・土坑墓 溝 掘立柱建物 2棟 井戸・溝	弥生土器 石器 染付皿・瓦器 唐津系陶器・磁器 鉄器		縄文から近世までの複合遺跡。縄文の遺構はなし。		
上志波屋	古墳	古墳	古墳 1基	須恵器・土師器 鉄器・装身具		20基からなる古墳群の中の1基		

全般的注意事項

- ・報告書抄録は、原則として発掘調査報告書作成者が、報告書に記された遺跡・調査・内容に関する情報と書誌情報を、本様式、書式に従って抄録し、報告書中に掲載するものとする。
- ・抄録は報告書巻末への掲載を原則とするが、例言や凡例の後、奥付、裏表紙などの余白利用でも可。本文目次に抄録の掲載例や位置を明記することが望ましい。
- ・所収遺跡数が多い場合は複数頁を使用する。その場合、適宜書式を変更するなど極力使用頁数の節約を図る工夫をすること。
- ・抄録の報告書掲載が不可能な場合は、ワープロ作成資料などのコピーを添えて代替すること。
- ・追加項目として「調査主体、資料の保管場所、書誌的情報（報告書頁数・版）」など独自に必要な項目を加えたり、副書名やシリーズ名がない場合は不要項目を削除してもよい。ただし報告書の版サイズにかかわらず、できるだけ記載様式の統一性を維持するよう努めること。

6. 県、市町村別の発掘調査件数および面積の実績

(昭和45～63年分は『三重県埋蔵文化財センター年報4』参照)

		県 関 係				市 町 村 関 係							合 計	
		農業基盤整備等	道路・河川等	その他	小 計	土地改良等	道路・河川等	ゴルフ場	団地・個人住宅	工場造成地	土取り等	その他		小 計
平成 元 年度	件数	33	21	1	55	3	12	1	13	4	3	15	51	106
	面積	33,300	80,400	4,400	118,100	1,800	15,900	300	30,500	6,800	3,400	16,200	74,900	193,000
平成 2 年度	件数	30	32	1	63	9	9	2	20	10	5	13	68	131
	面積	33,300	53,700	4,300	91,200	16,900	19,700	3,500	27,900	15,400	8,000	17,300	108,000	199,900
平成 3 年度	件数	28	15	1	44	9	14	2	40	13	0	14	92	136
	面積	29,300	24,700	4,000	58,000	13,700	10,100	10,200	51,800	12,400	0	9,800	108,000	166,600
平成 4 年度	件数	44	41	9	94	6	13	4	38	17	3	28	109	203
	面積	29,800	24,000	4,000	57,800	13,700	14,000	15,600	15,400	45,200	500	8,000	112,400	170,200
平成 5 年度	件数	63	51	15	129	15	12	0	29	7	3	35	101	230
	面積	25,300	33,500	6,200	65,000	15,200	13,300	0	20,000	22,000	200	20,000	90,700	155,700
平成 6 年度	件数	66	63	12	141	10	14	0	31	3	8	37	103	244
	面積	29,642	40,373	8,965	78,980	24,347	8,651	0	13,788	830	440	20,511	68,567	147,547

※同一遺跡を調査した場合でも、調査期間・原因が異なる場合は別件とした。

7. 平成6年度 新発見遺跡一覧

県（埋蔵文化財センター）調査分

No.	遺跡名	種類	時期	所在地	発見の経緯
1	仮) 上田新田遺跡	散布地	古墳～中世	鈴鹿市上田町上田新田	分布調査（畜産環境事業）
2	仮) 北畑遺跡	散布地	縄文～中世	鈴鹿市西庄内町	分布調査（道路改良事業）
3	仮) 門山遺跡	散布地	中世	鈴鹿市平野町	分布調査（道路改良事業）
4	西浦遺跡	散布地	弥生	鈴鹿市西富田町字西浦	試掘（県営ほ場整備事業）
5	畑田遺跡	散布地	古墳～中世	鈴鹿市東庄内町北条字畑田	試掘（畜産環境事業）
6	上田遺跡	散布地	古墳～中世	亀山市安知本町字上田	分布調査（畜産環境事業）
7	上田遺跡	散布地	古墳～中世	亀山市安知本町字上田	分布調査（道路改良事業）
8	寺野遺跡	散布地	室町～	久居市榑原町字寺野	分布調査（県営ほ場整備事業）
9	前田遺跡	散布地	中世	一志郡三雲町星合	分布調査（道路改良事業）
10	大明神遺跡	散布地	中世	一志郡三雲町星合	分布調査（道路改良事業）
11	南浦遺跡	散布地	中世	一志郡三雲町小野江	分布調査（道路改良事業）
12	綾垣内遺跡	集落跡	中世	松阪市清水町字綾垣内	試掘（県営ほ場整備事業）
13	井出ノ里遺跡	散布地	中世	松阪市井口中町字井出ノ里	試掘（県営ほ場整備事業）
14	外揚遺跡	散布地	中世	松阪市稲木町字外揚	分布調査（県営ほ場整備事業）
15	古垣内遺跡	散布地	中世	松阪市稲木町字古垣内	分布調査（県営ほ場整備事業）
16	世間山遺跡	散布地	中世	松阪市横地町字世間山	分布調査（県営ほ場整備事業）
17	瀬丁遺跡	集落跡	奈良～平安	松阪市清水町字瀬丁	試掘（県営ほ場整備事業）
18	折坂遺跡	散布地	中世	松阪市伊勢場町字折坂	分布調査（県営ほ場整備事業）
19	銭掛松遺跡	散布地	中世	松阪市清水町字銭掛松	分布調査（県営ほ場整備事業）
20	倉垣内遺跡	散布地	中世	松阪市櫛田町字倉垣内	分布調査（県営ほ場整備事業）
21	大蓮寺遺跡	散布地	中世	松阪市櫛田町字栗田・塔之本	分布調査（県営ほ場整備事業）
22	池ノ田遺跡	散布地	中世	松阪市稲木町字池ノ田	分布調査（県営ほ場整備事業）
23	東浦遺跡	散布地	中世	松阪市清水町字東浦	分布調査（県営ほ場整備事業）
24	北ノ垣内遺跡	集落跡	古墳～	松阪市清水町字北ノ垣内	試掘（県営ほ場整備事業）
25	北浦遺跡	散布地	中世	松阪市清水町字北浦	分布調査（県営ほ場整備事業）
26	堀田遺跡	散布地	中世	松阪市稲木町字堀田	分布調査（県営ほ場整備事業）
27	柳辻遺跡	散布地	室町	松阪市櫛田町字柳辻	試掘（県営ほ場整備事業）
28	角垣内遺跡	集落跡	中世	多気郡明和町養村字角垣内	試掘（県営ほ場整備事業）
29	鐘突遺跡	集落跡	中世	多気郡明和町上野字鐘突	試掘（県営ほ場整備事業）
30	中島遺跡	散布地	中世	多気郡明和町坂本字中島	分布調査（ふるさと農道事業）
31	池ノ下遺跡	集落跡	弥生～平安	多気郡多気町四正田字池ノ下	試掘（県営ほ場整備事業）
32	二ノ久保遺跡	散布地	中世	多気郡多気町四正田	試掘（県営ほ場整備事業）
33	森ノ上遺跡	散布地	中世	多気郡大台町柳原	分布調査（道路改良事業）
34	井尻遺跡	散布地	縄文～	多気郡勢和村波多瀬字井尻	試掘（畜産環境事業）
35	里中遺跡	散布地	中世	度会郡御園村長屋字里中	試掘（ふるさと農道事業）
36	里A遺跡	散布地	中世	度会郡度会町鮎川字里	分布調査（ふるさと農道事業）
37	里B遺跡	散布地	縄文	度会郡度会町鮎川字里	分布調査（ふるさと農道事業）

No.	遺 跡 名	種 類	時 期	所 在 地	発 見 の 経 緯
38	仮) 東代古墳	古墳	古墳	上野市古郡字東代	分布調査(農免道路事業)
39	仮) 南山7号墳	古墳	古墳	上野市古郡字南山ノ奥	分布調査(農免道路事業)
40	火山遺跡	集落跡	古墳～	上野市山神字火山	試掘(県営ほ場整備事業)
41	東出南遺跡	散布地	奈良	上野市山神字東出	試掘(県営ほ場整備事業)
42	北出遺跡	集落跡	古墳～	上野市山神字北出	試掘(県営ほ場整備事業)
43	仮) 西田原遺跡	散布地	古墳～	名張市西田原	試掘(道路改良事業)
44	西垣内遺跡	中世墓	中世～近世	阿山郡阿山町御代字西垣内	分布調査(河川改修事業)
45	仮) 伊勢路A遺跡	集落跡	古墳～	名賀郡青山町伊勢路	試掘(県営ほ場整備事業)

各市町村教育委員会調査分

No.	遺 跡 名	種 類	時 期	所 在 地	発 見 の 経 緯
1	金生水遺跡	散布地	縄文～中世	鈴鹿市西条町字金生水	分布調査
2	高田遺跡	散布地・集落跡	平安～近世	鈴鹿市神戸地子町字高田218-2他	試掘調査
3	上垣内遺跡	社寺跡	中世	安芸郡美里村大字北長野1124他	文化財パトロール
4	長尾遺跡	城跡	室町	安芸郡美里村大字北長野字長尾	文化財パトロール
5	日野弥生墳丘墓	墳丘墓	弥生	安芸郡安濃町大字東観音寺字日野丘	試掘調査
6	西五戸古墳群	古墳	古墳	安芸郡安濃町大字草生字西五戸50,50-1,東五戸25-1,25-12	分布調査
7	西相野遺跡	集落跡	縄文・古墳・近世	安芸郡安濃町大字草生字西相野556他	分布調査・試掘調査
8	北奥古墳群	古墳	古墳	安芸郡安濃町大字野口字北奥641	分布調査
9	狐塚古墳	古墳	古墳	安芸郡安濃町大字野口字西谷674-1	分布調査
10	黒石古墳群	古墳	古墳	安芸郡安濃町大字野口字黒石	分布調査
11	旧安養院	社寺跡	平安～中世	安芸郡安濃町大字野口字峯山	分布調査
12	旧龍泉寺跡	社寺跡	平安～中世	安芸郡安濃町大字草生字押場	分布調査
13	常明寺跡	社寺跡	平安～中世	安芸郡安濃町大字草生字古屋敷	分布調査
14	垣鼻古墳群5号墳	古墳	古墳	松阪市田原町字屋敷	分布調査
15	山口遺跡	散布地	古墳	松阪市井口中町字山口13外	試掘調査
16	銚子口遺跡	その他の墓	中世	度会郡玉城町佐田字銚子口677,678	試掘調査
17	春日山城	城跡	室町	阿山郡伊賀町川東字春日山	文化財パトロール
18	石尾古墳群2号墳	古墳	古墳	阿山郡伊賀町大字下柘植字石尾地内	土木工事中
19	田矢伊予守城跡西出城	城跡	室町	阿山郡阿山町川合字城	文化財パトロール
20	七ヶ城遺跡	古墳・集落	古墳～奈良	名賀郡青山町阿保字沢代332-4他	試掘調査
21	七ヶ城古墳群	古墳	古墳	名賀郡青山町阿保字沢代294-1他	試掘調査

〔付1〕平成6年度 三重県文化財調査員名簿

地区	氏 名	勤 務 地	住 所
北勢	山崎 恒哉 清水 弘之 鎌田 雅生 吉田 利弘 岩脇 彰 川添 護 桐生 定己 野尻 孝一 赤川 一博	桑名北高校 東員第二中学校 菰野中学校 国府小学校 関小学校 桑名高校看護分校 楠中学校	
中勢	河合 良久 服部 健 江尻 儀直 三津 善博 野村 孝 園尻 純子	津東高校 鵜小学校 川口小学校 嬉野中学校	
松阪	榎本 義讓 斎藤 実久 筒井 利安 増田 義博 奥井 武和 三今 岡川 滝川 和也	伊勢寺小学校 飯高西中学校 明和中学校 松阪高校	
南勢 志摩	河北 信幸 中嶋 充生 中西 典正 世古 一芳 村上 喜雄 角上 泰弘 中谷 千鶴 岡馬 一 鈴木 雅文 滝川 和也	小俣中学校 玉城中学校 大宮中学校 宿田曾小学校 甲賀小学校 北浜中学校 皇学館高校	
上野	市田 進一 福井 健二 寺岡 光三 森前 稔正 久保 勝正 谷戸 実明 松月 茂学 杉澤 学 中内 康一 赤川 一博	名張中学校 上野商業高校 すずらん台小学校	
尾鷲	東山 成志 田本 和彦 崎通 雅	尾鷲中学校 長島高校 尾鷲市教育委員会	
熊野	田中 安弘 花尻 薫 古部 均	阿田和小学校 相野谷小学校	

平成6年度

三重県埋蔵文化財年報 6

1995・3

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行

印刷 光出版印刷株式会社
